平成 23 年度 教師海外研修(北海道地域) 実践報告書集

研修国: スリランカ民主社会主義共和国



JICA LIBRARY 1208620[3]



独立行政法人 国際協力機構 北海道国際センター(JICA 北海道)



目次

1.	参加者名	簿	•	•	•	•	=	•	*	•	ı	•	•			•		•	•		•	1
2.	教師海外 研修の 研修の	目的		は		•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•				•	2
3.	研修国概	要	•	•	•		•	•	•	•				•	•	•	•		•	•	•	4
4.	研修日程			•	•			•	•		•	•				•	•	•	•	•	•	5
5.	研修日誌			•	•		•	•		•	•	•				٠	•	•	•	•		6
6.	実践報告	書						•		-	•									•		15
	佐々木	知	成	(岩	見	沢	市	立	北	真	小	学	校)							17
	住野谷	彩		(別	海	町	立	別	海	中	央	/J\	学	校)						25
	寺島	徳巳		(枝	幸	町	立	枝	幸	小	学	校)								37
	水内	幸恵		(帯	広	市	立	稲	田	小	学	校)								43
	競	達也		(千	歳	市	立	富	丘	中	学	校)								49
	菅谷	昌弘		(北	海	道	教	育	大	学	付	属	札	幌	中	学	校)			56
	谷崎	城		(音	更	町	立	下	音	更	中	学	校)							62
	前川	茂		(干	歳	市	立	富	丘	中	学	校)								70
	鷲田	麻貴		(Ŧ	歳	市	立	北	斗	中	学	校)								75
	神田	大介		(北	海	道	有	朋	高	等	学	校)								82
	佐藤	歩		(札	幌	新	陽	高	等	学	校)									91
7.	資料編		•	•			•	¥			•		•	-		•					ĸ	97
	募集要	項																				99
	派遣前	• •			٠.	•			•	-												105
	平成24	年度		開	発	教	育	支	援	事	業	ス	ケ	ジ	ュ	—	ル					110
	JICA出	海道	(札	幌)		開	発	教	育	支	援	事	業	ഗ	Ĵ	案	内			111

1. 平成23年度 教師海外研修(北海道地域) 参加者名簿

	氏名	学校名	担当教科
1	佐々木 知成 (ささき ともなり)	岩見沢市立北真小学校	全教科 特別支援
2	住野谷 彩 (すみのや ひかり)	別海町立別海中央小学校	全教科
3	寺島 徳巳 (てらしま とくみ)	枝幸町立枝幸小学校	全教科
4	水内 幸恵 (みずうち さちえ)	帯広市立稲田小学校	全教科 特別支援
5	菅谷 昌弘 (すがや まさひろ)	北海道教育大学附属札幌中学校	社会
6	谷崎 城 (たにざき じょう)	音更町立下音更中学校	数学
7	前川 茂 (まえかわ しげる)	千歳市立富丘中学校	理科
8	鷲田 麻貴 (わしだ まき)	千歳市立北斗中学校	英語
9	神田 大介 (かんだ だいすけ)	北海道有朋高等学校	情報・商業
10	佐藤 歩 (さとう あゆみ)	札幌新陽高等学校	英語

 1
 大津 和子 (おおつ かずこ)
 開発教育ファシリテーター 北海道教育大学教授 (副学長)

 2
 競 達也 (きそう たつや)
 JICA北海道 市民参加協力課

 3
 田中 直樹 (たなか なおき)
 JICA北海道 市民参加協力調整員

 4
 澤村 真理子 (さわむら まりこ)
 +勝毎日新聞 社会部 記者

2. 教師海外研修とは

1) 研修の目的

JICA は国際協力事業を通じて培った経験や人材、ネットワークを活用し、諸外国との関係や異文化理解等、近年ますますグローバル化する我が国の教育活動に対して積極的に協力していきたいと考えています。

本研修は、国際理解教育や開発教育に熱心に取り組んでいる小学校、中学校、高等学校等の先生方を対象に、開発途上国が置かれている現状や日本との関係及び国際協力についての関心を深め、次代を担う児童・生徒の育成にその成果を役立てていただくことをねらいに実施しています。半年間にわたる派遣前研修、海外研修、帰国後研修の一連の研修をとおして、開発教育/国際理解教育の実践に必要なノウハウと、開発途上国の教育現場の訪問や国際協力の現場を視察する機会を提供し、授業実践のための教材作りをサポートします。

研修参加後には各参加者が地域の教育現場で国際理解教育や開発教育を推進する中核を 担う人材となることで、さらなる裾野の拡大が進み、北海道における国際理解教育/開発教 育がより一層発展することを願っています。

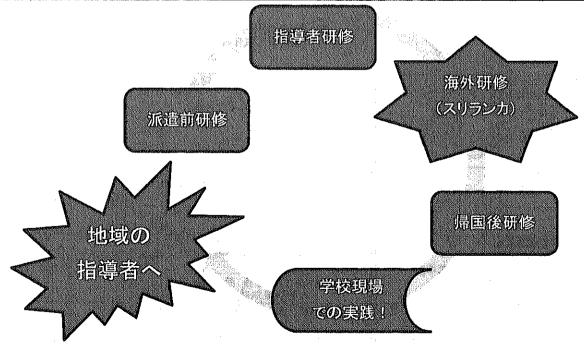
2) 研修の流れ

海外研修の効果を高めるため、訪問国への理解を深めるための情報提供等を目的とした2 回の派遣前研修と、研修の成果を活かした実践的な授業案作りを目的とした2回の帰国後 研修を実施しています。またこれらの研修と開発教育/国際理解教育指導者研修とを組み合 わせて実施することにより、授業づくりに必要な手法の習得や研修成果の発表の機会を提 供し、他の教員とも共有することで実践者のネットワーク作りを進めています。



平成23年度 教師海外研修 スケジュール

The state of the s	場所	■ 程	內 容
第1回 派遣前研修	JICA礼幌	平成23年10月9日(土)	研修日程説明、スリランカの基本情報共有、昨年度参加者による体験談発表等
第2回 派遣前研修	JICA札幌	平成23年11月18日(金)	渡航手続、現地での活動準備、 役割分担の確認等
開発教育/ 国際理解教育 指導者研修	JICA札幌 または JICA帯広	札幌: 平成23年11月19日(土) ~11月20日(日) 帯広: 平成23年12月27日(火)	・開発問題に関する情報収集と それを基にした授業・単元案づ ぐり ・開発教育/国際理解教育教材の 体験と分析等
海外研修	スリランカ 民主社会主義 共和国	平成24年1月4日(水) ~1月15日(日)	学校訪問・交流、青年海外協力 隊員等の活動視察・意見交換、 JICAプロジェクト現場の視察等
研修報告書 提出締切	\$ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\	平成24年1月31日(火)	スリランカ研修の概要と所感の 報告:(1)
第1回 帰国後研修	JICA礼幌	平成24年2月18日(土) ~2月19日(日)	モデル授業案作成に向けた準備 作業
第2回 帰国後研修	JOA札幌	平成24年3月3日(土)	モデル授業案の発表(模擬授業 形式)、参加者間の意見交換 ※第3回開発教育/国際理解教育 指導者研修と連動
研修報告書 提出締切		平成24年8月1日(水)	研修を踏まえた授業実践の報告



3. 研修国概要

スリランカ民主社会主義共和国

首 都:スリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ

言語:シンハラ語、タミル語等

宗 教:仏教、ヒンドゥー教、イスラム教、キリスト教

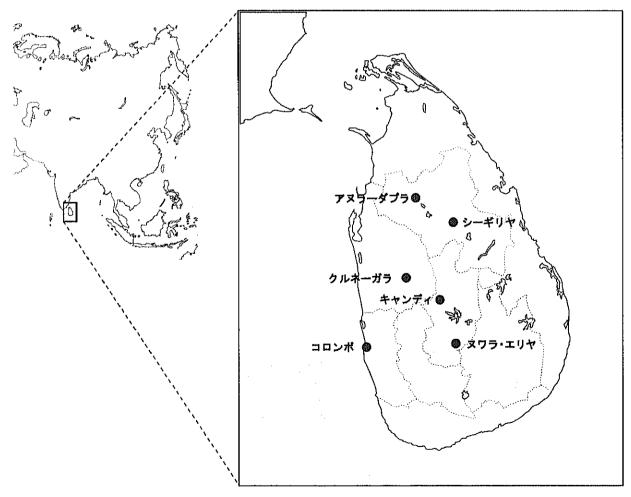
民 族:シンハラ人 (74%)、タミル人 (18%) 等による多民族国家

面 積:約6万5,607km² (北海道の8割)

人 口:2,006 万人(2008年)

一人あたり GNI: 1,790 ドル (2008年)

1948年にイギリスからセイロン自治領として独立、1978年から現在の国名となった。インド洋に位置する島国で、モンスーンの影響を受けた高温多湿の気候。主要産業は農業と繊維産業で、茶、ココナッツ、天然ゴムなどを生産し、輸出している。民族対立による内戦が2009年に終結し、現在は復興への途上にある。



4. スリランカ研修日程

日付	曜日	<u> </u>	宿泊地	視察内容・目的
1月4日	水	新千歳空港集合 新千歳空港発(NH2154) 成田空港着	成田	
1月5日	木	成田空港発 (SQ637) シンガポール(チャンギ空港) 着 シンガポール(チャンギ空港) 発 (SQ468)	コロンボ	
1月6日	金	スリランカ(バンダラナイケ空港)着 JICA事務所訪問、各種ブリーフィング 昼食 【National Institution of Education訪問】	コロンボ	JICAIによる援助動向 スリランカの教育事情 滞在中の注意事項など NIE教員養成機関(無償協力)
1月7日	土	コロンボ発 ワラパネ着 【農村での家庭訪問、交流会】 住民とともに昼食 ワラパネ発 キャンディ着	キャンディ	アプカス (NGO) 活動視察 住民との交流・インタ ビュー
1月8日	B	キャンディ発 ヌワラ・エリヤ着 【商業化した紅茶農園視察】ほか 昼食 ヌワラ・エリヤ発 キャンディ着 【ポヤ・デーの仏歯寺見学】	キャンディ	プランテーション 祭り・伝統文化
1月9日	月	【小学校訪問】 嶋JV(北海道出身・環境教育)・竹田JV(環境教育) 昼食 キャンディ市内見学 【キャンディアン・ダンス見学】	キャンディ	隊員活動視察 児童/生徒との交流・インタ ビュー 文化・宗教・歴史
1月10日	火	キャンディ発 クルネーガラ着 【小学校・中学校・高校訪問】 森JV(北海道出身・現職教員派遣・小学校教諭) 金城JV(理数科教育) 昼食 キンブルワナオヤ着 【農村開発支援プロジェクト視察・家庭訪問】 石王JV(北海道出身・経済市場調査) キンブルワナオヤ発 ハバラナ着	ハバラナ	隊員活動視察 児童/生徒との交流・インタ ビュー 隊員活動視察 住民との交流・インタビュー
1月11日	水	「シーギリヤ観光開発プロジェクト視察」 石川JV(観光) 【シーギリヤロック見学】 昼食 シーギリヤ発 アヌラーダプラ着 【寺院等の見学】	アヌラーダプラ	JICAプロジェクト視察 隊員活動視察 文化・宗教・歴史 文化・宗教・歴史
1月12日	木	【幼稚園訪問】 萬JV(北海道出身・幼児教育) 昼食 アヌラーダプラ発 コロンボ着	コロンボ	隊員活動視察 園児との交流
1月13日	金	【メッセワナ女子更正施設】 高田JV(北海道出身・青少年活動) 昼食 在スリランカ日本国大使 表敬訪問 (大使公邸) JICA職員との夕食会 研修成果報告	機中泊	隊員活動視察 交流、インタビュー 大使表敬訪問 研修報告・帰国挨拶
1月14日	±	スリランカ(バンダラナイケ空港)発 (SQ469) シンガポール(チャンギ空港)着 シンガポール(チャンギ空港)発 (SQ012) 成田空港着 成田空港発 (NH2155) 新千歳空港着	JICA札幌 (遠方者)	
1月15日	<u> </u>	遠方者各自帰宅		

5. 研修日誌

【研修概要】

平成23年度の教師海外研修(北海道地域)は、平成24年1月4日から14日(現地滞在は6日~13日)までの11日間で行なわれました。参加した教員は11名です。

スリランカ第一の都市コロンボから、仏歯寺で有名な第二の都市キャンディ、山間の村ワラパネ、紅茶の一大生産地ヌワラエリヤ、地方都市クルネーガラ、世界遺産シーギリヤ、古都アヌラーダプラなど、スリランカ中央部を中心に巡り、都市部から農村部までバラエティに富んだ行程となりました。

現地では、学校や幼稚園、教員養成/研修機関などの教育施設を中心に訪問し、児童/生徒や教員との交流、インタビュー等を実施して、教材作りのための情報収集を行いました。また青年海外協力隊員の活動場所である農村や更生施設、日本のODAによって建設された博物館、NGOによる援助の現場も視察し、日本による国際協力の実態や、隊員をはじめとした日本人の活躍とそこに暮らす人々の息吹を間近に感じることができました。更には、世界遺産であるシーギリヤ訪問やポヤデー(仏教徒が寺院を参拝する満月の日)の仏歯寺参拝、キャンディアンダンス見学など、スリランカの伝統文化や歴史を体験することもできました。

視察中で特に印象深かったのは、スリランカ人のおもてなしの習慣です。学校や農家など、どこを訪問しても必ず私たちにはお茶とお菓子が振る舞われ、歌や踊りの披露とともに、訪問への感謝の気持ちを伝えるセレモニーが開かれるのでした。またワラパネ村のお母さんたちに作っていただいたスリランカの家庭料理(カレー)を見様見まねで手指を使って食べたことは、一生忘れられない経験となりました。

このように人々との実際の交流を通して、スリランカに暮らす人々の文化や生活の一面に触れられたことが、研修の最大の成果と言えるでしょう。子どもたちへのインタビューをとおして、スリランカ人の家族の強い結びつきや、教育(学習)に対する考え方などを知ることもできました。

スリランカ滞在の最終日、JICA職員との報告会では、参加者それぞれから自らが感じた スリランカに対する率直な印象と、この体験を教材化して日本の子どもたちに伝えたいと いう熱い思いが語られ、現地での研修は幕を閉じました。

[1月4日(水)~5日(木)]

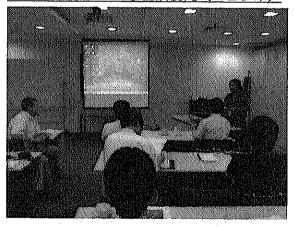
◆新千歳空港→成田空港→シンガポール→コロンボ



シンガポールの空港でもトランジットの待ち時間を利用してミーティング。各自がこれから作成する授業案のイメージの共有と子供たちへのインタビュー項目の確認を行いました。

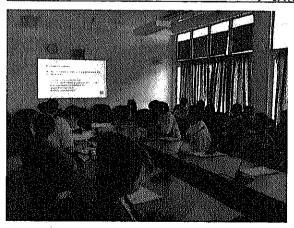
ALLIA 6:13 (金))Ministration ALLIANS I STATE OF THE CASE THE CONTROL OF THE CONTR

◆JICA スリランカ事務所訪問(コロンボ)



志村所長からスリランカへの援助動向のブリーフィング、担当職員からスリランカの教育事情についてのブリーフィング等が行われました。デング熱や狂犬病への対策など滞在中の健康管理についての注意も受け、日本との違いを痛感しました。

◆NIE(National Institution of Education)教育省教員養成機関 視察(コロンボ)



NIE は日本の無償資金協力によって建設された建物で、 カリキュラム開発や学習指導要領の作成等を行うととも に、教員養成や現職教員のための研修を行っています。

スリランカの教育行政や教育システムの概要について ご説明いただきました。

◆ワラパネ村訪問

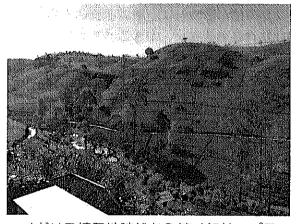




NPO 法人アプカス(函館市)の活動地である山間の村、ワラパネを訪問しました。この地域は 5 年前に起きた地滑り被害によって集団移転してきた住民たちが生活しており、アプカスは生活再建の支援を行っています。この日は村のお母さんたちに作っていただいたスリランカカレーを昼食にいただいた後、村の集会場で住民との交流会を実施しました。子供たちがスリランカの歌やダンスを披露してくれ、日本側からもお礼に日本の童謡などを歌い、その後みんなで折り紙やケン玉などをして楽しい時間を過ごしました。

【1月8日(日)】

◆ティーファクトリー見学 (ヌワラエリヤ)





イギリス植民地時代から続く紅茶のプランテーションで有名なヌワラエリヤのティーファクトリーを 見学しました。土産用の紅茶ショップは外国人観光客でにぎわう一方で、茶畑周辺には低賃金で働く労働者が暮らすバラックが点在しており、プランテーションが引き起こす経済格差の一端を垣間見ることができました。

◆仏歯寺見学 (キャンディ)



スリランカは国民の約7割が仏教徒とされています。 スリランカの仏教徒にとって、満月の日はポヤデーと呼ばれる祝日となり、家族でお寺に参拝して祈りを捧げる特別な日です。ちょうどポヤデーにあたったこの日、キャンディの仏歯寺を訪れました。スリランカでのマナーで、境内では参拝者は靴を脱いで裸足にならなくてはいけません。私たちもスリランカ人で混み合う境内を裸足で一回りし、スリランカ人の文化・風習を肌で感じることができました。

【19月29日(月)。まからわてはも後属すると思われる大変の変である。自動のは極高な動物の直接を設定しました。

◆<u>ワッテガマ・セントラル・</u>カレッジ訪問(キャンディ近郊)

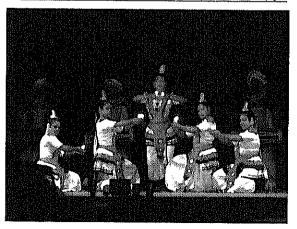




小学校から高校までが併設された、全校生徒約 1,600 人の学校を訪問しました。盛大な歓迎のセレモニーのあと、この地域で活動している協力隊員の嶋さん(環境教育)と竹田さん(同)のレクチャーを見学させていただきました。

その後、小学 7 年生を対象にグループに分かれてインタビューを行い、「大切なこと」「将来のゆめ」などを聞き取りました。スリランカの子供たちにとって、教育は将来を左右するとても重要なことであるという認識が強く根付いていることを実感しました。

◆キャンディアンダンス見学(キャンディ)

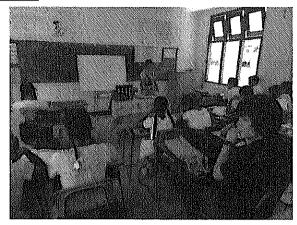


スリランカで有名な伝統舞踊、キャンディアンダンスを見学しました。観光客向けのショーではありましたが、 煌びやかな衣装を身に着け、民族音楽を奏でながらダイナミックに踊る姿を見て、スリランカの文化への理解が 深まりました。一つ一つの踊りには、伝統的な意味や目的があることもわかりました。

【1月10日(火)】

◆ワヤンバ・ロイヤル・カレッジ訪問(クルネーガラ)





《《智·高·初·李》。 對為多數公會

クルネーガラの大規模校(小学校から高校までの併設で全校生徒約4,000人)を訪問しました。この学校では、北海道から現職教員参加制度により青年海外協力隊として派遣されている森隊員(小学校教諭)が活動しています。

ここでは第 2 外国語として日本語を学んでいる高校生を対象に、グループに分かれてインタビューを 行いました。家族のことや勉強のこと、大切なものについてなど、スリランカの子供たちの生の声を聞 き取ることができました。その後、小学校、中学校、高校に分かれて、校種ごとに授業見学をさせてい ただきました。授業の様子、教室の様子、先生と生徒の関係、日本と同じところもあれば違うところも あり、スリランカの実際の教育現場を垣間見ることができました。

◆キンブルワナオヤ訪問

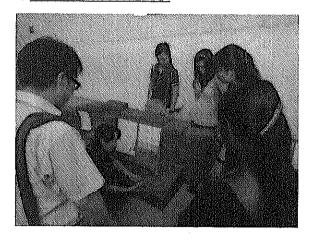




協力隊員の石王さん(経済市場調査)が活動する村、キンブルワナオヤを訪れ、3軒の農家を訪問させていただきました。JICAの支援によって牛を購入し現金収入が増えたことや農村での生活などについてお話を伺いました。

ここでも、それぞれの家庭でお茶やお菓子をふるまって歓迎していただき、また子供たちが得意の歌 や踊りを披露してくれ、あたたかな気持ちになりました。

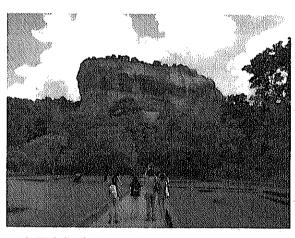
◆シーギリヤ博物館見学

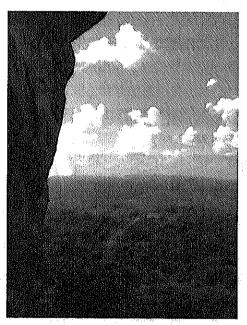


日本の ODA によって建設されたシーギリヤ博物館を 見学しました。自然環境や景観に配慮した建築となって おり、また展示手法についても日本の指導により工夫が こらされているとのことでした。

この地域で活動する協力隊員の石川さん(観光業)から、観光開発や地域の女性グループへの支援活動についてのお話を伺いました。

◆シーギリヤロック見学

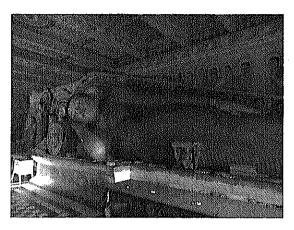




世界文化遺産にも登録されているシーギリヤロックに登りました。基部から高さ 200m の頂上部には、かつては王宮が建てられていたそうです。途中には、シーギリヤレディと呼ばれるフレスコ画も残されており、スリランカの歴史の深さを知ることができました。

頂上から見た360°ジャングルが広がる広大なパノラマは圧巻で、忘れることのできない光景となりました。

◆アヌラーダプラ見学





スリランカの古都、アヌラーダプラの寺院を見学しました。多くの寺院や参拝する市民の姿から、仏教が生活に根付いていることを実感しました。また、移動途中に偶然にも結婚式に向かう新郎新婦に出会い、市民にとっての特別な日の様子を垣間見ることができました。

[1月12日(木)]

◆アヌラーダプラ幼稚園訪問





協力隊員の萬さんが活動するアヌラーダプラの幼稚園を訪問しました。ここでも歌やダンスなどの手厚いおもてなしを受けるとともに、多くの保護者たちも来園して園の運営を手伝っている様子から、スリランカでは幼児教育にも非常に熱心であることが伺えました。

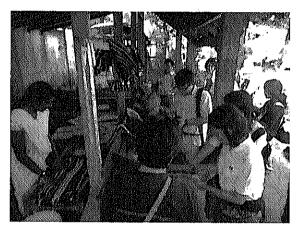
◆毎日のふりかえり



夕食後には毎日その日の研修のふりかえりを行いました。それぞれが得た情報や感じたことの共有、授業案のアイディア出しなど、長時間にわたることもありましたが、この日々のふりかえりによって、スリランカでの学びをさらを深化させ、滞在中に教材案・授業案の具体的なイメージを固めることができました。

[1月13日(金)]

◆メッセワナ女子更生施設訪問(コロンボ)



北海道出身の高田隊員 (青少年活動) が配属されている メッセワナ女子更生施設を訪問しました。障害者や軽犯罪 者が入所し、職業訓練などを受けながら社会復帰を促す施 設です。これまでとはまた違う視点から、スリランカが抱 える問題を垣間見ることができました。

◆日本大使公邸



釧路出身の粗大使の公邸を訪問し、日本政府とスリラン カ政府の外交関係など、貴重なお話を伺うことができました。

◆研修報告および JICA 事務所員との懇親会

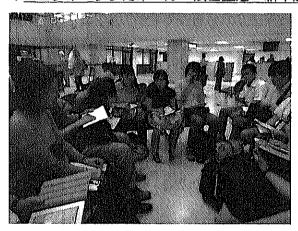


JICA スリランカ事務所のスタッフと、研修の報告会も 兼ねてスリランカ最後の夕食会を行いました。

参加者それぞれが、今回の研修で学んだこと、その成果を学校現場でどのように活かしていくかについて抱負を述べ、帰国後の本研修を心まえた国際理解教育活動に向けて気持ちを新たにしました。

【1月14日(土)】

◆コロンボ→シンガポール→成田空港→新千歳空港



コロンボの空港でも、出国間際の時間を利用して最後の ミーティング。これから各自が作成する教材案・授業案の 構想を共有しました。

新千歳空港に降りた時の気温はマイナス 16℃。スリランカと 50 度近い気温差に一同農え上がりましたが、参加者 10 名+同行者 4 名全員無事帰国し、改めてスリランカでの研修の成功を実感しました。

6. 実践報告書

佐々木	知成	(岩見沢市立北真小学校)・・・・	•.	•	•	•	17
住野谷	彩	(別海町立別海中央小学校)・・・	•				25
寺島	徳巳	(枝幸町立枝幸小学校)・・・・・	•		•	1	37
水内	幸恵	(帯広市立稲田小学校)・・・・	•	•	•	•	43
競達	色也	(千歳市立富丘中学校)・・・・・	•	•		•	49
菅谷	昌弘	(北海道教育大学附属札幌中学校)					56
谷崎	城	(音更町立下音更中学校)・・・・	•	•		•	62
前川	茂	(千歳市立富丘中学校) ・・・・・	•				70
鷲田	麻貴	(千歳市立北斗中学校)・・・・・		•		•	75
神田	大介	(北海道有朋高等学校)・・・・・		•	•	•	82
佐藤	歩	(札幌新陽高等学校)・・・・・・・	•				91

- ※教員及び児童/生徒による原文を活かして掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますがご了承ください。また、記載内容は JICA の見解とは異なる場合があります。
- ※授業で使用したワークシートなどは JICA 北海道 Web サイトに掲載しております。 http://www.jica.go.jp/sapporo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/report.html

1. 単元名(活動名):外国の人々とくらし~	スリランカ~		1				
2. 対 象:岩見沢市立北真小学校	3. 学習領域						
6年1組(19名)		1	2	3		4	4
授業者: 佐々木 知成	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共	纯		
4. 教科との関連性:総合的な学習	B グローバル社会	相互依存	情報化				
	C 地球的課題	人権	環境	平利	in in	開	発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参	:加		
5. 実施時期:3月5日 3・4校時	6. 時数: 4時間						
13 日 5・6 校時							
7. 単元の目標 (評価の観点を意識して設定)	;	8. キーワ	一下:				
【関心・意欲】		・違いと同じ					
スリランカの子どものくらしに関心を持つ	o O	大切なこ	٤				
【技能】							
スリランカと日本の子どものくらしを比較することができる							

9. 単元について(教材観、単元設定の理由、開発教育/国際理解教育の視点等):

スリランカの子どもとの違いと同じを理解する

グローバル化が進む社会では、多様な文化的・社会的背景を持つ一人ひとりが持てる力を発揮し、活躍する場が求められ、閉鎖的な国家主義・民族主義などに陥ることなく多文化共生社会、つまり多様な他者や文化・価値観を認め、社会や経済を持続可能な方向に変えていく必要がある。

しかし、現在私が担任している小学生には、子ども同士の関係性の希薄さからか、他者の行動から気持ち や背景に思いをはせることをせず、様々な事象に対して無関心であるか、あるいは戯れに攻撃的な言動をす る子も少なくない。社会性を育てるために児童間の関わりを深めることは必須であるが、自分と他者との考 えの違いがあると、そこで話し合いが止まることも多いので、お互いの理解を深め、問題を解決し、協力し 合っていくにはどうすればいいか、日常的に指導を続けているところである。

さて、本教材では、日本とスリランカの文化や考え方の違いを学習していく過程で、肌の色も服も食事も生活みんな違って見える人たちも、私たちと同様に悩み苦しみながら、前を向いて一生懸命生きていることに気づかせることをねらいとしている。そんな"一見違うけど、実は同じ"人や考え方の存在を知ることで、児童の間に、お互いの違いを認め合い尊重する気持ちを育むことにつながるのではないかと考えた。「自分とは違うから」といって切り捨てるのではなく"違い"の先にある"同じ"を見つけようと歩み寄ることで、違いや抱えている問題をも認め合える、"共存できる社会"につながると信じているからである。

また、開発途上国であり内戦を経験したスリランカ人の現状を知ることで、毎日食事ができること、家族が近くにいること、戦争がなく平和なこと、そして生まれてきたことや生きていられること等々、豊かな日常で忘れがちな「大切なこと」に気づかせたい。

10. 展開計画(4時間扱い)

【知識·理解】

		••		 		
展開順	主な学習活動と学習者	(児童生徒)	の意識		留意点など	
728 1711 1758	エルチ首位別とチ首有	(プレヨシコニ)化/	マストの政	 	歯息がなる	

2 時間

オリエンテーション

「スリランカって どんな国?」

写真からスリランカの特徴をいっぱい見つけよう

スリランカを地図帳で探してみよう

どちらがスリランカの写真でしょうか

スリランカの写真と日本などの写真を見比べ、どちらが スリランカなのかクイズをしながら、相違点や共通点を 見つける。











背景の植物や看板など、主とな る被写体以外からもスリランカ の特徴を見つける

グループに分かれ、スリランカの写真とそれ以外の 国の写真に仲間分けしてみよう





前出の問題で知ったスリラ ンカの文字や服装などの特 徴から推理する

話し合いの結果と、なぜそう思ったのか理由を発 表しよう

> 日本とスリランカの間に様々 な物や文化の行き来があるこ とを知る

どれがスリランカの写真でしょうか



【クイズ】

「カレー]

スリランカのカレーは、ご飯の周囲 に数種類の具を盛って、右手で混ぜ て食べる。周囲に分け与えやすいよ うに具は相手側。

[トイレ]

大便の後、紙を使わず水で尻を洗 う国は多い。その際、『不浄の手』 と呼ばれる左手を使う。

「車〕

日本車は、多くの国で使われてい る。また、中古車を輸入した場合 も、高性能の証としてロゴもその ままに使われていた。

[学校]

スリランカは、教育に関心が高 く、学校教育は原則無償で、途上 国とは思えないほど設備が整って いる学校もある。

【グループごとに話し合い】

[看板]

シンハラ文字はスリランカでのみ 使われている文字。公用語はシン ハラ語、タミル語、英語の3種 類。

[商品棚 醤油]

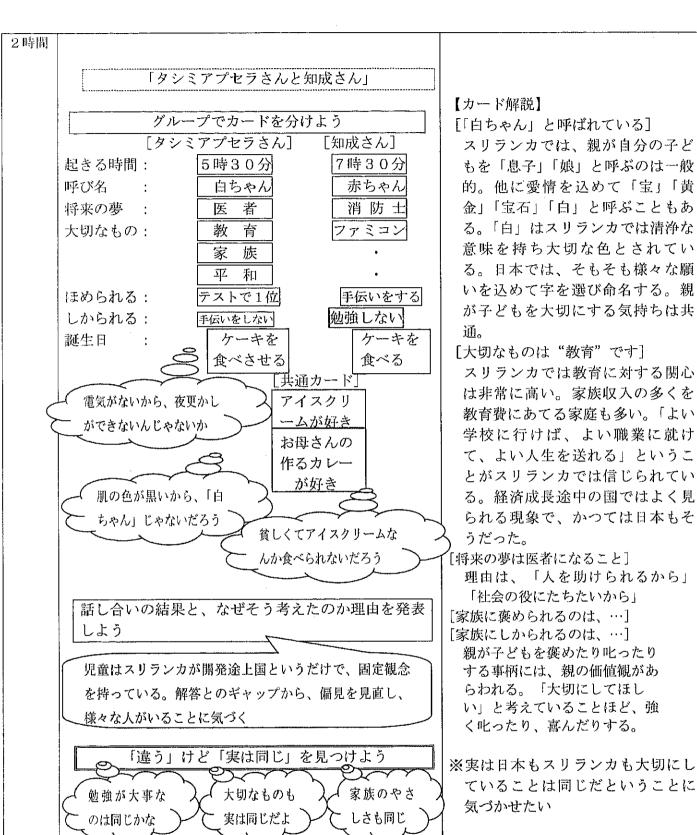
輸入物は高価であったが、都市部 のスーパーでは品揃えが豊かだっ た。これもシンハラ語がヒント。 などなど

- ※活動の中で、文字や車、人や服 装など、スリランカの文化に気づ き、親しむ。
- ※写真は情報量の多いものを選び、 主となる項目以外にも色々発見させ たい。

-63*	407	7.
茶	邗	H

スリランカのプランテーションで買った紅茶を飲 んでみよう

スリランカのプランテーションで購入した紅茶を実際に飲 みながら、『午後の紅茶』や『セイロンティー』などの一 般的な商品にスリランカの茶葉が一部使われていることを ○スリランカでは、紅茶は砂糖とミルクをたっぷり入れて飲むのが一般的。



※実は日本もスリランカも大切にし ていることは同じだということに

タシミアプセラさんからの手紙を読みます

授業を振り返り、感想を書いてください

住んでいる国や環境は違っても、そこで前向きに生きて いる自分と同じ年代の子の息遣いを感じてもらいたい

11. 評価計画

【関心・意欲】

スリランカの子どものくらしに関心を持てたか(観察、ワークシート)

【技能】

スリランカと日本の子どものくらしを比較することができたか(観察)

【知識・理解】

スリランカの子どもとの違いと同じを理解できたか(ワークシート)

【児童生徒の反応】

別紙

12. 苦労した点・改善点:

・6年社会科『「我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子」とリンクさせるために、6年生の3学期後半に授業をした。年度当初の教育課程に組み込み、計画的に実施したい。

【①どちらがスリランカでしょう?】

- ・児童に扱わせるカードは、整理しやすいように小さく。写真は見やすいよう大きくする。
- ・プロジェクターは写真など詳細に注目させたい場合は、あまり鮮明に映写されず確認しにくい。写真を 児童に持たせて注目させた後に、全体化を図る際の確認として使う。

【②知成さんとタシミアプセラさん】

・教師の解説が長くなりがち。子どもの気づきを重視したい。

13. 授業づくりのための参考資料・引用文献:

- ・フォトランゲージ
- メロディーの生活

14. 学びの軌跡(感想文、作文、ノートなど)

【①どちらがスリランカでしょう?】

「おもしろいと感じたところ]

- ・食事や学校の生活をクイズとスライドショーで見ることができておもしろい。
- ・写真でスリランカのことを知ることができて、おもしろかった。
- ・スリランカのカレーなどがクイズに出てきて、おもしろかった。
- ・スリランカの人は、食べ物を右手で食べて、トイレの時に左でお尻を拭くところが、日本と違うのでお もしろい。
- ・各班に分かれて、この写真はどこの国か考えるゲームがおもしろかった。
- ・一年中、30度以上あるのがおもしろいと思った。
- ・スリランカの国旗のマークがおもしろい。
- ・シンハラ語とタミル語があって、ちゃんと勉強すれば三つの言語を話せるようになること。
- ・日本の製品にしようとして、逆さま(ステッカー)になっていた所がおもしろかった。
- ・品物に3カ国ぐらいの文字で商品名が書いてあった。

[もっと知りたいこと]

- ・スリランカの字をもっと知りたい。
- ・食べ物。カレーの他にどんなものを食べているのか。
- ・スリランカの文化について、深く知りたい。
- ・スリランカと日本のつながりなど。
- ・日本と違うところをもっと知りたい。
- ・スリランカの紅茶について深く知りたい。
- ・スリランカの有名なものか、スリランカにしかいない生物などを知りたい。
- ・スリランカに住んでいる人の生活。
- ・スリランカで学校の授業でどんなことをやるのか、学校の授業の時間帯が知りたい。
- ・一つのクラスに何人くらいの人数がいるのかを、もう少し詳しく知りたい。

[むずかしかったところ]

・お金の単位。R s. ルピー

- ・写真でどの国がスリランカなのか発表するのがむずかしかった。
- ・スリランカの字が何て書いてあるかわからなかったところ。

[感想]

- ・ゲームなどをしながらスリランカのことを勉強したので、普通の授業よりも楽しみながらできた。
- ・スリランカの文化をもっと知りたくなった。
- ・すごく楽しかった。スリランカのことを少しだけど知ることができて良かった。
- ・グループになって発表したり、クイズが多くて楽しかった。
- ・スライドで見た写真がわかりやすく、スリランカの様子がすごくわかりました。
- ・スリランカの食事の食べ方や、紅茶のことなどを詳しく知ることができて、良かったです。
- ・スリランカの言語や宗教、金銭の単位など、今まで知らなかったことがたくさんあっておもしろかった。
- ・あまり興味のない国だったので、知らないことがたくさんあり、楽しかった。
- ・自分たちの学校と似ているところもあれば、似てないところもあったので、どういう学校生活を送って いるか勉強になった。
- ・お金がなくて、どんなに貧しくても、楽しそうに暮らしていて、すごいと思いました。

【②知成さんとタシミアプセラさん】

- ・スリランカの内戦のことは知っていました。人間は愚かな生物ですが、同時に賢い生物でもあります。 人が幸せになるために何ができるか考えたりすることができます。内戦についても、シンハラ人もタミル人も、それぞれ理由があって始めたことだと思います。でも、終わってしまえば、とてもあっけなく、とても愚かだったと気づくものです。子どもの目で見れば、大人は勝手に殺し合い、勝手な理由で幸せを奪っていくものだと感じています。スリランカの子どもたちも、そんな風に見ているのではないでしょうか。
- ・スリランカの一日の生活のことがわかって、いい経験になった。
- ・スリランカは、日本ととても仲が良く、共に助け合っている国だとわかりました。スリランカの人達は、すごくやさしい人たちばっかりだと思うので、スリランカに行ってみたいです。
- ・スリランカは何年か前まで内戦をしていたけど、そこからまた急成長している国ということがわかりました。みんな勉強を頑張っているけど、身分の差で決まってしまうことがあるというのがわかった。
- ・スリランカでは、気温が一年中暑くて朝に勉強したり、白はスリランカの中で一番きれいだったり、日本とは違う部分もあったり、逆に宗教などが一緒だったことなどを知ることができて勉強になった。
- ・朝、いつも5時30分に起きて、1時間も勉強していると聞きました。とてもすごいです。私も見習わないといけないなと思いました。
- ・スリランカは日本と違って教育がものすごく大事だということを初めて知りました。タシミアプセラさんは、一日勉強を 2 時間もするなんですごいと思いました。
- 15. 備考(授業者による自由記述)

起きる 時間は 7時30分 です	起きる 時間は 5時30分 です	家では、1 時間 船強しています	家では、 Z時間 船強しています
好きな 遊びは サッカー です	好きな 遊びは バドミントン です	私は、「白ちゃん」と よばれています	私は、「赤ちゃん」と よばれていました
将来の ゆめは いしゃに なることです	将来の ゆめは 消防士に なることです	大切なものは 水晶の原石 です	大切なことは "教育" です
誕生日には	誕生日には	近くのお祭りでは	近くのお祭りでは
友達や家族と ケーキを	友達や 家族に ケーキを	もちを まいています	ごちどうを くばっていきす
食べます	食べさせます		
家族に	家族に	家族に	家族に
ほめられるのは	しかられるのは	ほめられるのは	しかられるのは
家の手伝いを	勉強を しなかった	テストで 1位を	家の 手伝いを
したときです	ときです	とったときです	しなかったときです
			お母さんのつくる
朝は あ母さんか	好きな 食べ物は	好きな 食べ物は	カレーか
起こしてくれます	アイスクリームです	チョコレート です	一番 好きです

大好きな日本のお授達へ

こんにちは、発いの名前はタシミアプセラです。12歳の女の子です。 を立められていたところは、土砂崩れでつぶれてしまったので、 今はワラパネという村に、住まわせてもらっています。 家族は、お父さんとお母さん、そして弟と私の4人家族です。 お父さんは、昔は警察をしていましたが、今は学校の給食を運ぶ仕事をしています。 弟とは仲が驚く、いつもけんかばかりしてしまいます。

管罐台には、バドミントンをして遊んだり、お寺の学校へ行って、勉強します。 掃除の手伝いは、あまりしないので、よくしかられます。 適に一度、帯がたつので、静気、チョコレートやアイスクリームを買ってもらうのが、とて も楽しみです。

日本は、敗戦の焼け野原から立ち上がり、今では優れた製品を作り続ける優秀な国と聞いています。

また、私達の国が内戦をしていたときも、支援を続けてくれた日本は、私達にとって『特別な国』です。

私も、いつか日本に留学し、日本の優れた技術を学びたいです。そして将来 立派なお医者 さんになって、多くの人を助けたいです。

あなたが幸せでありますように

タシミアプセラ

1.	. 単元名(活動名): 鳥から島への贈り物 ~スリランカと日本とのつながり~									
2.	対 象:別海町立別海中央小学校	3. 学習領域								
<u> </u> 	4年1組(36名)・2組(38名)		1	2	3	4				
	授業者:住野谷 彩	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生					
4 .	教科との関連性:総合的な学習の時間	B グローバル社会	相互依存	情報化						
		C 地球的課題	人 権	環 境	平 和	開 発				
		D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加					
5.	実施時期: 2012年3月	6. 時数: 4時間								

- 7. 単元の目標(評価の観点を意識して設定):
- ・スリランカの子どもの暮らしに関心を持つ。【関心・意欲】
- ・紅茶・人・緊急援助などを通じて、日本とスリランカとのつながりを理解 |・子どものくらし する。【知識・理解】
- ・日本とスリランカの暮らしを比較して、同じと違いを見つけることができ る。【技能】
- 8. キーワード:
- スリランカと日本とのつながり
- 同じと違い
- ・災害と復興支援
- 9. 単元について(教材観、単元設定の理由、開発教育/国際理解教育の視点等):

今日,地球上には約70億人の人々が暮らしている。人種,民族,宗教,文化は異なっていても,誰もが同じ人間 として、心豊かに、よりよく生きることを願っている。

本単元では、 "普段当たり前だと思っていることでも、国が変わるとくらしも異なる"という現実に気付かせ、 日常生活の些細なことに感謝し、些細なことから幸せを見出すことのできる豊かな心を持った子どもたちの育成を目 指す。学習の中には、クイズやフォトランゲージ等の体験的な学習を多く盛り込み、スリランカと日本との類似点や 相違点を考えさせながら、様々な面における両国のつながりを理解させていく。そして、国は違っていても互いに理 解し、尊重し、協力し合うことの大切さに気付かせ、国際社会を強く優しく生きていける人間性の基礎を育んでいき たい。

10. 展開計画(4時間扱い)

時数	■主な学習活動と児童の意識		*留意点
1	紅茶のふるさと		
	■スリランカ産の紅茶を飲む。 これは何かな?みんなで飲んでみよう。 ・ミルクティーだね。 ・おいしいね。	10 (1988) 100) 100)	*担任は、スリランカの民族衣装(サリー) を着て、児童の興味・関心を高める。
	・いいにおいがするね。 ・とっても甘いね。 ■紅茶は元々どのようになっているのかを考える。 紅茶はどんな場所に、どのようになっているのかな?		*ティーパックを配布し、中身を出させて みる。

- ・畑になっているのかな。
- 木になっているんじゃない。
- ・木の葉じゃないの。
- ・木の実だと思う。

■紅茶がどこからきているのか知る。

紅茶はどこから来ているのかな?

- ・お茶が有名なのは静岡だ。・外国からきているかもね。
- 中国も有名だよ。
- ・先生の着ている服と関係がありそうだよ。







■スリランカの概要を知る。

スリランカはどこにあるのかな?地図帳で探してみよう。

- ・首都はスリジャヤワルダナプラコッテ
- ・日本からの距離は約7000 kmで、飛行時間は直行便で約9時間
- ・シンハラ語、タミル語、英語が使用されている
- ・面積は北海道の0.8倍(北海道のほうが広い)
- ■スリランカの「こんにちは」を覚える。

スリランカでは、こんな風にあいさつをするよ。 みんなで練習してみよう。

ආයුබෝ වන් (アーユボーワン)

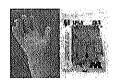
■スリランカから来ている他の物について、カードをもとに 考える。

紅茶以外にも、スリランカから日本に来ている物があるよ。 どんな物があるのか、グループで考えてみよう。

天然ゴム

















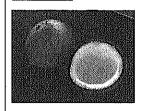






- *途中で、ヒントとして午後の紅茶・リプ トン・日東紅茶を配布し, 原産国を見つ け出させる。
- *茶畑の写真を提示し、紅茶の生産現場に ついて伝える。
- *地図帳からスリランカという国を探さ せる。
- *胸の前で手を合わせて、アーユボーワン と言うと伝え、周りの友だちにあいさつ をしてみる。
- *カードを 12 枚用意し、班で協力して 3 つのグループに仲間を分けさせる。それ ぞれが何の仲間なのか話し合わせる。

ココナッツ











■本時の振り返りを行う。

スリランカという国について知れたね。

私たちの生活の中にも、スリランカから来ている物がたくさ

んあるんだね。

2

タシミアプセラちゃん

■あいさつをする。

スリランカのあいさつを覚えているかな?

■スリランカの「私の名前は○○です」を覚える。 もう1つ新しいあいさつを覚えよう。

මගේ නම

■スリランカ○×クイズを行う。 スリランカ〇×クイズにチャレンジしよう。

- ①スリランカの人は、半袖の服しか着ない。
 - →×高地では長袖も着る
- ②スリランカの人は、毎日カレーを食べる。→○
- ③スリランカのトイレでは、紙を使わない。→○水で洗い流す
- ①スリランカの家は、木造である。→×レンガ造りである
- ⑤スリランカのお正月は、1月である。→○
- ⑥スリランカでは、毎日渋滞が起こる。→○
- ■なぜ渋滞が起こっているのかを予想する。

スリランカでは、なぜ渋滞が起こっているのかな? グループで予想を立ててみよう。|

- ・事故があったんじゃない。
- お祭りがあるのかも。
- ・信号が見当たらないよ。
- ・立っている人は警察じゃないかな。
- ・制服を着ているよ。
- ・学校の帰り道の様子かな。



朝の沿港の様子

- *ワークシートに
 - ①わかったことや気付いたこと
 - ②今日の威想

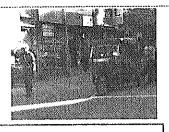
を書かせる。

*アーユボーワン (こんにちは)

- *衣食住に関するクイズを行い,答え合わ せをしながらスリランカの人々の生活 を紹介していく。
- *トイレの問題では、習慣や考え方によっ て何をきれいと感じるかは違うという ことを伝える。

- *3枚の写真を順に掲示し、渋滞の原因は 何なのかを班で協力しながら考えさせ ていく。
- *スリランカでは、
- ①信号がほとんどなく、渋滞時には警察官 が交通整理をする。
- ②学区はないようなもので、遠くから通っ てきている子も大勢いる。
- ③親は、子どもの送り迎えをよくする。
- ④学校の登下校時に渋滞が発生する

等ということを伝え、スリランカの子ども たちの生活に興味を持たせる。





交通整理をする警察官

下校する子ども産

■自分の1日の生活を表に書き込む。 みんなは普段どんな生活をおくっているかな? 自分の生活を振り返ってみよう。

- ・名前 ・家での呼ばれ方 ・起きる時刻 ・寝る時刻
- ・1日の勉強時間 ・好きな勉強 ・好きな遊び
- ・好きな食べ物 ・家でのお手伝い ・将来の夢
- ・自分の宝物
- ■タシミアプレラちゃんからの手紙を聞き、1日の生活を表 に書き込む。

スリランカの子どもはどんな生活を送っているのかな? 手紙をもらって来たので,グループで読んでみよう。

- ・1日2時間半も勉強をしてるの?
- なんで白ちゃんって呼ばれるんだろう?
- ・教育を受けられることが宝物ってどういう意味?
- なんで仏様を尊敬しているの?



■自分とタシミアプセラちゃんの同じところと違うところを 見つける。

自分とタシミアプセラちゃんと同じところはあったかな? 自分とタシミアプセラちゃんと違うところはあったかな?

- ・算数が好きなのは同じだ。
- ・スリランカの子は起きる時間が早いな。
- ・宿題があるのは同じだね。
- ・とっても長い時間勉強をしているんだね。
- ・スリランカの子どももお手伝いをするんだね。
- ・仏教の時間があるんだ。
- ■本時の振り返りを行う。

スリランカの子どもの生活がわかったね。

違いを知って、理解することは、とても大事なことだね。

- *スリランカの子どもの呼ばれ方に注目させる。
- *スリランカの子どもの学習時間の長さ に気付かせるとともに,多くの子が塾に も通っているということを伝える。
- *生活の中に仏教が深く根付いているということに気付かせる。
- * 違いを知ること、違いを理解することの 大切さを伝える。

- *ワークシートに
 - ①わかったことや気付いたこと
 - ②今日の感想

を書かせる。

3

ルピーの秘密

■あいさつをする。

スリランカのあいさつを覚えているかな?

■スリランカの「私は日本人です」を覚える。

もう1つ新しいあいさつを覚えよう。

*アーユボーワン (こんにちは)

*マゲナマ○○(私の名前は○○です)

මම ජපන් ජාතිකයෙක්

(ママ ジャパン ジャーティカヤェク)

■スリランカ○×クイズを行う。 スリランカ〇×クイズにチャレンジしよう。

- ①スリランカの新学期は、1月である。→○
- ②スリランカの小学校は、6年間である。→×5年間である。
- ③スリランカでは、6歳で小学校に入学する。
 - →×5歳で小学校に入学する
- ④スリランカの学校には、紅茶休憩がある。
 - →○ただし、授業と授業の間の休み時間はない
- ⑤スリランカでは、タダで制服がもらえる。
 - →O制服を作るための布がもらえる
- ⑥ スリランカのお金には、日本人が描いた絵が載っている。
 - →X日本の援助で作られた橋や港が描かれている

■ルピーの絵合わせゲームを行う。

スリランカでは、どんなお金を使っているのか? みんなで協力して絵を完成させよう。







- 2011年2月に発行された 新デザインのルビー
- ■絵が完成したチームから、ルピーに描かれている絵に着目 し、日本とのつながりを考える。

ルピーの絵には、日本との深い関係が隠されているよ。

- 日本とどんな関係があるのか考えてみよう。
- ・港が見えるよ。・日本の船が来ているのかな。
- こっちは列車が見えるよ。 ・トンネルだ。 橋も見えるよ。
- 日本人が作ったのかもね。
- ■なぜ、日本人がいるのかを予想する。

写真の中に日本人が1人だけいるよ。探してみよう。

なんで、日本人がいるのかな?

バイクで下校する子ども 必だ上に竹田さんがいる

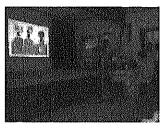


*学校に関するクイズを行い、答え合わせ をしながらスリランカの子どもたちの 学校生活を紹介していく。

- *6枚で完成するルピーの絵のピースを用 意し、仲間を探させる。
- ①20 ルピーには日本の円借款によって整 備・拡張されたコロンボ港
- ②50 ルピーには日本の無償資金協力によ って建設されたマナンピティア橋
- ③1000 ルピーには日本の円借款によって 建設されたランボダ・トンネル が描かれている。
- *ルピーに描かれてある絵について説明 し、スリランカには日本の協力によって 作られたものがあることを知る。
- *1枚目の写真から日本人を探させ、他の 写真を順に掲示していく。
- *写真から、何をしているところなのか予 想を立てさせる。
- *学校でごみの問題について授業をして いる様子であることを伝え、スリランカ で活動する日本人に興味を持たせる。

- ・日本語を教えているんじゃない。
- ・ジョシュアさんみたいな感じかな。
- ・日本の文化を紹介しているのかも。
- ・スリランカのことを学んでいる。
- ・スリランカの学校を見に行っている。





ごみ問題に関する講演を行なっている様子

■スリランカで活動する竹田さんについて知る。 スリランカの学校で環境問題について教えている,竹田さん という人がいたよ。

青年海外協力隊 竹田真佑美さん



スリランカでは、ごみが大きな問題になってきています。ごみを分別する習慣がないので、今後が心配です。豊かな自然をいつまでの残していけるように、子どもたちと一緒に環境問題について考えていければと思っています。

■スリランカで活動する,他の日本人についても知る。 竹田さんの他にも,スリランカで活躍している日本人がいた よ。

どんなことをしているのか、グループで考えてみよう。





石川山香風さんの活動の様子





石川直入さんの海町の増予

*竹田さんの活動や願いについての説明 を行っていく。

竹田 真佑美さん

- ・北海道大学の大学院生。
- ・青年海外協力隊として、2011年の8月 からスリランカでボランティアをしている。
- ・スリランカの学校をまわって、自然を守る 大切さについて授業を行っている。

*2 枚ずつセットの写真を掲示し、写真の 日本人は何をしているのか班で協力し ながら考えさせる。

青年海外協力隊 石川由香里さん



スリランカは、日本にはないものがた くさんあるとても魅力的な国です。地 元の人たちの力を十分に生かして、地 元の人たちが自立して生活していける ようになったらいいと思います。

*観光隊員の石川さん、NGO の石川さん の活動や願いについての説明を行って

石川 真佑美さん

- ・旅行会社をやめて青年海外協力隊に。
- ・2011年の4月からスリランカでボラン ティアをしている。
- ・スリランカの観光を活性化するために、タ クシーの利用方法をわかりやすくしたり、ま ちのお母さん方とサリーでバッグを作って 売ったりしている。

NGO アプカス 石川直人さん



テントで生活をしていた人々が、家を 建て、移り住んでいく様子が見れたと きはとてもうれしかったです。

石川 直人さん

- ·元青年海外協力隊員。
- ・2004年12月に発生したスマトラ沖大 地震の被災者を支援するために、ボランティ ア団体を作って活動を始めた。
- ・その後、地すべりによって家や畑を失った 人たちの、引っ越しやまちづくりを支援し た。学校を建てたり、子ども会の活動をした り、農業を教えたりしている。
- *ワークシートに ①わかったことや気付いたこと ②今日の感想

を書かせる。

■本時の振り返りを行う。

ルピーの絵には日本との深いつながりが隠されていだね。 スリランカで活躍している竹田さんや石川さんはすごいね。

島から島への贈り物 4

■あいさつをする。

スリランカのあいさつを覚えているかな?

■スリランカの「ありがとう」を覚える。 もう1つ新しいあいさつを覚えよう。

බොහෝම ස්තුතියි

(ボホーマ ストゥティー)

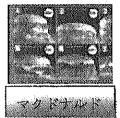
■スリランカ?日本?クイズを行う。 スリランカ?日本?クイズにチャレンジしよう。





日本から輸入 した曲

- *アーユボーワン (こんにちは) *マゲナマ○○(私の名前は○○です) *ママジャパンジャーティカヤェク (私は日本人です)
- *写真を提示し、スリランカのものか、日 本のものかを考えさせる。
- *写真はすべて、スリランカで撮影したも のを使用する。









NINJA上いう名前の收取り編香

■何をしている写真なのか予想する。

これは、何をしている写真かな?予想を立ててみよう。



- 何か配っているね。
- ・給食かな
- ・老人ホームじゃないかな。
- ・渡している人は笑顔だね。

■グループで 15 枚のカードをスリランカ・ 日本・共通の 3 つに分ける。

グループで話し合って、15枚のカードを日本のこと・スリランカのこと・両方に当てはまることにわけてみよう。

日本

- ・ココナッツはお菓子に使います。 ・国歌は式で歌います。
- ・誕生日にはみんながお祝いしてくれます。
- ・赤ちゃんと呼ばれます。 ・ご飯は自分で食べます。
- ・学校が終わると習い事に行きます。

スリランカ

- ・ココナッツはカレーに使います。・国歌は毎日歌います。
- ・誕生日にはみんなにごちそうします。
- ・白ちゃんと呼ばれます。・ご飯は食べさせてもらいます。
- ・学校が終わると塾に行きます。

共通

- ・紅茶を飲みます。 ・カレーを食べます。
- 大きな地震が起きました。

■スマトラ島沖地震と東日本大震災での緊急援助の様子をも とに、国と国とのつながりについて考える。 カードを裏返そう。何をしている写真かな? *東日本大震災が発生した際に、スリランカのカランナーゴダ大使が避難所でカレーを振舞った写真を掲示する。

*正しく分けると、スリランカと日本の裏面には、震災後の緊急援助の写真になる。



スマトラ島沖地震の際 の複興支援の様子



東日本大震災の際の復 興支援の様子

- ・背中に JAPAN って書いてあるよ。 ・何かを運んでいるね。
- ・工事をしているのかな。 ・家の屋根が壊れているよ。
- ・地震かな。

■まとめを行う。

スリランカでも、日本でも、大きな災害が起こった時には、 国を超えた助け合いがあったんだね。

スリランカと日本のような良い関係を,様々な国と築いてい けたらいいね。 *2004 年に発生したスマトラ島沖地震の際には、日本が様々な形でスリランカの復興に携わったということを伝える。

*東日本大震災が発生した際には、スリランカ国内で日本救援のために様々な活動が行われたということを伝える。

*ワークシートに

- ①わかったことや気付いたこと
- ②今日の戯想
- ③ふりかえり

を掛かせる。

11. 評価方法

- ・スリランカの文化に興味を持ち、自分の考えを進んで発表しようとしていたか。【関心・意欲】
- ・スリランカの子どもと日本の子どもの類似点や相違点を発見するとともに,両国における様々なつながりを理解することができたか。【知識・理解】
- ・シンハラ語を用いて、簡単なあいさつをすることができたか。【技能・表現】 以上3点について、学習の様子やワークシートの記述から見取っていく。

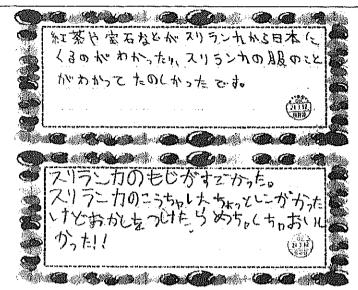
12. 苦労した点・改善点:

膨大な写真や情報の中から本当に必要なものを精選する作業は、想像以上に手間暇がかかると同時に非常に 難しかった。当初は、第3時で協力隊の活動を考えさせるフォトストーリーを組み込んでいたが、1つのクラ スで取り組んでみたところかなり難しい様子だったので、写真をもとに何をしているのかを考えるという活動 に変更した。

- 13. 授業づくりのための参考資料・引用文献:
- ・外務省HP 「東日本大震災に対する諸外国等からの物資支援・寄付金一覧」
- ·JICAHP 「国際協力機構年報 2005」
- ・JICA HP 「スマトラ沖大地震・インド洋津波への対応 スリランカ」
- ・TV 東京HP 「地球 VOCE バックナンバー」
- 14. 学びの軌跡(感想文, 作文, ノートなど)

第1時

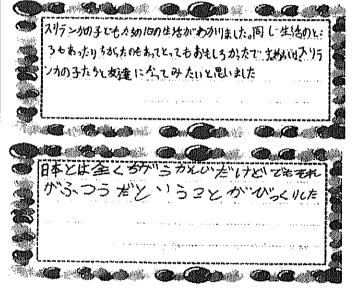
紅茶を切り口にして、日本とスリランカとの物質的なつながりについて考えた。初めて耳にするスリランカという国に、興味津々の子どもたち。紅茶を飲んだり、サリーに触れたりする活動を取り入れたことによって、大きなインパクトを与えることができた。五感を使いながら、楽しんで学習に臨む姿が印象的だった。

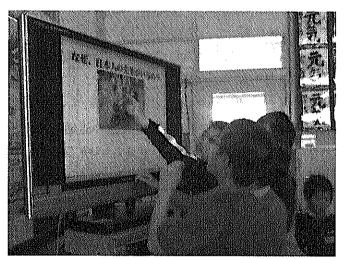




第2時

○×クイズに挑戦しながら、スリランカの文化や習慣についての理解を深めた。自分の生活を振り返り、タシミアプセラちゃんの生活と比べることによって、様々な類似点や相違点を発見することができた。今まで自分たちが当たり前だと思っていたことが、当たり前とは限らないということに気付き、驚く姿が印象的だった。





第3時

ルピーを切り口にして、日本とスリランカとの経済的なつながりについて考えた。ルピーの絵合わせゲームでは、どの子も積極的に仲間を探し、絵の隅々にまで目を凝らしながらじっくりと考えを深めることができた。海外で活動している日本人がいるという事実を知り、その活躍に感銘を受けている姿が印象的だった。授業終了後には、ルピーの実物に触れ、興奮する子どもたちが大勢いた。

青年海外が私力隊の仕事がスリラン 力の人に以、悪とされていることが、ナニンかりました。

スパランガのお金は日本 がお金をだしたはしがのってしょろのが以外だった。



第4時

東日本大震災時のカレーの炊き出しの様子を切り口に、日本とスリランカとの精神的なつながりや国際協力 の重要性について考えた。これまでの学習を思い出しながら、「これは日本のこと」「これはスリランカのこと」 とグループで真剣に話し合いを行い、国と国とのつながりについて考えを深めていく姿が印象的だった。

毎時間ワンフレーズずつ覚えてきたシンハラ語のあいさつもとてもスムーズに言えるようになっており、胸 の前で手を合わせながらどの子も積極的にあいさつを交わしている姿には、非常に驚かされた。

のスリラッカが日本のことすって思ているので 思うて、スリラッカにまずしまいたいた。」 気がかればればなれた のスリランカの文化にないないないがあた ロウエハマからまがた。 光味がらまからた

けたられたしの同か生と友達なってみたいですもっとスリ

| もたいよ大人になったらスリテンカに行ってみたいで 3。2里由は、スリランカ の国はとしもあたたかい国だとわれたからです。もしもスリランかに行 ランカのことを失いたいです。

スリランカは日本のじしんをすでし 思ってくれたのかうれしかた。 ブリランカの人はこのじゅぎょうち まとめて本当にやさいし人たちだった。

日本がカリランカを見かけたり、スリランカが、日本を見かけたりにた こいから世界のつなかりかいてた深く、らばかもの た"に思いきは。





日本のみなさんへ

はじめまして。私の名前は、タシミアプセラといいます。12才です。私は4人家族で、お父さん・お母さん・弟と一緒にくらしています。弟とはよくケンカをして、怒られています。でも、本当は仲良しです。お父さんからは、「白ちゃん」と呼ばれています。「きれいな宝石ちゃん」って呼ぶこともあるんです。

私の1日は、朝の5時半に始まります。7時には家を出て、学校へ向かいます。学校は8時~14時までで、帰ってきてからは2時間半くらい勉強します。宿題は毎日たくさん出るけれど、将来はお医者さんになりたいし、テストの点数が良いとお母さんがたくさんほめてくれるので、がんばって勉強をしています。ちなみに、一番好きな勉強は算数です。

学校では、いつも一緒に遊んでいる友だちが6人います。でも、クラスのみんなが仲良 しです。友だちとは、好きなバドミントンやチェスをして遊んでいます。

学校から帰ってくると、家のそうじを手伝います。そうじが終わったらちょっと休けいをして、大好きなチョコアイスを食べます。

私の宝物は、教育を受けられことです。学校に行って、学べることは本当にすばらしいことです。先生も優しいし、勉強も楽しいし、私は学校が大好きです。

一番そんけいしている人は、仏様です。学校では、仏教の勉強をする時間もあるんです。 それから、お父さん・お母さん・先生など、年上の人もそんけいしています。 友だちも大 切なそんざいです。

テレビで見て、日本はとってもきれいな国だと思いました。日本の食べ物もすごくおい しそう。特に、ラーメンという食べ物を食べてみたいです。

あなたの夢は何ですか?あなたの宝物は何ですか?私の生活と違うところはありましたか?同じところはありましたか?

あ、もう21時半。早く寝なきゃ。おやすみなさい。

タシミアプセラより



1. 単元名(活動名): 知らんか!スリランカ!		······			
2. 対 象: 枝幸町立枝幸小学校	3. 学習領域	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		***************************************	
3年1組(28名)3年2組(30名)		1	2	3	4
授業者:寺島 徳巳	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
4. 教科との関連性:総合的な学習の時間	B グローバル社会	相互依存	情 報 化		
	C 地球的課題	人 権	環 境	平 和	開 発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
5. 実施時期: 24年2~3月	6. 時数: 3時間				***************************************
7. 単元の目標(評価の観点を意識して設定): 【関心・意欲】		ŀ	テーワード ない」と「		

○スリランカの生活、人々の暮らしに興味を持つ。

【技能】

○スリランカのあいさつやダンスなどを表現できる。

【知識・理解】

〇スリランカの子ども達と自分達の生活との「違い」と「同じ」に気付く。

子どもの暮らし

9. 単元について (教材観、単元設定の理由、開発教育/国際理解教育の視点等):

子ども達は、テレビのニュースや、スポーツに関わる情報等を通して、外国の地名や外国人の名前を知った り、食べ物の産地などから外国名に触れたりしている。しかし、それらの情報は断片的であり、その国につい ては「それしか知らない」ということも多い。あるいは、日本の近隣諸国を除いた他のアジアの国々について は、ほとんど知らない子も多く、思い浮かべられることとなると、「言葉が通じない」「暑い」「貧しい」などと いった一面的なイメージしか持つことができない。スリランカという国名を聞いても、とても遠い国で、日本 とはあまり関係がないと感じる子どもが多いと思われる。

今回の学習では、こうした実態を受けて、まずは子ども達が世界に目を向け、関心をもつ第一歩となるよう 活動を進めていきたい。そして、スリランカだけではなく、他の国について興味を持ったり、自分から調べる 動機づけになることを期待している。

授業を通して、写真などの視覚的教材を多く取り入れながら、街の様子や文化に触れさせていくとともに、 スリランカとの出会いが子ども達にとって、自らの視野を広げる機会となるよう展開の工夫をしていきたい。 「スリランカにはこんなことがあるから面白そう」とか、「日本にもこういう良さがあるな」など、両国の「い いな」と思うところをたくさん見つけるなかで、「スリランカの人も同じだな」と、自分達との共通点が見つけ られたらよいと思う。

違いを自然に受け入れ、「こういう見方もできる」「いろいろな文化があっていい」と感じる寛容な態度や、 同世代の外国の子ども達を少しでも身近に感じながら、日頃の友達との接し方にも思いを広げ、今後の生活に 反映させることができたらよいと考えている。

10. 展開計画(3時間扱い)

展開順	主な学習活動と学習者(児童生徒)の意識	留意点など
1	スリランカって、どんな国?	
	○「先生が着ている衣装を見て、気づいたことを発表して	☆教師はスリランカの衣装を着る。
	みよう。」・変わった色の服だ・日本では見たことがない・ブカブカの服だ・スカートみたいだ・涼しそうだな・何の模様だろう	☆日本の服との相違点についても考えさせる。
		☆スリランカの国旗を見せる。
	○「スリランカの国旗からどんなことがわかりますか。」・ライオンがいる ・強い国なのかな	☆日の丸との比較もしてみる。。
	・明るい色だな ・日本の国旗よりもかっこいいな	☆ワークシートに書かせる。
	○「スリランカの様子を見てみよう。」 クイズ形式で考える。	☆パワーポイントでプロジェクターに映す。
	地理や面積	☆図や写真、文字情報などを通してスリラ ンカのことをわかりやすく理解させる。
	・首都の名前は?・北海道より大きい?小さい?	 ☆日本の様子とも比較しながら、説明を進 める。
	・北海道より人口が多い?少ない? 学校	☆情報を通して、スリランカの生活が理解 できるようにする。
	・スリランカの学校は4月から始まる?・スリランカの学校は6年生まである?食べ物・スリランカの人は毎日カレーを食べる?・スリランカの人は紅茶が好き?	☆基本情報 ・日本から約7500km。 ・平均気温 約27度。 ・人口 約2045万人 ・面積 6万5607km (北海道の約0.8倍)
		(ALIII 及びが) ひ. ひ I I ア など
	○「あいさつをしてみよう。」 「	☆日頃使っている言葉と同じ感覚で話す
	「アーユーボーワン」(こんにちは)	ように伝える。
	「マゲナマ〇〇」(私は〇〇です) 「ボホーマ ストゥーティー」(どうもありがとう)	
	※ スリランカと日本のあいさつを交互に行う。	
	○「ワークシートに感想等を記入しよう。」	☆ワークシートに記入させる。

子ども知らんか!スリランカ!

- 〇 「『自分の生活』をふり返ろう。」
 - ・起床時刻
- ・就寝時刻
- ・家族構成
- ・好きな食べ物
- ・好きな遊び
- ・お手伝い
- ・好きな教科
- ・1日の勉強時間
- ・将来の仕事
- ・自分の宝物
- ○「『マドゥワンタくん』の回答を見ながら、自分の回答 と比べてみよう。」



- ・早寝早起きだな!
- ・家族の人数はいっしょだ。
- ・クリケットって、どんな遊びかな?
- すごく勉強するなぁ~。
- ・似ているところもあるよ。
- 〇「『スリランカの子どもの写真』を見て、その説明を考 えよう。」
 - ※3~4名の班を作る。(×8)
 - ※班全員で、1枚の写真の説明を考える。
 - ※「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どのようにして」 いる写真かを説明できるようにする。
 - ※時間があれば、「なぜ」しているかについても考えさ せる。
- ・どこで写した写真だろう?
- 何をしている写真かな?
- ・クリケットかな?
- セリフを入れてみよう。
- ○「班ごとに発表しよう。」
- ○「ワークシートに感想等を記入しよう。」

- ☆前時のふり返り「アーユーボーワン」等
- ☆ワークシートの配布
- ☆10の質問への回答を記入させる。
- ☆『自分の宝物』は、「物」でも「人」で も「物や人でないもの」でもよいことを 伝える。
- ☆「マドゥワンタ」くんの回答を、パワーポイントを使って紹介する。
- ☆スリランカの学校制度や、始業・終業が 早いという違いに気付かせる。
- ☆「学校生活」「家庭生活」「好きなもの」 「将来の夢」「大切なもの」がある点は、 自分達との共通点としておさえる。

(例)



☆写真の説明を例示する。 「今日の朝、学校の前で、

僕達は、おどりをおどりました。 なぜかというと、日本から来た お客さんを歓迎するためです。」

- ☆4枚の写真の中からランダムに選んだ 写真を、班に1枚ずつ配布する。
- ☆後で代表者に、説明を発表してもらうことを伝える。









☆同じ写真に対しても、多様な見方がある ことに気づかせる。

☆ワークシートに記入させる。

楽しまんか! スリランカ!

○ (その1) 『会話を楽しむ~スピーチタイム~』 「シンハラ語のあいさつを交わそう!」

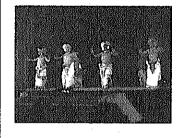
シンハラ語 「アーユーボーワン」 「マゲナマ〇〇」 「ボホーマ ストゥーティ」

○ (その2)『食事を楽しむ~ランチタイム~』 「食事の時の手の動きを真似しよう!」





○ (その3)『踊りを楽しむ~ダンスタイム~』「スリランカのダンスを踊ってみよう!」





○ (その4)『スリランカの味を楽しむ~ティータイム~』 「セイロンティーを味わおう!」





○「ワークシートに感想等を記入しよう。」

- ☆ワークシートの配布。
- ☆近くの友達や、教師と挨拶を交わす時間 をとる。
- ☆日頃使っている言葉と同じ感覚で話すように伝える。
- ☆食事の時の手の動きを動画で見せ、自分 達の右手を同じように動かせるかを確 かめさせる。
- ☆上手に動かせる子がいたら、その子の手 を投影機でプロジェクターに映し、紹介 する。
- ☆機会があれば、給食の時間を利用して、 実際に右手を使って食べる場面を設ける。
- ☆男女別にダンスの様子を動画で見せ、実際に真似して踊ってみるよう伝える。
- ☆多目的室を使い、踊る場所の確保をす る。
- ☆男女別に躍らせ、お互いのダンスを見合 い、良かったところも紹介し合う。
- ☆紅茶やミルク、砂糖を準備し、甘いミル クティーをポットに用意しておく。
- ☆セイロンティーを飲み、その感想を交流 する。

☆ワークシートに記入。

11. 評価方法

- ・【関心・意欲】 スリランカの生活、人々の暮らしに興味を持ったか (観察、ワークシート)
- ・【技能・表現】 スリランカのあいさつやダンスなどを表現できたか (観察)
- ・【知識・理解】 スリランカの子ども達と自分達の生活の違いに気付いたか (ワークシート)

【評価方法】: ワークシート、学習活動の観察、等

12. 苦労した点・改善点:

対象が3年生児童という点を考慮して、外国の文化をわかりやすく紹介することに配慮しながら、日本との「違い」と「共通点」を見つけられるような授業の組み立てを心掛けた。スリランカ文化を紹介するために、授業展開の工夫や、写真や動画を選択する作業に力を入れたつもりであったが、外国文化に慣れていない子ども達にとっては、受け止める内容が多い授業ではなかったかと反省している。

インタビューした内容を基に、スリランカの子どもと自分とを比較し、生活や習慣などの「違い」や「共通点」を見つけられた点は良かったと思う。しかし、フォトランゲージの手法を使い、スリランカの子どもの写真から情報を読み取り、多様な見方を発見させる活動と、そこから日本との「違い」や「共通点」を見つけ出す活動は、複数グループに複数の写真を配布したため、やや目標が不明瞭になってしまい、児童の意見や感想を十分引き出すことができなかった。

各グループに配布する写真を全グループ共通のものにするか、全グループ異なるものにするなどして、児童の想像力を養い、多様な見方があることに気付く活動のねらいを絞り、児童の異文化理解がさらに広がるように工夫改善を図りたいと思う。また、文化の違いがよくわかる写真を、選ぶことも大切だと感じた。

- 13. 授業づくりのための参考資料・引用文献:
- ・写真と動画(研修参加者、実践者撮影)
- ・「世界を知る 世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来~スリランカ民主社会主義共和国~」

(編集発行:財団法人 愛知県国際交流協会)

14. 学びの軌跡(感想文、作文、ノートなど)

◎1時間目

子ども達はスリランカという今まで知らなかった国の文化に興味津々だった。実践者がスリランカから持ち帰った衣装を身にまとい、裸足で現れると、大きなどよめきが起こった。衣装や国旗から感じた日本との違いを発表してくれる児童も多く、授業はやりやすかった。パワーポイントの写真一つ一つを細かいところまで見

~例からいたこと、考えたこと、学んだこと~ 「アーユ ボーワン」 日本書手では、「こんこちわ」、たらから、いろいろ は言葉がわかりました。

~気がついたこと、考えたこと、学んだこと~ えりうとかの人たるも同本のようなARを着ているの

えりをしれにもしな

スリテンカの人たちは、手でたか、ろくもいしか、くりした。

~##oliece、###ce. ###ce~ •スリランカのはたとあいさっを免し強 •できてよか、た。 •スリランカはいろんな人かいることか わか。た。

◎ 2 時間目

スリランカの子ども達に焦点を当て、子ども達の生活の一部を知ったり、彼らの生活を想像したりすることで、より身近にスリランカのことを感じることができたように思う。写真を見ながら、子どもたちなりに想像

力を働かせて話し合う姿が至る所で見られた。

~気かついたこと、考えたこと、学んだこと~ スリランカ (こも ねこやし) ゆかい いたのかずすご いて おもった。

~気がついたこと、考えたこと、学んだこと~ 免力引生 は大t刀なことをあらためて わかりました。

~気かついたこと、考えたこと、学んだこと~ スリランカの人は日本の月泉と同じ月泉 ききている人もいることを気かつきました。 ~しゃしん・せつめい メモ~

1002屋 100029買のみか 100029円のみか 100020ではあってしたで1)3

.

それませれっおみましょにキアいろ

~しゃしん・せつめい メモ~

no? ひろ とさでくこ。17°5 はno? 中学生 はEa7花を

erasserthaus spir is \$14.2

Ender かんけいのでも せいよ

~しゃしん・せつめい メモ~

1107まさ 1207トイレのであらし 1207トイレのであらし 1207年をまるっている 1200年によるでは、おんきで

~しゃしん・せつめい メモ~

いっ?屋ま とこで?手あらいの)はら、 はれが中本をのせいと はた*後秋のかたいせいけんで手をあらっては とんなものにしているのできますらってる。

それははほ7がんでまるんではいずんかり

◎ 3 時間目

スリランカの文化を体験した。「楽しみませんか!スリランカ!」というテーマのもと、会話や食事の時の手の動き、ダンスやお茶の味を体験的に楽しむことができた。意欲的に活動した最後に、お茶を飲んで静かに終わることができ、「楽しかった!」という感想も多数寄せられた。 限られた時間の中での短い実践であったが、これらの体験を通して、子ども達の中からは「日本とは全然違うけど、面白い。」「日本のお茶もおいしいよ。」などの声も聞かれ、異文化に対する気付きや理解だけでなく、自分達の文化に対する気付きや理解の深化が感

こうちゃかそこのこうちゃににてた。このとものできた。これには、

一般からいきこと、現るとこと、かんとことで 一句に服を持っていること、 -MAPPINECE、MARGE、MARGE-が一の食べ方は思ったよりなずかしかったです。如ら致(こな)ました。

~ RMOINECE、 47 RCE、 44 RCE~ スリランカは、おつりくにた、てき いてでいくりしました。そして、お茶かる ついてきいたのでが、くいしました。おどり はまずからがたですまた、時間がまた 少したけスリランカのコとだがほこ 今日は12人とうにボボスススティ じられたことは、とても嬉しく、興味深いことであった。



一の日の根間のかんとう スリランカの人はどはこれなに、おいしい中か を安欠んでしっるのかうらみましいです。

~今日の駐削のかんどう~

- 3日、またにも、よっはあいさつの1の、方で学と 日本で音響をおいさつかおり、べんんきょうにもなり、 楽しかたです。

FRANKINS! Z

・気がついたこと、考えたこと、学んだこと〜 たくこんのことを考めえてくれて すこくべんきょうに切けました。 ちちゅうきてでしらでほした?

15. 備考(授業者による自由記述)

今回、初めて教師海外研修に参加させて頂き、大変勉強になることが多く、私自身の異文化理解や一日本人としての視野も大きく広げることができたと感じています。およそ1年間の長きに渡り、お世話になりました大津先生をはじめ同行したメンバーの皆さん、JICA スタッフの皆さん、現地の皆さん、その他関わって頂いた全ての方々に深く感謝を申し上げ、まとめの言葉と致します。大変にありがとうございました。

平成 23 年度 教師海外研修 (派遣国:スリランカ民主社会主義共和国) 指導案 (兼実践報告書)

2.	対 象:帯広市立稲田小学校	3. 学習領域							
	特別支援学級ことり組 (6名)		1		2	3	4	4	
	授業者:水内 幸恵	A 多文化社会	文化	亚 妮	文化交流	多文化共生			
4.	教科との関連性:	B グローバル社会	相互的	太存	情報化				
	生活単元学習 総合の学習	C 地球的課題	人	権	環 境	平 和	開	発	
	14r0 F1 ←> 1 Fm	D 未来への選択	歴史制	忍識	市民意識	社会参加			
5.	実施時期:2012年3月9日10:40~12:15 2012年3月12日10:40~12:15	6. 時数: 4時間							
7.	単元の目標(評価の観点を意識して設定):		8	3. #	ーワード	:	,		
	【関心・意欲】・スリランカの子どもたちや食べ 【技能】・「同じ」と「違い」を表現することが	•	,		「同じ」と フレー	「違い」			

9. 単元について (教材観、単元設定の理由、開発教育/国際理解教育の視点等): 単元設定に当たり、以下の点に留意した。

・カレーの作り方や食べ方に違いがあるが、「おいしい」とわかる。

・【知識・理解】

① 特別支援(知的)の子どもにわかりやすいよう、言葉を平易にし、単純明快、親しみを持てるよう写真や クイズ形式ににし、ノートに写す作業やワークシートを用いることを避けた。

• 紅茶

サリー

- ② 同年代の子どもたちは、自分たちと同じ学校生活を送りながら、どんな遊び、そんな夢を持っているかなど、インタビューしたことを活用した。
- ③ 食文化の違いについて、カレーと紅茶を取り上げ、カレー作りと手づかみで食べるという体験を行い、食べ方(はし・スプーン・右手で食べる)が、国によって違うことを理解する。

よく知っている(または飲んだことのある)「午後の紅茶」を見せながら、学校でのティータイムとおやつ について写真を見せながら関心を持たせた。

Et mozf	A NATISTANCE A NATIONAL AND ADDRESS OF THE ADDRESS	T
順	主な学習活動と学習者(児童生徒)の意識 	留意点など
	「先生が冬休みに行って、学んできたことをクイズにして、みんなもスリランカの国を知ろう。」	
	スリランカの国ってどんな国かな?-	-緒に学ぼう!
)×クイズ)×リランカの国は赤道(一番暑いところ)近くにある	・退加させないように、飽きさせないようにパリイントと写真をプロジェクターに写して見せる。
	シスリランカは北海道より大きい	〇×クイズなので、1年生も参加できる ①正解は〇
) スリランカは北海道より人口が多い	②×少し小さい ③O
)スリランカの学校は日本と同じ4月から始まる	 ④×1月から始まるよ
4) スリランカの小学校は、朝7時半から始まる	・先生が学校訪問した時は1月6日、みんなま 勉強していた
6) スリランカの学校には制服がある	 ⑤ ○ 学校は、朝7時半から1時半ままっと短いけど、そのあと、塾へ行また勉強する人もいたよ。 ⑥ ○ 小学生から白いブラウスとネク下はスカートやハーフズボンだった。
6) スリランカの小学校で、インタビューしたよ。	マドワンダ君のインタビューとみんなのと比べ 1. 好きな食べ物はチョコ
	・みんなが書いてくれた	2. 好きな遊びはクリケット
I	好きな食べ物・・・ケーキ・チョコレート・いちご・肉・ハンバーガー・好きな遊び・・・かくれんぼ・プレゼント作り・おにごっこ・3DS	3. 家族は4人(父母・妹) 4. お手伝いは掃除と料理
	ゲーム・DS ゲーム	5. 勉強は2時間する
	・ 将来の夢・・・調理師・タレント女優・先生・ケーキ屋さん・ 好きな勉強・・・国語・算数・体育・家庭科	6. 将来の夢は医者
	などと比較してみるよ。	7. 理由は、スリランカの国を良くしたいから 8. 朝は5時におきる 学校へは歩いて30分くらい
i	「似ているところは何でしょう?」	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
'	好きな食べ物』 家族 4 人』	
	勉強する』	
l	「違うところはどんなところでしょう?」	
	お手伝いしない』 クリケットって何?』・「野球に似たスポーツです。」	
	夢(医者にはなりたくない)』	
P	早起きはしない(苦手だから)』	

スリランカの小学生と、違うこともあるけど、似ているところもあるね。

2

「スリランカの人の生活ってどんなかな?」

- ・「○×クイズをやります。」
- ① スリランカの人はドレスを着ている
- ・「今日は、先生のスリランカのお友達を連れ来ました」 「みんなで、あいさつしよう」 『アーユーボワン』
- ・「スリランカのエリーさんです。エリーさんが来ている服は、サリーと言います。スリランカでは、よそへ行くときや結婚式などにサリーを着ます。 日本でも、きものは、結婚式などに着ますね。」
- ・「エリーさんにも、クイズを出してもらいます。」
- ② スリランカの人は紅茶が好き
 - ・「午後の紅茶を飲んだことのある人いますか?」 ほぼ全員知っていたり、飲んだりしていた。
- ③ スリランカの人は、毎日カレーを食べる
- ④ スリランカの人は右手を使って手づかみで食べる
- ⑤ スリランカでは、満月の日は学校がお休みである
- ⑥ スリランカのタクシーは三輪車である
- ⑦ スリランカ人のトイレでは紙を使わない
 - ・一同『エー!?』とビックリする表情と声 「左の手はおしりを洗ったりする手なので、食事するときは使いません」
- 「スリランカのお金を見てみよう」

①×サリーを着ている

- 男性の腰にまくのはサロンといい、女性の はサリーという
- ・サリーは1枚の長い布からできている
- ・スリランカのお客さんの登場(別の教員が、サリーを着て、「アーユーボワン」と 合事して登場)
- ② 10時半ころから11時半ころまで、給食はないけど、お弁当やおやつを食べてもいい時間があるよ。その時に、紅茶も飲むんだよ。 ・午後の紅茶を見せる
- ③ ○私たちが毎日ごはんと味噌汁を食べるよう に、スリランカの人もカレーを食べるよ。
- ① 〇右手は食べたり、きれいなことをする手と決まっているよ。
- ⑤ ○学校も会社もみんなお休みになるよ。家族でお寺参りに行くよ。
- ⑥ (プロジェクターで見る)
- ⑦ ○水でおしりを洗うときに左手を使って洗う
- ・スリランカの硬貨(1ルピー・2ルピー) 紙幣(10ルピー・20ルピー・100ルピー) 実際に見たり触ったりする

サリーを実際に着てみましょう。 着た感想を言ってみよう。

『長くて、スカートみたいだ』。 『あったかい』 『歩きづらい』 『ドレスみたい』 『女の子みたい』(男子)

・子ども用サリーとサロンをそれぞれ交代で着せる

スリランカのカレーを作ります。

- 予め、役割分担を決め、役割分担表とレシピが書かれた模造紙を黒板に貼っておく。
- 1. 材料の確認をします。
- 2. にんじん・じゃがいも・玉ねぎは、皮むきします。
- 3. 肉も一口の大きさに切ります。
- 4. 鍋に水を入れます。
- 5. 切った野菜と肉を入れます。
- 6. 材料を煮ます。
- 7. あくをとります。
- 8. スリランカカレーを入れます。
- 9. ココナツミルクを水に溶かします。
- 10. ココナツミルクを入れます。

材料:にんじん・じゃがいも・玉ねぎ・肉・ココナッツミルク・スリランカカレースパイス・ご飯 (予め炊飯しておく→1 時間目から)・除菌ウェットティシュ・フィンガーボール (代用ボール)

包丁・皿・ボール・ざる・鍋の準備と洗う・ふきんで拭く。手を洗う。消毒する。 エプロン・三角巾つける。給食台の用意・Hの用意・紅茶・ミルク・砂糖・サーバー・お湯・カップ

- ・包丁で切る際の切り方、見本を見せて、注意 する
- ・衛生管理に注意する
- ・鍋に入れる際の注意
- ・1日で煮る際の注意

スリランカカレーを作った感想を言ってみよう。

・「煮込んでいる間、作った感想を発表してもらいます。また、ティータイム の紅茶を飲みます。」

『材料を切るところが難しかった』

『カレーのいいにおいがした』

『ココナツミルクを入れたので、味がどうなったか心配だった』 『スープカレーみたいだよ』

- ・材料は、スリランカでは、様々なものを入れ たりすることを伝える。
- ・スリランカのカレーは辛いので、今回は辛い スパイスは使用しなかった
- ・ココナツミルクはカレーをなめらかにして味を調える隠し味であることを伝える。

スリランカの紅茶を飲んでみよう!

・「スリランカの人は、砂糖をいっぱい入れたり、ミルクティーにしたりして 飲むよ。」

- ・カレーを煮込んでいる間に、スリランカの紅 茶を入れ、みんなで味わう
- お湯・紅茶・ポット・砂糖・牛乳

4

スリランカカレーを右手の指を使って食べてみよう!

- 11. ご飯をよそいます。
- 12. できたカレーをかけます。
- 13. 「いただきます」
- 14. カレーを右手の指を使って食べます。

右手でご飯とカレーを混ぜ合わせて、お母さん指、お兄さん指、お姉さん指の3本を合わせて、すくって、親指で口の中に押し出して食べるよ。

- ・カレーの盛り付け、やけどに注意
- ・指を使ってで食べることを抵抗する子や食べ 慣れないものを拒否する子がいるので、無理に させない。
- ・教師が見本を示し、手づかみで食べる。

スリランカカレーを食べた感想をどうぞ!

『うまく食べられない』

『ぐちゃぐちゃしたけど、おいしかった』

『おいしかった』

『辛いと思ったけど、あまり辛くなかったから良かった』

『スリランカの味がした』

世界には、いろいろな食べ方があり、スリランカでは右手の指を使って食事をします。指を使うと、触った感じや温度を感じながら食べることができますね。

11. 評価方法

- ・【関心・意欲】写真やサリー、紅茶やカレーを通して、スリランカの国や人々の生活について、関心を持って見たり、聞いたり、感想を述べることができる。
- ・【技能】サリーを着たり、紅茶を飲んだり、カレーを作って手づかみで食べたりすることができる。
- ・【知識・理解】「アーユーボワン」という言葉を使うことができる。スリランカの学校の子どもたちについて、 サリーについてなど理解することができる。

【児童生徒の反応】パワーポイント中心に「(写真を)見せる授業」と「(カレーを)作る授業」の2つにより、対象の子供たちには、よりわかりやすい、興味・関心を持ちやすい授業とすることができた。

12. 苦労した点・改善点:

特別支援学級には、知的障害のみならず自閉症傾向の子もいるため、スリランカカレーと聞いて、慣れ親しんでいるカレーと違うことを知ると「絶対食べないから」とか「変な(指を使う)食べ方するのはダメだ」という子がいたので、カレーを作るだけで食べなくてもOKという柔軟なやり方をした。また、食中毒等も流行っていたため、教師のみが指を使って食べることとし、児童は、スプーンで食べることとした。

13. 授業づくりのための参考資料・引用文献:

- ・世界の国を知る世界の国から学ぶ私たちの地球と未来「スリランカ民主社会主義共和国」、公益財団法人 愛 知県国際交流協会編
- ・実践者の撮影した写真、取材等

14. 学びの軌跡(感想文、作文、ノートなど)

私が冬休みにスリランカへ行くことを子どもたちに事前に伝え、同年代の子どもにも会ってくることから自己紹介カードを作成し、それに基づき、現地の子どもたちへのインタビューをした。

外国のあいさつや食べ物など身近なことに興味関心があるが、同年代の外国の子どもはどんなことをしているのか、知らない彼らにとって、スリランカの子どもたちと比較し違いや同じであることを明らかにすることで、とても興味関心が深くなった。

さらに、サリーやサロンを実際に手に触れ、着てみる、スリランカカレーを作ることによって、スリランカの国が一層身近になった。

授業が終わった後、やや時間が経っても、子どもたちの中には、「アーユーボワン」と合掌しながら、「スリランカのあいさつなんだよ。お母さんにも教えたよ」とやって見せる子もいて、かなり印象に残ったのだろう。また、「食事は手づかみで食べる人もいるんだね。いろんな人がいるね」と給食中にも話題に出す子どももいて、「いろんな人がいるね」と子どもなりの世界観が自然と広がってきたように見受けられるのがうれしい。

15. 備考(授業者による自由記述)

国の違いや同じ小学生が何を考え、どんな生活をしているのかを授業にしていくことで、特別支援を対象にした子供に、何を感じ、何を理解してほしいのかを明快にしていく過程の作業が難しいと感じられた。難しいと感じたのは、教師としての私であり、それは、やはり力量不足だと思う。

その力量不足を補うために、写真とパワーポイントにより、視覚に訴えることと、サリーやお金、スパイス類、紅茶等の実物を見せることができたこと、サリーとサロンを実際に試着することができたこと、スリランカカレーを一緒につくって食べることができたことにより、授業で興味関心を持たせることができたと思う。

平成 23 年度 教師海外研修(派遣国:スリランカ民主社会主義共和国) 指導案(兼実践報告書)

				7	-1- /	-114,5-4,0	24 LIV -		
1. 単元名(活動名) : 「光り輝く島~スリラ	ンカ〜の子どもたち	<u> </u>							
2. 対 象 : 千歳市立富丘中学校	3. 学習領域								
2年1組(35名) 2組(34名) 3組(35名)			1	2)	3	3		4
4組(34名)5組(35名)6組(34名) 授業者: 競 達 也	A 多文化社会	文化	3理解	文化:	交流	多文化	比共生		
4. 教科との関連性:	B グローバル社会	相互	i.依存	情報	化				
道徳	C 地球的課題	人	権	環	境	平	和	開	発
総合的な学習の時間	D 未来への選択	歴史	2認識	市民	鮨意	社会	参加		\
5. 実施時期: 2012年5月8,9,15,16日	6. 時数: 2時間								
7. 単元の目標(評価の観点を意識して設定):			8. =	ーワ	*	:			
【関心・意欲】 スリランカで生活する人々に関心を持つ。			平 と	ごもたる	ちのき	丰活			
【技能】			共愿			_/			
スリランカの同世代の子どもと自分の生活を比較	しながら、自分の生活	5を 	違し	と同じ	ٔ ر				
振り返ることができる。			振り)返り					
【知識•理解】									
スリランカの同世代の子どもたちの生活や考え方	を理解する。								

9. 単元について(教材観、単元設定の理由、開発教育/国際理解教育の視点等)

事前研修の中で、スリランカの就学率、識字率の高さを知ることはできた。在外事務所での NS (ナショナルスタッフ) キシャニさんの話、実際に学校を訪問し、子どもたちへのインタビューで生の声を聴き、改めて学習意欲の高さに驚かされた。もちろん「試験で良い点を取るため」毎日学習に時間を割いているわけだが、「こうなりたい」「こんな仕事がしたい」という最終目標がある。そのために「今努力するんだ」、という意思が伝わってきた。将来の夢を自信を持って答えられるところが素晴らしいと感じた。

自校では「とりあえず」「みんなと一緒で」という、自分の意思があまり感じられない回答をする生徒が少なからず存在する。現段階での「将来の夢」を持ち、毎日の生活を送ってもらいたい。「スリランカの子どもたち」を通じて、「夢」を持つきっかけになればと思う。

スリランカの子どもたちが、日本という国に対しての憧れや非常に良いイメージを持っている。これまでの スリランカと日本との関わり、つながりがあるからこそである。その関わりやつながりを伝えてきたのは、子 どもたちの親であり、大人たちであることは言うまでもないが、日本の国際協力も一つの役割を果たしている のではないだろうか。

スリランカという国をある程度知った上で、そこに暮らす人々の生活に触れ、さらに同世代の子どもたちの生活の様子を伝える。他の国の「中学生」、同世代の子どもの生活を知り、自分の生活と比較したり、毎日同じように教室で生活している友達の生活と比較することによって、相違点、共通点に気付かせ、その背景にあるものを考えることは自分自身を振り返るきっかけとなると思う。

10. 愿	瞬計画(2時間扱い)	
展開順	主な学習活動と学習者(児童生徒)の意識	留意点など
[1]	【スリランカという国を知る。】 シンハラ語であいさつ。 シンハラ語で自己紹介。 挨拶をしよう	
8分	「まずはじめに、シンハう語であいさつをしてみます。」 「アーユボーワン」「これが日本語のこんにちはです。」 「それではみんなで言ってみよう。」 「両手を合わせて、アーユボーワン」 「次は自己紹介をしてみます」 「マゲナマ たつやきそう」 「わたしはきそうたつやです。」 「それではマゲナマのあとに自分の名前をいれて言って みてください。」	手を合わせることを忘れない。
	「せっかくなので、班の中でお互いに挨拶と自己紹介を して見てください。」「はいどうそ。」	
		簡単にスリランカの情報を提供する。 地図(グーグルアーズ)で北海道とスリランカの位置関係をつかませる。
10分	スリランカを探せ	 WS 1 を配布 写真
	「8枚の写真があります。この写真が『スリランカ』の ものと思うものには〇を、違う国のものと思う場合は× を記入してください。また、そう思った理由を『決めて!』 の欄に記入してください。」	①ゾウ ②学校(ムスリム) ③学校(シンハラ) ④道路の様子(コロンボ) ⑤街並み(ビルから) ⑥歩道の様子(キャンディ) ⑦トイレ(ホテル)
	写真を見て気付いたことも記入していく。	⑧トイレ(キャンディの劇場)*学校の校門前の写真はどちらかを、違う
10分	班での交流	国のものと判断する可能性がある。
	「自分が決めた答えを班の中で交流してください。特に、 自分が判断した理由を他の人に伝えてください。」 「写真を見て気がついたことも、班の中で交流しておい	*トイレの写真もどちらかを、違う国のものと判断する可能性がある。 何となくとかカンでというのはなく、な
	てください。」	ぜそう思ったのかという理由をきちん と他の人に伝えるよう強調する。
	「このあと、全体で交流するときに〇か×のどちらかに 班で手をあげてもらいますので、写真ごとに〇×を決定 してください。」	

	全体で交流	(PPT)
12分	全体で交流しながら、〇×の確認をする。 「決め手!」「気がついたこと」の発表をする。	1枚目:国旗 2枚目:スリランカ国補足情報
	「各班で話した内容を全体で交流しながら〇か×かを確認	北海道と比較しながら表示、説明する。
	していきます。」	3枚目以降WSの写真の順に提示し、説明を加えていく。
	「写真ごとに〇か×かどちらかに手を挙げてください。」 「決め手!」も確認します。	
	一大の子!」も唯識します。	*写真の解説 一方的な情報提供にならないように注意
	なぜそう思いましたか?	する。写真等の提示、質問、気が付いたことなど言葉のやり取りをしながら行う。
	「~だから、〇 (×) だと考えたんですね。」 「違う理由がある人は手を挙げてください。」	②先入観やイメージで自分の考えが左右 されたりすることを知る。
	スリランカという国を知ったことで、考えたこと、	
10分	感じたこと、気がついたことなどをワークシートに書い	·
	てください。	
	次回の授業で使いますので、忘れずに宿題をやって持っ てきて下さい。	【宿題】の提示、WSの配布 スリランカの子どもたちにおこなったインタビューと同じ内容の質問に答えを書
	挨拶をして終了	いてくる。
[2]	【スリランカの同世代の生徒の生活を知る。】 1回目と同様に挨拶をおこなう	[DDT] 4 ## C + = ##
10分	スリランカについてみんなはどんなことを感じたのだろう	【PPT】1枚目:表紙 【PPT】2枚目:気づいたことから 子どもたちが抱いたスリランカのイメー
1023	「自分が考えたこと、感じたこと、気がついたことがと	ジを全体に還元するために、前回の授業で 書いたワークシートからいくつか紹介す
	│	నే.
	じことを考えることもあれば違うことも当然あります	
	よね。」「違うのが当たり前とかもしれません。」	
	そんな考えかたもできるのか。そうはおもわないな。	
5分	気がつかなかった、など。	【PPT】3枚目:カウシャーリアさんの自己紹介
	カウシャーリヤさんの自己紹介を読もう。	個人で黙読後、教師が再度音読する。 特徴的な部分は強調して読む。
	「彼女はみなさんと同じように学校に通うスリランカの	「 ● ○ ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●
	女の子です。年齢はみなさんよりも少し上になります。」	
	「まずは各自で黙読をして下さい。全員が終わったら私	
	が再度読みます。」	

5分

カウシャーリアさんのインタビューの回答をみよう

「みなさんの宿題と同じ質問をカウシャーリアさんにもしています。これからその回答を表示しますのでWSに書き写して下さい。」

【PPT】4枚目:カウシャーリアの回答

回答に対する質問等があれば答える。

日本語? クリケット? など

各自WS(質問の回答)を返却する。

カウシャーリアさんと自分の回答を比較してみよう

個人で似ている回答と異なる回答をWSに書き出す。 個人 → 班 → 学級の順で交流する。

気がついたことをWS にメモする。

クラス全体で交流する。

10分

「カウシャーリアさんの回答について、気づいたことや思ったことがあると思います。それを交流します。」「各班から発表して下さい」

振り返りシートへの記入

「WS のそれぞれの項目に記入して下さい。」 「前回と今日の2回の授業を通して、考えたことなどを記入して下さい。」 カウシャーリアさんのことを知って、考えたことや、自分の周りの人が考えていることなどを聞いて感じたことなども書くように促す。

11. 評価方法

【関心・意欲】

スリランカで生活する人々に関心を持つことができた。(振り返りシート)

【技能】

10分

スリランカの同世代の子どもと自分の生活を比較しながら、自分の生活を振り返ることができた。 (振り返りシート)

【知識・理解】

スリランカの同世代の子どもたちの生活や考え方を理解することができた。(WS)

【生徒の反応】 ※ いずれも抜粋

【1時間目終了後】

①今日の授業で考えたこと、感じたことを書いてください。

JICA では貧しい国に支えんを送っているので自分たちもがんばらなければならないと思った。 スリランカと日本は違ったところもあるけどにているところもあると思った。 スリランカは楽しそうで 1 度行ってみたい。

スリランカは日本とは違うなと思った。

特色が違う国や島でも一緒に共存しているということ。

同じ国でも地域によって環境が全然違う。写真とか見ていると全部スリランカの写真だとは感じられなかった。 日本でよかった。

北海道より小さくても国が作れること。

みんなスリランカに対して、いろいろなイメージや考えを持っていて、一人ひとり違うということ。いろいろな意見がある。

最初は、先入観でスリランカは、貧しそうで、きたなそうだなぁと勝手に思い込んでいたけど、ちゃんと洋式のトイレがあったり、民族衣装があるんだなと思いました。

自分の中のスリランカのイメージは、象とか絶対いなくて、車や洋式のトイレもなくて…という感じでした。 感じたことなどは、写真を良く見て考えてみるといろんなことに気づくことができ、人それぞれの意見もあっ ておもしろかったです。

きれいなところときたないところがある。

意外とスリランカはすごかった!もっといろんなことを知りたい!

②今日の授業で気がついたことを書いてください。

特にありません。

意外と知らないことが多い。

宗教によって通う学校が違うということ。日本じゃまず考えられない。

③、④の写真の中に三輪タクシーがあり、スリランカとわかった。②は違う国だと思っていたけど、イスラム教の学校だった。学校はすべて小中高すべて一緒。

スリランカでは写真を見て都市的なところもあれば良くないところもあると思った。

スリランカは意外と貧しくない。

文化や気温などといった特色がスリランカと日本で違う。

冷帯と熱帯の差があり服装が違う。

スリランカはインドっぽいところもあるけどタイや、中国っぽいところもある。

スリランカは貧乏などというイメージを持っていたけど、全くそうではなかった!!

あまり先入観で決めつけたらだめだと思いました。

勝手な自分のイメージは、イメージだけであって、本当は全然違うんだっ、ということがわかった。服や建物、その他の物など日本とは違ったり同じだったりするものがあった。写真を見ても、どれがスリランカか全てちゃんとわからなくて、他の国のことは何も知らなかった。

スリランカを頭の中で勝手に、少し不便そうとかいうふうに思っていたけどそうではなかった。 スリランカはすごい。

12. 苦労した点・改善点:

・授業時間の確保が一番苦労した。

- ・写真の選択にかかる時間はかなりであった。
- ・今回の授業は2時間扱い、学年6クラスで実施させていただくことができた。そのため1日3コマずつ、計4日間で実施した。可能であればプレ実施のクラス、修正、本実施という展開でできればなお良かったのではないかと思う。今回には、1日3コマの中で少しずつ修正をしながら実施した。
- ・中途半端な準備で参加したため、現地での取材活動がぼやけてしまい、いざ授業を作っていくという段階で 何度も迷ってしまった。

13. 授業づくりのための参考資料・引用文献:

平成 22 年度開発教育指導者研修報告書 JICA 中部

-子どもを世界につなげる-スタディーツアーを生かした国際理解教育/開発教育教材集 石狩管内国際理解研究協議会

14. 学びの軌跡(感想文、作文、ノートなど)

【2時間目終了後】 ※ 抜粋

2回の授業を通して考えさせられたこと、感じたことを書いてください。

自分のイメージだけで国が貧しそうだと決めつけること。

スリランカの人は自分から勉強していてびっくり!!

宗教が大きく影響している

学校は昼で終わるけど、塾や夜も勉強していること

カウシャーリアさんをはじめスリランカのみんなは、めっちゃ勉強しているのがすごいと思った。

なんかいろいろ知れてよかった。スリランカに行ってみたいと思った。

その国の特色がよくでている。

もっと勉強しようと思った。

手伝いをもっと積極的にしようと思った

貧しいところをなくしたいと思う

日本とは大きな違いがある国があること

スリランカの人は勉強をたくさんしていたけど、無理矢理ではなく、自らしていると思った。

他の国のことは、あまりしらないのでもっと知っていきたいと思います。

イメージでは悪かったけど、実際に見てみると意外にいいところもあった。

日本と違うところも似ているところもあっていろいろびっくりしました。

スリランカは楽しそうでもっと知りたくなった。

日本は素晴らしいとあらためて感じた。

スリランカの人は勉強が大好きで頑張っている

スリランカの人はとても勉強を頑張っていて、自分たちよりもすごいから、頑張らないといけない

15. 備考(授業者による自由記述)

今回授業作成にあたり、当初は教科(保健体育の保健分野)で活用できないかと考えていたが、総合、道徳 での内容に変更した。研修先で収集した貴重な情報を活用するにはその方が良かったと思う。

年度をまたいでの実施となる状況を考え、あらかじめ準備をしておかないと本当に時間がなくなってしまったり、思うような授業を展開できなかったりすることになると思う。

例えば、前年度中にプレ授業実施したとしても、次の年度で違う学年になってしまったり、担任を外れてしまったりと、様々なことが起こりうる。

まずは校内的にこの授業を実施すること。そのための計画をあらかじめ準備し、自分の考えている展開ができるように準備をしておくことが望ましい。管理職や学年に提示し、次年度の計画しておくことができれば、ズムーズに授業を行うことができる。実際、総合の時間が削減され、取り扱いにも自由度がなくなってきていることは間違いない。

思っていた以上に、生徒たちは色々なことを感じ、考え、想いをワークシートや感想に書いていた。正直驚いてしまった。自分が考えていた「意見を交わす」活動についても、普段の生活を見ていると難しいかと思っていたが、思っていたよりはるかにできていた。

今後もこの授業を他の学年などでも実施していくことができればと思っている。

1. 単元名(活動名): 「国際貢献の在り方を考	える」	147		·	
2. 対 象:	3. 学習領域		1.01-5	***************************************	<u> </u>
北海道教育大学附属札幌中学校 3年C組(42名)		1	2	3	4
授業者: 菅谷昌弘	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
4. 教科等との関連性: ・社会科(公民的分野) 「私たちと国際社会の諸	B グローバル社会	相互依存	情報化		
問題」 ・道徳4-(10)「世界の中の日本人としての自覚を もち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の	C 地球的課題	人 権	環 境	平和	開発
幸福に貢献する。」	D 未来への選択	歷史認識	市民意識	社会参加	
5. 実施時期: 2012年 3月	6. 時数: 2時間	***************************************		2 1/1/18/11/1	

7. 単元の目標(評価の観点を意識して設定):

【知識·理解】

スリランカにおける日本の国際貢献について理解する。

【技能】

スリランカと日本の共通点と相違点、つながりを見つけることができる。

【関心・意欲】

スリランカで活動している日本人に関心をもつ。

9. 単元について(教材観、単元設定の理由、開発教育/国際理解教育の視点等);

今回の研修では、現地で活躍している青年海外協力隊などの方々に会い、話しを聞くことができた。彼らの、青年海外協力隊は、日本政府のODA予算により、JICAが実施する事業で、開発途上国からの要請に基づき派遣された、技術・知識・経験をもった人たちである。この研修では、発展途上国のようすだけではなく、そこで活動している日本人のようすを知ることができた。

本単元では、世界平和のために、世界の国々ではどのような協力が行われているかを理解させたり、どのようなことができるのかを考えさせたりすることを、主なねらいとしている。

「国際貢献」というと、先進国が発展途上国に援助する資金や道路や鉄道、ダムなど社会インフラ中心にイメージすることが多い。ODAや国連など国を単位とした国際協力や資金協力、資金貸し付けなどお金の移動を思い浮かべることが多い。しかし、そこには人の姿が思い浮かぶことが少ない。国際貢献は、人がいなくては成り立たない。そこで、国際貢献の在り方について、現地で活動している人、特に実際に出会った日本人に焦点をあて、よりよい社会を築いていくために世界平和の視点で考えられるようにしたい。ODAは、先進国が発展途上国へ資金協力、技術協力、資金貸し付けなどを行い、発展途上国の自立を目指すものであるが、現在も南北問題として、歴史的背景を払拭できずにいる。青年海外協力隊の活動は、赴任先の国内だけの活動であるが、青年海外協力隊で活動している人は、赴任先の国や地域のことはもちろんのこと、世界平和の在り方を考えるなど、広い視野で自分たちの活動を見ている。このようなODAや青年海外協力隊の現状を、国単位の視点だけではなく、そこには日本人が活動していることを理解し、国際貢献を通して、世界平和を尊重していこうとする態度の育みも期待したい。

8. キーワード:

- ・国際貢献
- ODA(政府開発援助)
- · 青年海外協力隊

10. 展開計画(2時間扱い)

展開順

庤

間目

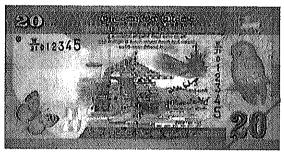
主な学習活動と学習者(児童生徒)の意識

この紙幣は、どこの国の紙幣だろうか。

- *単位は何だろう。 *「RUPEES」と書いてある。
- *「SRI LANKA」と書いてある。



(50ルピー:マナンピティア橋)



(20ルピー:コロンボ港)

スリランカと聞いて、どのようなことをイメージしますか。

- *貧しい *発展途上国 *よくわからない *インドっぽい *日本より遅れている
- それでは、実際のスリランカの写真を見てみよう。
- ・渋滞する街中 ・日本の会社名があるトラック
- ・仏歯寺 ・山の斜面の紅茶畑 ・シーギリヤ博物館



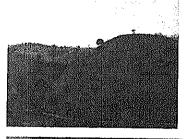


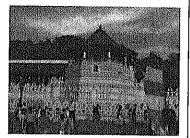


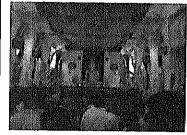
留意点など

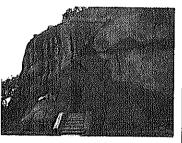
- ・20ルピー札、50ルピーを実物投影 機で提示する。
- ・スリランカの紙幣ということに気付か せ、地図などで場所を確認する。

- ・写真を見て分かることや気が付いたことなどを生徒が自由に発言できるよう に促す。
- ・日本と異なる点だけではなく、車の渋滞や仏教国、またはスリランカの紅茶が日本でも飲まれていることなどに触れ、日本と同じ点や日本とつながりがあることに気付くようにする。



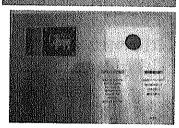






シーギリヤ博物館に行ったときに、このようなプレートが ありました。また、空港にも似たようなプレートがありま||・プレートに書かれている内容を確認す した。なぜ、このようなプレートが貼られているのだろう







*日本とスリランカが何か条約を結んだ証明かな。 *日本がスリランカに何か送ったのかな。

ところで、先ほどの紙幣に描かれていたのは何だろう。

*道路 *タンカー

日本の紙幣に描かれている図柄は何だろう。

- *1万円が福沢諭吉 *5千円が樋口一葉
- *千円札が野口英世

紙幣の図柄には、どのような意味があるのだろうか。

- *その国の特色
- *その国にとって重要なもの
- *その国が誇るもの

- る。
- ・シーギリヤ博物館は日本の支援によっ てつくられたものであることを伝え る。
- ・シーギリヤ博物館のプレート内容 「日本国とスリランカ国との友好と協力 の証として日本の国民より贈与されま した」
- ・空港のプレート内容 「日本とスリランカの友好の証として新 離発着コンコースは国際協力銀行 (JBIC) を通じ日本国民及び日本政府 の支援によって建設された」
- ・スリランカの紙幣を提示する。
- ・紙幣に描かれている橋や港などは、日 本のODAによってつくられたことを 伝える。

なぜ、スリランカの紙幣に橋や港の図柄が描かれている のだろうか。

- *それが今のスリランカにとって大切だから。
- *これから発展を目指すという意気込みみたいなものを 表している。
- *発展途上の段階だけど、国民全体でこんな国にしていこ うという頑張りを見せるため。

この人たちはスリランカで出会った人たちです。彼ら は、スリランカで何をしているのでしょうか。







石王さん

萬さん

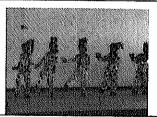
* 青年海外協力隊の人だから、スリランカの役に立ってい ることだろう。

それぞれの人の活動に関する写真とスリランカの基礎資 料を見て、スリランカでどのような活動をしているのかを 考えよう。



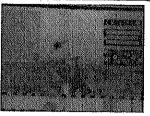












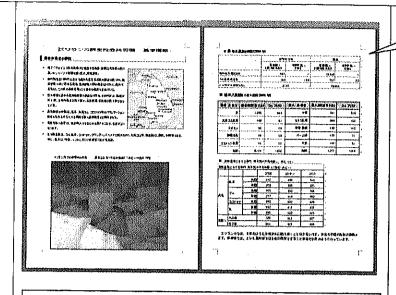
- ・本時の振り返りを行う。
- ・青年海外協力隊の3名の写真を提示す る。

・それぞれの隊員が活動している場所や 関わっている児童生徒、関係するもの などの写真を印刷したプリントを生徒 に配付する。

石王さんに関する資料 (他2枚)

萬さんに関する資料 (他2枚)

森さんに関する資料 (他2枚)



自分で考えた活動内容をワークシートに記入し、班内で 交流をしよう。

- *稲が広がっているから、石王さんは農業に関することだよ。お米の値段は1キロが56ルピーということは、日本でいうと約40円…。安すぎない?農家は続けられるのかな?
- * 萬さんは幼稚園児に何かを教えているんだ。
- *森さんは小学校の先生だ。

彼らの活動には、どのような意味があるのだろうか。

- *スリランカの発展に役立つ。
- *これからのスリランカをつくっていく子どもたちを育 てている。
- *この活動はスリランカだけではなく、何か、他の国にもつながるものなのかもしれない。

スリランカ基本資料

・基礎資料の主な内容

スリランカの農林水産業の概要、輸出 入農産物、男女別の平均日給、米の価格 が分かる市場の写真

- ・各班から、交流内容について発表させ る。
- ・各班からの発表を終えると、彼らの活 動内容と、彼らがスリランカに来たとき の感想を紹介する。・石王さん…日本の農 協のような組織をつくり、農業改善を行 っている。「スリランカの人は何をするの も家族を優先する。『大切にしたいもの は?』と聞くと子どもの多くが家族や両 親と答える。」・萬さん…幼児教育の指導 を行っている。「バスでは普通に席をゆず ったり、荷物を持ってくれたり、どこに 行くのと知らない人が声をかけてくれた り、スリランカの人は親切で、最初はそ のことが自分にとって重く感じた。裏を 返せば、日本ではそのようなことがほと んどなかったということだと感じた。」・ 森さん…小学校を巡回し、算数や理科の 教科教育の指導を行っている。「スリラン カの人は失敗を受け入れてくれます。失 敗しても『あなたが悪いわけではない』 と優しく接してくれます。」

本時の振り返りを行う。

- 11. 評価方法:授業の中での生徒の発言やワークシートの記述内容から、スリランカにおける日本の国際貢献について理解し、スリランカと日本の共通点と相違点やつながりを見るけることができたかを見取る。
- 12. 苦労した点・改善点: 教科目標にせまるために、スリランカのどの事柄を取りあげるといいのか、また、どのように扱うといいのかなど、その選択が難しかった。

- 13. 授業づくりのための参考資料・引用文献: ・世界国勢図会 2011/12 (矢野恒太記念会)
- ・2011 データブック オブ・ザ・ワールド (二宮書店)

・外務省ホームページ (http://www.mofa.go.jp)

14. 学びの軌跡(感想文、作文、ノートなど)

JICAとしてスソランカで活動している日本人の方のはすごいと思った。地域で大切な存在の1人として働いていると思った。活動の種類は様々で、村もっく、たり先生など、どんなことでも世界で困っている人の役に立てると思った。地域によって問題は違うけどそれで本に信った解決ができる

青年海外協力隊が現地でどのような存在なのかを考え、その意義をとらえている。

国としてけるのではなく、国の中の地域ごとにけて、その地域の現状に合った活動を行うこと。

また、日本の考えをかしつけるのではなく、相手の地域の文化を尊重したよでの

活動をすることの

国際貢献を生活の改善だけではなく、相手国の文化を尊重する視点で考えている。

主観ではなくて客観的は観点から治動をすること。
つまり、49分しかいかことをすればいいといかイメージや国定観念がからただ
移助としてももしかしたらられは下水電なことだったりを計なお節介であるから
しれない 今どかいかことが必要とされているのかといかことを対分に

理解レルとでもれにあれせて自分(風)ができることをしていくのがベストなした。

授業後に、これまで抱いていたスリランカのイメージから、良いイメージに変 わったことが見取ることができる。 国際質がは一方的ないのではながれているがではながれている。

アリラニカけもかときい、発展はいないなーニーだったけど、写真を見ると意外とそうでない人だけなと思ったの

日本人が付けの国に自分のシンだけでは相手のためを考えてポラニティアに行く、これは日本人だけでですく世界の上のの万手本となる姿だなを見じたの



女性の民族衣装であるサリーをリサイクルしてつくられたバックをもつ男子生徒。 思っていたよりも、しっかりと縫製されており、生徒は驚いていた。

15. 備考(授業者による自由記述)スリランカの写真や現地での話は、その情報量が少ない分、生徒たちにとっては大変興味深いものであった。スリランカに対するイメージが変わったり、青年海外協力隊に代表される日本の人的国際支援について考えさせられたりしたという生徒の感想から、今回取り組んだ意味があったと思われる。

1. 単元名(活動名): つながる心~大切なもの	のはすぐそばに				
2. 対 象: 音更町立下音更中学校	3. 学習領域			. 7014	
2年生		1	2	3	4
授業者:谷崎城	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
4. 教科との関連性:道徳	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人 権	環境	平 和	開 発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
5. 実施時期:2012年2月27日~3月2日	6. 時数:3時間				, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,

7. 単元の目標 (評価の観点を意識して設定)

【関心・意欲】

○スリランカの人々の暮らしに関心をもつことができる。

【技能】

○フォトランゲージなどで自分の考えを述べることができる。

【知識・理解】

○スリランカと日本の同じところや違うところに気づき、他とのつな がりを理解する。

8. キーワード:

- 同じと違い
- ・思いやり
- 感謝
- ・つながり

9. 単元について (教材観、単元設定の理由、開発教育/国際理解教育の視点等)

学級・学年の実態として、自己中心的な考えの生徒が目立っている。その一方で、我慢を強いられている生徒がいるが、「だめなことはだめ」と言えない雰囲気が全体に漂っている。狭い仲間意識もはびこり、親しい友人以外に対して無関心なところが見受けられる。言い換えれば、特定の仲間集団の中に安心感を見い出そうとする一方、広く他者と意思疎通を図ることには消極的であるということである。また、やってもらってあたりまえという意識が強く、物事に感謝する気持ちが薄い。

今回のスリランカ滞在中に感じたことは、スリランカの人々は『思いやり・感謝』の念を強くもっているということ。具体的には、①「何でも分け合う習慣がある。」②「おもてなしの文化が根付いている。」③「失敗に対して寛容である。」④「動物を大切にする。」…といったところから思いやりの心の深さを感じた。また、自分の誕生日には、ケーキを学校や職場に持っていき皆に配ったり、母親にプレゼントする子がいるという話は、自分が生まれてきて大きくなったことに対する感謝の気持ちの表れであると思う。どの生徒にインタビューしても、自分を育ててくれた両親をとても大切に思っていると答えたことも印象的であった。

今の日本の子どもたちは、決して『思いやり・感謝』がないというわけではない。ただ、人間関係の希薄化や、他人を気遣う時間的精神的余裕のなさ、'あたりまえ'に浸かりきった生活、さらには素直にそういった感情を表すことの気恥ずかしさ…などといったものがあるのだと思う。

そこで、スリランカの人々の『思いやり・感謝』に関するエピソードを交えながら、スリランカの生徒の考えを自分たちの考えと比較し、自分を見つめ直すきっかけになればと考えた。比較の一つとして、今回、日本の生徒とスリランカの生徒に、"大切なもの"というテーマで絵を描いてもらった。極端な違いがあるとは言えないが、スリランカの生徒の絵は少なくとも、家族愛の深さ・今あるものへの感謝の気持ちが表れている絵が多かった。物質的豊かさより精神的豊かさにスポットを当て、"人とのつながり"の重要性を再認識させていきたいと考え、本単元を設定した。

また、2次的目標としては、自分たちとは異なる価値観や文化に触れさせることで、物事を様々な角度から見ることの大切さに気づかせたい。気づかせることで、学級内でたとえ意見が違ったり性格が合わなくても、互いに理解し合い尊重し合う姿勢を養いたいと思う。現状では、相手のことを理解せずに排除しようとしたり、避けようとしたりする傾向が見られるからである。

他者との関わり方や自分をどう表現するかについて悩んでいる生徒が多いので、他者との関係を築くため、コミュニケーションの能力を高める活動及び学び合いや対話を大切にしながら進める学習にしていきたい。

10. 康	提開計画(3時間扱い)	
展開順	主な学習活動と学習者(児童生徒)の意識	留意点など
1時間目	【スリランカを知る】	#44T 32 Fvz 12
	<u> レンハノ間でめいさつをしてみより </u> 隣の人どうしであいさつしあう。 ・スリランカでは、こういうあいさつなんだ ・なんか楽しいな	・教師が「アーユボーワン」とシンハ ラ語であいさつした後、生徒にも言 わせてみる。近くの人ともあいさつ させる。
	スリランカに対してもっているイメージを出し合おう個人で思ったことを発言する。・暑そう・貧しそう・紅茶・島国	・知っていることでも、思い込みでもいいので、多くの発言が出るように促したい。
	スリランカのことを知ろう パワーポイントを見る。 ・北海道より小さいんだ ・首都の名前が長いね	・スリランカの基本情報(位置・面積 ・人口・宗教・民族・言葉)を、パ ワーポイントに映し出す。
	スリランカ○×クイズに挑戦しよう!個人ごとに、ワークシートに答えを記入する。Q1 スリランカの人は、カレーを手で食べている。Q2 スリランカの紙幣には、バンザイをした大統	・パワーポイントに問題を映し出す。 答えあわせとともに補足説明をして いく。
	領が描かれているものがある。 Q3 スリランカの赤ちゃんを「かわいい」と褒め てはいけない。 Q4 スリランカではトイレで紙を使わない。 Q5 スリランカで最も人気のあるスポーツは野球 である。	Q1 正解は〇 Q2 正解は〇 Q3 正解は〇
	Q6 戦後、世界で一番早く正式に日本と外交関係を結んだ国はスリランカである。Q7 スリランカでは木造の家が多い。Q8 スリランカでは、小学校から大学まですべての教育が無料である。Q9 スリランカには、スパイス入りの歯磨き粉が	Q4 正解は〇 Q5 正解は× Q6 正解は〇 Q7 正解は× Q8 正解は〇
	ある。 Q10 スリランカの親は子のことを宝石と呼ぶ。	Q 9 正解は○ Q10 正解は○
	スリランカのモノに触れてみよう グループ毎に、お金、歯磨き粉、新聞、宝くじ、 数学の問題集、お玉 etc…に触れる。 ・いろんなお札があるね	・このグループは生活班とする。
	・この歯磨き粉、スパイスの匂いがする・この宝くじ、当たったらいくらもらえるの?・数学の問題って、日本と似ているね	
	日本とスリランカ、どちらの国の写真だろう	・日本とスリランカの写真を混ぜたも
	グループで相談しながら、なぜそう思ったのかと いう理由もあわせて、答えをワークシートに記入 する。 ・①は見たことあるぞ	のを各班に配る。最後に、答え合わ せとともに解説を加える。
	・⑦は象が写っているけど雪もあるな・⑧はドラえもんだけど、変な文字があるぞ	·

etc...

《日本?スリランカ?》

- ①下音更中学校の校舎。
- ②コロンボ市街。
- ③ヌワラ・エリヤの茶畑。
- ④コロンボの街を走るバス。
- ⑤線路上を歩く人々。
- ⑥農村の民家。
- ⑦おびひろ動物園の象。
- ⑧テレビ放送のドラえもん
- ⑨スーパーの商品。
- ⑩エレベーターのボタン。
- ⑪ケンタッキーフライドチキン。
- ®ボンカレー。

何の画像なのか(何をしているところなのか)を グループごとに話し合ってみよう

グループで相談した後、グループの代表者が発表する



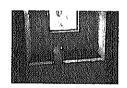
『象のフン』



『花を売る少年』



『結婚式に向かう二人』



『トイレの水くみ場』 etc…

動画やスライドを見て、日本と同じところや違うところについて、ワークシートにまとめてみよう

各自、ワークシートに記入する。

・ワークシートを回収する。

2時間目

【スリランカ人の思いやり・感謝について考える】

前回、自分がまとめたワークシートを見て、グループごとに気づいたことを交流してみよう

代表者が前で発表して、全体で共有する。

ジグソーパズルのように、分割された写真のピースを組み合わせて、写真を完成させよう

アルファベットごとに、指定された場所に移動 する。ピースの裏にアルファベットが書かれて いない場合は、声をかけあって場所を見つける。

- ・前時のワークシートを各自に戻す。
- ・1人1ピース渡す。いくつかのピースの裏にはアルファベットが書かれており、同じアルファベットごとに写真が完成できるようになっている。
- ・先に、5~6の机のかたまりを作っておく。
- ・出席者で完成できるように、ピース

- ① 正解は日本
- ② 正解はスリランカ
- ③ 正解はスリランカ
- ④ 正解はスリランカ
- ⑤ 正解はスリランカ
- ⑥ 正解はスリランカ⑦ 正解は日本
- ⑧ 正解はスリランカ
- ⑨ 正解はスリランカ
- ⑩ 正解はスリランカ
- ① 正解はスリランカ

・スライドを見せながら、画像につい

⑫ 正解は日本

て質問する。

- ・左上の部分を持っている人はいる?
- ・子どもの顔が写っている部分を持っているよ





の数を調整する。写真Aと写真Bをもつ班が3班ずつつくれるようにする。

完成した写真は、何をしているところだろう

各グループごとに代表者が前で発表する。

写真A『道路脇の果物屋』

- Q. 運転手のサマンは、マンゴーを食べたくて果物 屋に寄りました。彼はこの後、買ったマンゴー をどうしたでしょうか?
 - ・みんなにあげた
 - ・皮ごと全部食べた

正解: 車内のみんなに分け与えた。

写真B『子どもにケーキを食べさせている大統領』

- Q. 大統領は何をしているのでしょう?また、それ はなぜでしょうか?
 - ・人気を得るために子どもにケーキをあげている

・子どもの誕生日だからケーキをあげている 正解:大統領の誕生日なのでケーキをあげている。

グループ対抗3択クイズ!

パワーポイントを見て、A・B・Cのうち、正解と 思う札をグループで相談して挙げる。

Q1. バスの中で、お年寄りが立っていたら…

- A:国で高齢者専用バスを運行している。しかも、 全席指定なので、お年寄りが立つことはない。
- B:お年寄りには必ず席を譲る。また、席に座って いる人が、自分とは何の関わりもない人でも、 立っている人の手荷物を持ってあげる。
- C:宗教上、若者優位の国なので、むしろお年寄り が若者に席を譲ってあげる。
- Q2. 約束の時間に遅刻してきたら…
- A:国民全員が規律正しい生活を送っているので、 遅刻するなんてありえない。
- B:遅れるなんてとんでもない。学校や会社であれば、その場でムチ打ちをされる。
- C: 反省している人に対して、その原因や責任を問い詰めたり、「あなたが悪い」と言ったりしない。事情があったことを察して、「あなたは悪くない。次は気をつけて。」と励ます。

Q3.物をいを見かけたら・・

A:物乞い行為は犯罪。国の発展の妨げになるので、 警察に通報する。

- ・写真Aと写真Bについてそれぞれ補 足説明をする
- ・この時は、まだ正解は言わず、3択 クイズの後で正解を発表する。

- ・'思いやり''感謝'に関するエピソ ードをもとにした3択クイズを、パ ワーポイントで見せる。
- ・各グループに、A・B・Cの札を配っておく。
- ・スリランカの人々が、自分のことだけでなく'他'を認めようとしていることに気づかせる。

Q1 正解はB

Q2 正解はC

B:自分より貧しい人にお金をあげたり、ご飯をあ げたりする。

C:子どもであれば家に連れ帰り、養子として成人 するまで育てる人が多い。

Q4. 乳が出なくなった牛は、

A:生き物は殺したりいじめたりしない。牛は仏教 徒は食べないので、屠殺場に連れて行かれる牛 をみんなでお金を出し合って買い取り、道端に 放す。

B:すぐ食用にされる。

C:一度飼ったら、同じ家で死ぬまで面倒を見るの が原則。

Q5. 親に叱られたら…

A: 口答えはしない。両親や先生は絶対的な存在。 育ててくれている、教えてくれているという思 いが強い。

B:子どもは自分の意思を明確に伝え、納得いくまで親子で話し合う。

C:「自分には自分の考えや人生がある!」と、家出 する子が多いので、ストリートチルドレンが多く なってしまっているのが政府の悩みの種。

Q6. 法事や亡くなった親族の誕生日に…

A:葬儀が終わった時点で、亡くなった人は仏様に なったという扱いなので、自分の家でひっそり と手を合わせる。

B:生前遺していった財産や遺品を国に納める。

C: 来客者にご飯をふるまう。あと、ご飯や日用品を持って、老人ホームや身寄りのない子どもが 生活する施設を訪ねる。

授業のふりかえりをワークシートに記入しよう

各自、感じたことをワークシートに記入する。

3 時間

【スリランカの生徒の生活・考えを知り、自分を見つめる】

4枚の写真から、一つのストーリーをつくってみよう グループごとに、何の写真なのかを考えながら、 '1日の流れ'をイメージして、1人称でストー リーを作り、ワークシートに記入する。それをグ ループ全員で前で発表する。







Q3 正解はB

Q4 正解はA

・スリランカの人々が、日常の'あたりまえ'に感謝しながら生活していることに気づかせる。

Q5 正解はA

Q6 正解はC

・グループ分けに使用した最初のフォトの説明をする。

写真A→周りの皆で分け合う習慣が ある。一人で食べるのは申 し訳ないという思い。

写真B→誕生日の人がケーキを持っていき、配る。自分が生まれてきて大きくなったことに対する感謝の気持ちを表す。

- ・ワヤンバ・ロイヤル・カレッジの生 徒が答えた内容に関する写真を使う。
- ・4枚ずつの写真を用意する。同じ組み合わせの写真は2班ずつになるように配る。
- ・フォトストーリーの手法を説明する とともに、例を示す。写真の説明は 加えない。
- ・写真の順番も自由であることを付け 加えておく。

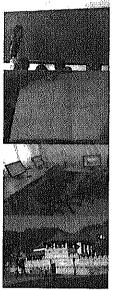


カウシャーリア

サチニ







3人の答えを予想するとともに、自分の一日の生 活や考え方と比較してみよう

スリランカの生徒の一日の生活や考えと、自分 自身のことについて、ワークシートに記入する。

- ・勉強ばかりしているのかな
- ・何をして遊んでいるんだろう







アヌラーダ

カウシャーリア

サチニ

自分の生活や考えと比べて感じたことをワーク シートにまとめてみよう

各自、ワークシートに思ったことや感じたことを 記入する。 ・何人かにどのように予想したか、質 問してみる。

- ・3人の実際の生活や考えを伝えると ともに、スリランカの生徒が描いた '大切なもの'の絵を見せる。
- ・事前に日本の生徒に「大切なものは 何か」「幸せに感じる時はどんな時 か」というアンケートをとっていた ので、その結果を公表する。

11. 評価方法

【関心・意欲】

〇スリランカの人々の暮らしに関心をもつことができたか。《授業中の発言・ワークシート》 ・

【技能】

○フォトランゲージなどで自分の考えを述べることができたか。《授業中の発言》

【知識・理解】

○スリランカと日本の同じところや違うところに気づき、他とのつながりを理解できたか。《ワークシート》

12. 苦労した点・改善点:

- ○1時間目の内容が盛りだくさん過ぎて、時間が足りなかった。
- ○スライドの写真は、違いを見せたい写真なのか、同じを見せたい写真なのかを明確にして、厳選 すべきであった。
- ○フォトストーリーを作ることは生徒にとって初めてのことだったので、もう少し具体的な例を示すことができればよかった。写真についても、生徒が感情移入しやすいものを選べばよかった。

- ○フォトランゲージの時に、発問の仕方にもう少し工夫があったらよかった。何の写真だったのか を口頭だけで説明するのではなく、種明かしの写真も用意していたらよかった。
- ○スリランカの人の'思いやり''感謝'に関するエピソードを伝えたくて3択問題という形にしたが、その問題を考えるのに苦労した。
- ○スリランカのモノを手に取って触れさせる時、時間の都合上そのまま回してしまったので、提示 の仕方を工夫すればもう少し生徒の興味を惹きつけることができたのではと思った。
- ○全体的についつい説明が多くなってしまったので、生徒の気づきを待つような授業展開を心がける必要がある。

13. 授業づくりのための参考資料・引用文献:

- ○スリランカで撮影した動画・画像
- ○『わたしたちの地球と未来 スリランカ編』

14. 学びの軌跡(感想文、作文、ノートなど)

【スリランカの人について感じたこと】

- ○スリランカは日本より貧しい国だけど、その分思いやりがある国だと思った。
- ○みんな感謝の気持ちや思いやりの気持ちが強くてすごいと感じました。
- ○スリランカの人たちは、人や動物、物など全てのことを大切にしていると思った。
- ○スリランカの人たちは、優しくて、楽しいことをみんなで分け合って、自分だけじゃなくてたくさんの 人と一緒に喜びあったりできる人たちだと思った。
- ○自分のことだけでなく、人とのつながりを大切にしていることがわかった。

【フォトストーリーをつくってみての感想】

- ○いろいろな写真で話を考えて楽しかった。
- ○みんなで協力してできたので良かったと思う。
- ○同じ写真だった所ともストーリーが違った。他のグループのストーリーもおもしろかった。
- ○どういう物語にするか、すごく難しくて迷ったけど、結果的にできてよかった。
- ○写真だけを見てストーリーを考えるのは難しかった。
- ○想像力が必要だと思った。

【スリランカの生徒の生活・考えを自分と比べて感じたこと】

- ○勉強が大切っていうのにはビックリ。少し見習わないといけないなと思いました。
- ○遊びや夢は違うけど、大切なものはやっぱり同じなんだなと思った。
- ○どこの国でも家族は大切なんだなと思った。
- ○向こうの人は夢にあふれていた。
- ○自分はかなり自由に生活しているなって思った。もう少し我慢しようと思った。
- ○叱られる時やほめられる時は日本と似ていた。
- ○スリランカの人はすごく将来の自分のことを考えているなぁと思いました。
- ○自分と違って、スリランカの人々はしっかりと自分の夢をもっていて、しかもその夢を叶えるための努力もしていて立派だと思った。

【3時間の授業をふりかえっての感想】

- ○スリランカの人々は貧しいけど、明るく元気に毎日を送っていると思った。
- ○暮らしや食べ物・違うことばかりだけど、心は同じなんだなと思った。自分はスリランカの人ほど親を 大切にできているのかなと疑問になった。
- ○今まで知らなかったスリランカのことを知ることができて、スリランカに対する印象が変わった。どんな人に対しても優しいこととか、勉強をとても大切にすることがすごいと思いました。
- ○スリランカの学生は、将来への意識が高く、勉強をたくさんしていることがわかりました。僕も見習って将来のために勉強をしようと思いました。
- ○スリランカの文化を少しだが理解できた。向こうの人は厳しい環境に置かれながらも一生懸命生きているんだなと感じた。
- 〇とても楽しい授業でした。スリランカの人々について学べてとても良かったです。この授業で学んだことは今の自分たちに必要なことだなと感じています。人を思いやる気持ち・親や先生への感謝の気持ち…今の自分たちはそれが薄れてきている気がします。
- ○スリランカの人たちは、自然・人・食べ物などすべてのものに感謝し、尊敬し、大切にしている。自分 もそれを見習って、たとえ自分がどんな状況に置かれていてもその中の小さな幸せを見つけ、周りの人 ・食べ物などすべてに感謝できる人間になりたいと思った。
- ○私は3時間の授業を受けて、とても自分のためになったと思いました。スリランカの人々を通して、勉強の大切さや周囲の人への気遣い・優しさなどを学び、その上文化の違いなども学びました。そのこと

で、勉強への意欲が湧き、また、周りの人のことをもっと考えて行動しなくてはと考えるようになりま した。

15. 備考(授業者による自由記述)

授業のはじめに、「アーユボーワン」と互いにあいさつをさせたことにより、教室の雰囲気がほぐれたのでスムーズに授業を進めることができた。〇×クイズや3択クイズを取り入れ、生徒の興味を惹きつけることができたのではないかと思う。また、フォトランゲージで使用する写真を分割してジグゾーパズルのようにしたのだが、頭だけでなく手を動かす作業を入れたのは効果的であった。各班に分かれてのフォトストーリーの制作では、悩みながらも楽しそうに話し合っていたので、もう少し時間を確保してあげたら、より自由な発想を生み出させることができたのではないかと思う。

生徒の感想を読む限り、どの生徒もスリランカと日本の同じところや違うところに気づき、共感したり、 見習うべき点を考えていた。物質的な豊かさはないが、精神的な豊かさのあるスリランカを通して、あら ためて人とのつながりの大切さを再認識したのではないかと思う。

1. 単元名(活動名): スリランカ学習			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	=	
2. 対象者 千歳市立富丘中学校	3. 学習領域		1		
3年5・6組(70名)		1	2	3	4
授業者:前川 茂	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
4. 教科との関連性:	B グローバル社会	相互依存	情報化		
総合的な学習	C地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歷史認識	市民意識	社会参加	
5. 実施時期:2012年 2月	6. 時数:2時間				

7. 単元の目標(評価の観点を意識して設定)

【関心・態度】

①スリランカおよびスリランカの同世代の子どもたちについて関心を持つ。

8. キーワード

- ・「違い」と「同じ」
- ・同世代の学校生活

【技能】

- ①「同じ」と「違い」を表現することができる。【知識・理解】
- ①スリランカの同世代の子どもの暮らしや学校生活を理解する。
- 9. 単元について(教材観、単元設定の理由、開発教育/国際理解教育の視点等)

スリランカ研修中、様々なことに直に「見て、触れて、感じ」たくさんのことを得ることができた。スリランカの子どもたちとのインタビューや交流や都市部から離れた小さな村で孤軍奮闘する海外青年協力隊やNPOの方々の姿は、とても印象的であった。その中で、日本の子どもたちとスリランカの子どもたちを比べたとき、生活環境、食、経済状況など様々な点で大きな違いがあることを実感した。しかし、そのような「違い」に目に行く中であっても、日本とスリランカの子どもたちの共通点に目が行くことも多々あった。私たちは、地理的な違い、経済力の違い、宗教的な違いなど様々な違いから「違い」について目に行くことが多いが、今回の研修を通して、日本の同じ年代の子どもとスリランカの子どもの姿に共通点がたくさんあることも実感することができた。子どもたちには、「違い」を認めるとともに同じ時代を生きる同世代の人間としてお互いに認めあうことができる人間になってほしいと考えている。そのようなことから「違い」を知るとともに「同じ」を実感できる教材作りを行った。

10. 展開計画(2時間扱い)

展開順

主な学習活動と学習者 (児童生徒) の意識:⇒

留意点など

(1) シンハラ語で挨拶をしてみよう

スリランカの挨拶を知りスリランカに対しての興味関心を 高める。 ※周りの人とスリランカ語で 挨拶を交わし学習への関心を 高める。

(2) シンハラ語で挨拶の言葉を書いてみよう

ワークシート "スリランカ学習 No1." の配布。シンハラ語で挨拶(アーユーボーワン)を書き、シンハラ文字に触れる。 →多くの生徒がはじめて触れるシンハラ語に戸惑いと 興味を持つと予想される。



(3) ところでスリランカはどこでしょうか?

ワークシート"にスリランカがどこにあるか予想し、記入する。

<別紙ワークシート: スリランカ学習 No1>



(4) スリランカは、どんな気候の国だと思いますか?

自然環境を中心にスリランカがどんな国か予想し、ワークシート"スリランカ学習 No1."①に記入し、グループ事に発表する。 *⇒熱帯特有の気候を考えると予想される。*

(5) 写真を見てもう一度スリランカの気候を考えて見よう

フォトランゲージ:スリランカのいろいろな写真を提示し スリランカの気候の再度考える。













※スリランカの場所がわからない生徒には、赤道付近をヒントに考えるようにはたらきかける。

(6) 他とは違う気になる写真はありませんか

(4)で考えたことと違う点をワークシート"スリランカ学習 No1." ②に記入し、グループ事に発表する。

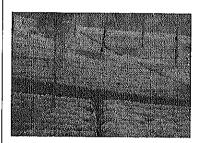
⇒セーターの写真を見て「寒いところもあるのでは」と考えると予想される。

(7) なぜは、寒いところがあるのでしょうか?グループで考えて見ましょう。

地図帳などを使ってグループで考え意見を発表する。 ⇒ "高いところがある"という意見が出てくる。

- (8) では、鳥になってスリランカの上を飛んでみよう グーグルアースを使って作成した3D映像を見せ、スリラ ンカの多様な気候について説明する。

<3択>Aウーロン茶 B紅茶 Cコーヒー → 普段よく目にする "紅茶" のことを知る





(10) **身近な所でスリランカとつながっていますね** *⇒身近なところでスリランカと日本がつながっていることを知る。* ヌワラエリアの映像を見せる。

午後の紅茶を見せ、スリランカ 産であることを確認させる。 紅茶の輸入量や消費量などを 示す。

II

(1) スリランカの子どもたちの様子をみよう

フォトランゲージ:スリランカの教室の様子を見せ、自分たちの学級と同じと違いを考える。

<別紙ワークシート: スリランカ学習 No2>



生徒たちが、提示された写真をよく観察し、写真に込められたものを読み取ることができるようにはたらきかける。

(2) グループで発表しよう

(1)で考えたことをグループごとに発表する

(3) スリランカ学校クイズをしよう

スリランカ学校生活などについての○×クイズを行う。

~クイズの内容~

- Q1、宗教の時間がある。
- Q2、識字率が90%を超えている。
- Q3、塾にかよっている人が多い。
- Q4、小学校から大学まで教育は無料である。

(4) クイズの内容についての説明

クイズの内容についての説明をする。

(5) スリランカの子どもと同じ勉強をしてみよう

シンハラ語で書かれた『数学の問題集』の問題(展開・因数分解の計算問題)を配布、自分たちと同じような学習をしていることを知る。

問題→<別紙ワークシート:スリランカ学習 No3>

(6) 問題に取り組んでみて感じたことを書こう

演習問題に取り組んだ感想をまとめ、感じたことをグループごとに発表する。

⇒スリランカが日本と違いもあるが自分たちと共通なこと もあることに体験的を通してわかり、スリランカの子ども たちへの親近感を持つ

(7)まとめ

〜授業者として生徒の活動の様子を中心に感想を伝える〜

※〇×クイズを行う。

Q1→○: スリランカは、人口の3分の2 が仏教を信仰している。その他ヒンズー教 など様々な宗教があり、生活と宗教が深く 結びついている。学校の教育の中でも宗教 がある。

Q2→○: 識字率は、92%を超えている。 教育に力を入いれている。開発途上国の中では識字率がたいへん高い国である。

Q3→○:日本以上に塾に通っている子ど もが多い。日本であたる中学校卒業後、全 国統一試験に合格しないと商校に進学で きないので、各家庭では教育に力を入れて いる。

Q4→○:大学まで教育は無料である。国 として教育に力を入れている。

11. 評価の方法

【関心・態度】

①スリランカ及びスリランカの同世代の子どもたちについて関心を持つ。(観察)

【技能】

①「同じ」と「違い」を表現することができる。(ワークシート)

【知識・理解】

①スリランカの同世代の子どもの暮らしや学校生活を理解する。(ワークシート)

12. 苦労した点・改善点:

- ○スリランカ研修では、学校訪問などの中で子どもたちにインタビューをすることができたが、聞きたい情報の整理がうまくできず事後の教材作成に生かすことができないことが多かった。教材作成のイメージを持ちながらインタビューなどに臨むことが重要であると考える。
- ○教師が直接体験したことを元にした授業に、生徒たちは意欲的に学習活動に取り組んでいた。教師 の体験したことを教材や生徒にフィートバックすることの重要性を再認識させられた。
- ○学習指導要領の改訂により総合的な学習の時間が減る中で時間を確保することにたいへん苦労した。特に中学校の場合、各教科のねらいと関連付けて国際理解・開発教育の推進を工夫していくことが今後ますます重要であると考える。
- 13.授業づくりのための参考資料・引用文献
- ・アプカスホームページ http://www.apcas.jpn.org/project/1004.html
- ・『参加型学習で世界を感じる-開発教育実践ハンドブック』開発教育協会
- ・国際理解教育における「グローバル社会」の教材開発方略に関する一考察: 栗山 丈弘
- 14. 学びの軌跡 (感想文、作文、ノート)

生徒の感想から:・日本語がすごく上手で驚いた。シンハラ語が難しかった。スリランカにすごく行ってみたくなった。・外国だからといって、少し壁を感じていた。勉強する内容が同じところがあり驚いた。・スリランカの人が自分たちと同じ勉強をしていることにとても驚いた。・スリランカも日本も変わらない所があると思った。スリランカの子どもたちが日本の子どもたちよりも塾に通っているのには驚いた。スリランカの子どもたちが手紙の返事を書いてくれていたのがうれしかった。・スリランカンの中学生が勉強している内容が違うと思っていたが、数学が同じ内容で意外であった。・スリランカの国の特徴や文化を知る機会が今までなかったけど、少し学ぶことができてうれしかった。シンハラ語は、難しい・・・よくわからない暗号でした。・遠い国にいる人も日本と同じように因数分解の勉強をしていてとても親近感がわいた。授業がとても楽しかった。

15. 使用した写真・教材等

~別紙~

1.	1. 単元名(活動名): アーユボーワン!スリランカ!											
2.	対 象:千歳市立北斗中学校	3. 学習領域										
	2年 2組(32名)		1	2	3	4						
	授業者:鷲田麻貴	A 多文化社会	XILWA	文化交流	多文化共生							
4.	教科との関連性:	B グローバル社会	相互依得	情報化								
	道徳	C 地球的課題	人 権	環 境	平 和	開 発						
		D 未来への選択	歷史認識	市民意識	社会参加							
5.	実施時期: 2012年2月	6. 時数: 3時間										

- 7. 単元の目標(評価の観点を意識して設定):
- ・【関心・意欲】スリランカの人々や生活の様子に関心をもつ。
- ・【技能】スリランカと日本を比較することができる。
- ・【知識・理解】スリランカの人々や生活を知り、日本とのつながりを理解する。

8. キーワード:

- ・「違う」と「同じ」
- ・つながり
- スリランカの子どもたち
- 9. 単元について (教材観、単元設定の理由、開発教育/国際理解教育の視点等):

中学生は、他国についての知識が少しずつ増えてきている段階である。しかし、その知識は断片的で、つながりがない。日本から遠く離れた、自分たちとは関わりのない"外国"と考えている子どもが多い。スリランカという国に対しても、事実とは異なるイメージを抱いていたりもする。

そこで、まず「違い」を知ることにより、その文化や立場を尊重し、様々な見方や考え方があることを理解させ、それぞれに価値があることを伝えたい。そして、「違い」ばかりに感じることにも、「同じ」部分や「つながり」があるということに気づかせたい。そのことにより、私たちの生活は、様々なつながりの中で成り立ち、その中で生きていることに気づくのではないだろうか。

また、個人間でも同様である。スリランカの子どもたちとの生活を比較することで、「違い」や「同じ」部分を見つけ、それぞれの個性や考え方を尊重できるようになってほしい。様々な価値観にふれることで、自分自身や自国についての考え方の幅を広めることにもつなげたい。学級の中でも、他者の価値観を認められずに、人間関係をうまく築けない子どももいる。異文化と遭遇することで、子どもたち自身の生活を振り返り、よりよい生活を築いていくように考えられるようにしたい。

10.展開計画(3時間扱い)

1			
展開順	主な学習活動と学習者(児童生徒)	の意識	留意点など

『スリランカを知ろう』

①シンハラ語の挨拶を聞いてみよう。

- ◆アーユボーワン (こんにちは)
- ◆ナゲナマ マキ(私の名前はマキです)
- ◆ジャパーナ イエン アーワー (私は日本から来ました)
- ◆ボホマ サトゥトゥイ (お会いできてうれしいです)
- ◆ボホマ ストゥーティー (ありがとう)

②シンハラ語で挨拶をしてみよう。

◆アーユボーワン (こんにちは)

③スリランカの位置を確認してみよう。

- ◆白地図を配り、スリランカに色を塗らせる。
- ◆スクリーンシートで確認する。

①スリランカってどんなイメージですか。

- 自然がたくさんありそう
 - ・貧しそう
- ・皮膚の色が濃い人がたくさんいそう

⑤スリランカと北海道を比べてみよう。

- ◆首都名(道庁所在地): スリジャヤワルダナプラコッテ・札幌
- ◆気候:熱帯・冷帯
- ◆1月の平均気温:27℃・-5℃
- ◆入口:200 万人・550 万人
- ◆面積: 65000k m · 83000k m

⑥民族や言語、宗教について知ろう。

- ◆スリランカは他民族・多言語・他宗教の国であることも紹介する。
- ◆民族構成(シンハラ人 73%・タミル人 18%・ムーア人 8%・バーガー人な
- ◆シンハラ人はシンハラ語、タミル人はタミル語、他は英語を話す人もいる
- ◆宗教構成(仏教 70%・ヒンドゥー教 10%・イスラム教 8%・ローマンカト リック教など 12%)

⑦ (フォトストーリーで) さらにスリランカのイメージを深めよう。

※スリランカ人の観光ガイドになりきって、写真の説明を考えさせる。

※生活班に3枚1組の写真を配る。

※班ごとに発表する。

※他の写真を加えながら補足説明していく。



















- これは何をしているんだろう? ・これはどんな場面なのだろう?
- ・これは何だろう?・ここはどこだろう?

⑧「日本と違うと思ったところ」と「日本と同じと思ったところ」、また、「授 業で感じたこと」「考えたことや気づいたこと」を書こう。そのあと、みんな

①サリーを着て、手を合わせながら挨拶をする。

②胸の前で手を合わせながら

(3)

一自地図

- ースクリーンシート
- ④出た意見に対して肯定的に認める。

⑤質問しながら確認する。

ースクリーンシート

⑥公共の表示には3つの言語で表示されている。

ースクリーンシート

⑦フォトストーリーの手法を説明する。

- -9種類の写真
- ーストーリーを書くワークシート

の意見を聞いてみよう。

『スリランカの子どもたちと私たちの生活』

①シンハラ語で挨拶しよう。

◆アーユボーワン (こんにちは)

②自分たちの生活を振り返り、班で発表し合おう。

- ◆あなたの好きな食べ物は何ですか?
- ◆家に帰ってから何をしていますか?
- ◆あなたの楽しみは何ですか?
- ◆家でのお手伝いは何をしますか?
- ◆家族にほめられるときはどんなとき?
- ◆家族に叱られるときはどんなとき?
- ◆あなたの大切なものは何ですか?
- ◆あなたの将来の夢は何ですか?



③「カウシャーリアの自己紹介」を読み、カウシャーリアについて知ろう。

「私の名前はカウシャーリアといいます。13年生で17歳です。クルネー ガラという街に住んでいます。両親と姉2人の5人家族です。学校まではス クールバスで1時間かかります。好きな教科は日本語です。苦手な教科はあ りません。よろしくお願いします、先生。」

・13 年生ってあるんだ ・学校まで1時間もあるんだ ・日本語を勉強 しているんだ ・苦手な教科がないってすごい ・最後になぜ「先生」 って言うのだろう

①「スリランカ人のカウシャーリア」と「日本人のゆきえの生活」を比べて、

※生活のことを書いた 18 枚のカードを、「カウシャーリアの生活のこと」な | た、生徒たちの疑問を拾って、できる限り補足説明を のか、「ゆきえの生活のこと」なのか、「カウシャーリアとゆきえに共通する こと」なのかという三つの視点で6枚ずつに分ける。

※カードの裏に絵を描き、正解かどうかを確かめるためにカードを裏返し、 絵合わせをする。(事前に裏面は絶対に見ないように注意しておく。) (カウシャーリア)

- ●学校は13時30分に終わります。
- ●好きなスポーツはクリケットです。
- ●家に帰ったらシャワーを浴びて夜まで勉強します。
- ●大切なものは家族と勉強です。
- ●教科書は学校から借りています。
- ●将来の夢は学校の先生です。 (ゆきえ)
- ■学校は8時20分に始まります。
- ■学校は4月から始まります。
- ■大切なものは家族と友達です。
- ■将来の夢はイラストレーターです。
- ■お昼は給食を食べます。
- ■小学校は6歳から通います。 (4636)
- ★公立の学校では制服を着ます。
- ★毎日家のお手伝いをします。
- ★PC ゲームが好きです。
- ★チョコレートなどのスイーツが大好きです。
- ★テストでいい点をとったらほめられます。
- ★誕生日にはケーキを食べます。
- ※「自分は納得できない」「グループ内でもめた」「やっぱりよく分からない」 というカードに注目し、それについて全体で交流する。
- ・学校終わるの早くていいな ・クリケットつて何? ・学校から教科

①胸の前で手を合わせながら。

- ワークシート (事前に書いてもらい、集計して一般 化しておく。一般化した人物を"ゆきえ"と名付け

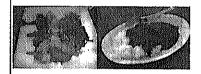
③自己紹介を読んで出た生徒たちの疑問を拾って、で きる限り補足説明を加える。

ースクリーンシート

④班で協力し合って行うように伝える。

共通でも違う部分があることも補足説明する。ま 加える。一例であることもフォローする。

- ーワークシート
- -18枚のカード
- <カウシャーリア>の裏面: スリランカのカレー
- <ゆきえ>の裏面:日本のカレー <共通>の裏面:地球のイラスト





書借りていつ返すの? ・給食は食べないの? ないの?

・学校は6歳からじゃ

⑤二つのカードについてさらに深く考えてみよう。

- ◆大切なものは家族と勉強です。
- ●将来の夢は学校の先生です。

※カウシャーリアはどんな思いを抱いているのか班で考えさせる。

※ワークシートの吹き出しを埋める。

※全体で交流する。

- ・「将来のため」「勉強しないと家族を支えられない」「恩返しをしたい」「私 を生んでくれた」「いつも思ってくれている」
- ・「お給料がいいから」「みんなに学んでほしい」「お金をもらって親孝行したい」「社会的地位を得たい」「子どもが好き」

⑥「これからも大切にしたいこと」「授業で感じたこと」「考えたことや気づ

いたこと」を書こう。そのあと、みんなの意見を聞いてみよう。

⑦シンハラ語で挨拶しよう。

◆ボホマ ステューティ (ありがとうございました)

『スリランカと日本のつながり』

①シンハラ語で挨拶しよう。

- ◆アーユボーワン (こんにちは)
- ◆マゲーナマ マキ (私の名前はマキです。)

②スリランカと日本の歴史的なつながりを知ろう。

◆サンフランシスコ講和会議でのジャヤワルグナさんのことば llatred ceases not by hatred but by love.

(憎しみは憎しみによってではなく、愛によって終わる)

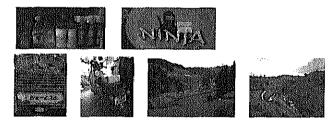
関わりがあったんだ ・日本に対してこう言えるなんてすごい

③スリランカと日本のモノを通じたつながりを知ろう。

※班で7枚の写真からどれがスリランカで撮った写真なのかを選び、その理由も考える。

※ワークシートに記入する。

※ぞれぞれの班の解答を確認しながら、正解を確かめる。



・日本の調味料が売られている ・ドラえもんは世界中で見られている ・日隠しがなかったら日本みたいだ

①紅茶の生産過程を知ろう。



⑤人を通じたつながりを知ろう。

◆観光振興協会 JOCV 石川由香里さん (スリランカ女性に布製品の作り方を指導、観光客の受け入れ体制の改善など)

「私たちが観光を発展させていくのではなく、地元住人に関わってもらうことが重要。」

(5)

ーワークシート

(6)

ーワークシート

⑦胸の前で手を合わせながら。

1

胸の前で手を合わせながら 波線部分を自分の名前に変えて

(2)

ースクリーンシート

- ③スリランカで撮った写真の中に日本で撮った写真 を混ぜる。
- -写真(ヒントになりうるところは隠す)
- ースクリーンシート
- ーワークシート

- ④スリランカの輸出量世界第1位、日本の紅茶輸入量 第1位がスリランカであることから導入する。(私 たちの生活は様々なつながりによって成り立って いることにつなげる。)
- ースリランカから輸入された紅茶製品
- ースクリーンシート
- ⑤スリランカで働く日本人の姿を紹介する。(ものだけではなく、人もつながっていることにつなげる。)
- ースクリーンシート
- ーサリーの布で作られたバッグ

(人と人、人と社会をつないでいる重要な役割を担っ ているように感じたことを伝える。)

3

◆NGOAPCAS 石川直人さん(スリランカ沖津波被災者、地すべり被災者への緊 急支援など)

「支援者側が一方的にお金やものを与えても、被災者たちはそれに依存してしまう。そのため、『今何が必要か』などの対話が必要。我々と被災者や住民たちとの関係は"対等のパートナー"でなければならない。今は援助ではなく、パートナーになるための種まきをしている。」

⑥「どんなつながりを一番強く感じたか」「授業で感じたこと」「考えたこと

や気づいたこと」を書こう。そのあと、みんなの意見を聞いてみよう。

⑦スリランカの紅茶を味わおう。

・甘くておいしい ・日本の紅茶と違う味がする

⑧シンハラ語で挨拶しよう。

◆ボホマ ステューティ (ありがとうございました)

(今まで考え及ばなかった支援への考え方を教えてもらったことを伝える。)

(6)

- ーワークシート
- ⑦ スリランカで購入したと北海道の牛乳を合わせ てミルクティーを作る。
- ーミルクティー
- ⑧胸の前で手を合わせながら。

11. 評価方法

道徳なので評価は行わないが、以下の観点で子どもの様子を見ていく。

- ・【関心・意欲】スリランカの人々や生活の様子に関心をもつことができたか。
- ・【技能】スリランカと日本を比較することができたか。
- ・【知識・理解】スリランカの人々や生活を知り、日本とのつながりを理解することができたか。

【児童生徒の反応】

12. 苦労した点・改善点:

たくさんの情報の中から、伝えたいことを絞って授業の流れを考えていくことに苦労した。あれも、これも 伝えたいという思いがあり、簡単な紹介で終わってしまった部分、話を聞かせるだけで終わってしまった部分 もある。じっくりと時間をかけて、子どもたちが考えたり感じたりできる場面、子どもたちの疑問に答える場 面をもう少し作れるとよかったと振り返る。

授業を作っていく中では、写真選びやその使い方に苦労した。子どもたちが興味を持ち、かつ意外性のある 写真をそれぞれの活動の目的に合わせて選ぶことは難しい。写真をトリミングしたり、目隠しをしたりするな どの使い方のアドバイスなどもいただいて、改善しながら行った。

全体的に多くを話しすぎていたと感じる。教材の力を信じて、話す量を減らすべきであった。

- 13. 授業づくりのための参考資料・引用文献:
- ・写真(研修参加者、実践者撮影など)
- ・伊藤園ホームページ http://ocha.tv/index.html
- ・APCASホームページ http://www.apcas.jpn.org/
- ・スリランカ雑貨のラクリヤ(シーギリア観光振興協会石川さんの活動) http://lakliya.com/
- ・「グローバル時代の国際理解教育-実践と理論をつなぐー」日本国際理解教育学会
- ・「地球の歩き方 スリランカ」地球の歩き方編集室
- 14. 学びの軌跡(感想文、作文、ノートなど)

★1 時間目: 『スリランカを知ろう』

- Q. 日本とは違うと思ったところはどんなことですか?
- ・気候 ・文化 ・共通言語が3つある ・お菓子の量 ・宗教に対する考え方 など
- Q. 日本と同じだなと思ったところはどんなことですか?
- ・バナナがあった ・同じアジアの国 ・目や髪が黒い ・島国 ・米やお菓子を食べている ・カレーを食べる ・人柄 ・美白にあこがれている人が多く日傘をさしている など

Q. 今日の授業で感じたことを書きましょう。

・どこにあって、どんな国かわかった ・見た目は同じように見えても違うところもあり、発見できて良かった ・文化の違いに驚いた ・貧しい国だと思っていたけど、予想とは違って驚いた ・同じ地球上にいても食べ物とか違っていておもしろい ・違いばかりではなく、同じ所もあって驚いた ・同じ人間なので根本的な部分はあまり変わらない ・一度行ってみたい ・日本の方が便利だけどそれぞれの良さがある ・世界はつながっているのに違いがあるのは不思議 ・宗教に対する関心が高い ・班の人と物語を考えたのが楽しかった ・スリランカの生徒は勉強熱心だ ・世界は広い など

Q. 今日の授業で考えたことや気づいたことを書きましょう。

・住む地域によって文化も違ってくる ・色々な国について知ることは大切だ ・どの国にもそれぞれの伝統がある ・同じ人間でも違うとことがあっておもしろい ・スリランカから見た日本はどんな国なんだろうか? ・スリランカ人はカレー以外食べないのだろうか?飽きないのか? ・将来国際的な仕事に就くのも悪くない ・もっと自然と人を大切にすべき ・文化の違う人が日本に来たら大変だろうなと思った ・国内で言葉が違うって大変そう ・世界は広く、知らないことがたくさんある ・知らない国も調べたりするのはおもしろい ・英語はいろんな人と話せるのですごいと思った など

★2時間目:『スリランカの子どもたちと私たちの生活』

Q:これからも大切にしていきたいことは何ですか?

・心 ・人 ・もの ・勉強 ・感謝の気持ち ・日本の伝統、文化 ・友達 ・家族、親 ・思いやり 夢 ・好きな芸能人 ・お金 ・自然 ・食べ物 ・テレビ ・命 ・趣味 ・地球 など

Q:今日の授業で感じたことを書きましょう。

・日本人とスリランカ人の大切なものは少し違った ・いろんな文化があっていろんな人がいる ・PCゲームがあることに驚いた ・親や人を敬う関係がすごい ・日本と全然違うところもあれば似たところもあっておもしろかった、距離が縮まった ・これからもスリランカ人には頑張ってほしい ・勉強が好きというのは異常だ ・自分の夢にちゃんとした理由があっていいと思った ・家族を大切にしているので日本でも育児放棄などしないで見習ってほしい ・自分は夢がまだ決まっていないのですごいと思った ・勉強好きを見習いたい ・環境や文化が違うと、やりたいことや夢が変わってくるのではないか? ・日本は自分の希望が一番だけど、スリランカは家族のために将来の夢を考えていてすごい ・愛を愛で返すのがかっこいい など

Q:今日の授業で考えたことや気づいたことを書きましょう。

・自分たちとの共通点が多かった ・大切にしていることや思っていることは人として同じだ、違うのは外見だけ ・価値観が違う ・スリランカ人の考えも取り入れて生活していきたい ・家族は自分にとってかけがえのないものだ、これからも大切にしたい、家族への愛を忘れていた ・スリランカ人に会ったら仲良くなりたい ・スリランカ人はしてもらったことを人に返そうという気持ちが強かった、その気持ちを大切にしたい ・PCは大切ではないのか? ・自ら勉強に取り組みたい ・何事にも挑戦してみたい ・希望の高校や職業になれるよう努力したい ・勉強を頑張って家族に恩返しをしたい ・教科書を大切に使うのはエコでいい ・自分も夢や家族の事をきちんと考えたい ・遊ぶ時間はあるのだろうか? など

★3時間目『スリランカと日本のつながり』

Q:あなたはどんなつながりを一番強く感じましたか?

・人と人 ・スリランカで活躍している日本人 ・歴史 ・紅茶 ・日本のもの ・日本の乗り物 ・ジャヤワルダナさんが作った国際的なつながり ・食べ物 ・日本の文化 など

Q:今日の授業で感じたことを書きましょう。

・どんな遠い国とでも必ずつながりがある ・日本人が働いていたり日本のものが使われていて驚いた ・ミルクティーがおいしかった ・ジャヤワルダナさんの言葉はいい言葉だ、心が広い ・私の好きな紅茶がスリランカでたくさん生産されていて驚いた ・日本のアニメが見られていて驚いた ・スリランカのことを真剣に考えている人はすごいし、役に立とうとかもっと良くしようとする姿勢は見習いたい ・スリランカが観光地として有名になるように働く日本人に頑張ってほしい ・世界の人は協力しないと生きていけない、だから私もボランティアをしてみたい ・日本のものが使われているのはうれしい ・どうして他の国ではなく日本のものが使われているのだろうか不思議に思った ・歓迎の仕方がすごい ・似た写真が多くてスリランカと日本を見分けるのが難しかった ・お互い協力しあってさらに発展していけばいいと思う など

Q:今日の授業で考えたことや気づいたことを書きましょう。

・ジャヤワルダナさんの言葉を日本が聞いたときどう思ったのだろうか? ・日本人がスリランカで働いているなんて誇らしい ・紅茶でスリランカはたくさんの国とつながっている ・日本もスリランカのために頑張ってほしい ・小さい国でも色々なものを作って世界に貢献している ・他の国の文化も学びたい ・これからもスリランカと仲良くしていってほしい ・紅茶を買うときどこの紅茶か見てみたい ・もっとスリランカとのつながりはあるのでは? ・自分たちが知らないだけで世界中で活動している人がいる ・国が違っても人は結び合うことができる、わかり合える ・関わりなんてないと思っていたが意外なことや驚きがあっておもしろかった ・スリランカに日本人は何人くらいいるのだろう? など

15. 備考(授業者による自由記述)

実践した授業での反省をもとに、指導案 (3 時間目の③の活動で使用した写真) とワークシートは修正してあります。また、「14.学びの軌跡 (感想文、作文、ノートなど)」には、子どもたちの振り返りの一部を載せていります。全体の意見は、添付資料にまとめてあります。

1. 単元名(活動名): 生産者と消費者のつながり 2. 対 象:北海道有朋高等学校 3. 学習領域 单位制課程 事務情報科35名 1 2 4 授業者:神田大介 A 多文化社会 文 化 理 解文 化 交 流多文化共生 B グローバル社会 相 互 依 存情 報 化 4. 教科との関連性: ビジネス基礎、マーケティング(各2単位)、 C 地球的課題 権環 境平 和關 発 社会と情報(2単位)、総合学習、道徳 D 未来への選択 歷史認識市民意識社会参加 5. 実施時期: 2012年 2月、7月 6. 時数:90分×2講座 7. 単元の目標 (評価の観点を意識して設定): 8. キーワード: 【関心・意欲】 紅茶 紅茶プランテーションで働く人たちがおかれている状況に関心を持つ。 つながり 【技能・表現】 職業観 問題点を把握し、根拠を明確に、自らの考えを表現し伝えることができ る。 【知識・理解】 紅茶を通じて、生産者と消費者のつながりを理解する。 9. 単元について(教材観、単元設定の理由、開発教育/国際理解教育の視点等): 私たちは、開発途上国から輸入される、生産者の顔が見えない安価な食品や製品を、大量に消費する構造 の中で生活している。 この授業では、紅茶を通じて生産者と消費者のつながりに気づかせ、生徒たちが将来の社会人として、現 実と真剣に向き合うことの大切さを考えるきっかけとさせたい。 10. 展開計画 (90分×2講座)

展開順	主な学習活動と学習者(児童生徒)の意識	留意点など
	1 消費者の側から	○1グループを5~6名
	(1) 嗜好飲料人気ランキング予想	〇生徒たちに、ワークシート
	グループごとに商品カードを並べ替えて、コンビニエンススト アの売上げランキングを予想し、発表者が発表してください。	に記入しながら、学習活動を 進めることを伝える。
1/2	Office FACIA AMES D + 2-7 2012/01/00-00.05 生徒たちは、目にしたことのある商品を通じて、 皆好飲料における、お茶の人気の高さを認識する。	○授業者は、各グループの発表者がワークごとに入れ替わることを伝える (グループ内の全員に全体発表の機会をもたせたいため)

(2) お茶の人気の理由を考える。

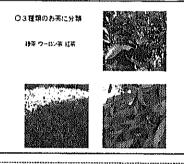
お茶の人気の理由を3つ書き、グループ内で共有してください。 そして、まとめたものを発表者が発表してください。

健康的、飲みやすい、さ わやか、すっきり、伝統 的などのイメージ

生徒たちは、お茶が日常生活 に欠かせない飲料であるこ とを実感する。 ○授業者は、グループのコミ ュニケーションがとれている かを観察し、必要に応じて助 言する。

(3) お茶(緑茶・ウーロン茶・紅茶)の違いを知る。

グループごとに、3枚の写真を3つのお茶(緑茶、ウーロン茶、 紅茶)に分類して、発表者が発表してください。 ○3枚の写真は、いずれもツ バキ科カメリアシネンシスの 葉である。

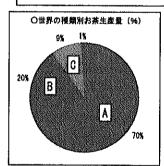


どの写真を選んでも、すべて 正解とする。紅茶の木、緑茶 の木、ウーロン茶の木は存在 しない。生徒たちは、加工法 の違いにより、お茶の種類が 異なることを知る。

(4)世界で生産量が最も多いお茶は紅茶であること、そしてそれが どこから来ているのかを知る。

円グラフのA・B・Cを予想して、発表者は発表してください。

○お茶は国際的な商品である ことを強調する。



1/2

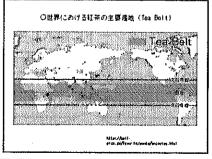
〇円グラフ:

紅茶70%、緑茶20%、

ウーロン茶9%

○生徒たちに紅茶輸出額世界1位、日本の紅茶輸入量1位の国は、スリランカであることを知らせる。





授業者はスーパーで購入したスリランカ産紅茶を「実は身近にたくさんのスリランカ産紅茶が並んでいます」と提示する。

2 生産者と消費者のつながり

(1) 紅茶生産者 (ティー・ワーカー) を知る

紅茶のCMをよく観察してください。お茶生産の現場は、どんな様子なのか(人・表情・服装・場所・気候・具体的な仕事内容・気持ちなど)、観察して気付いたこと・想像したことをワークシートに記入してください。そして、グループ内で共有し、まとめためたものを発表者が発表してください。

生徒たちは、CMに描かれた労働者の様 子を素直に良いイメージでとらえる。

(2) CMの紅茶生産者 (ティー・ワーカー) になってみる。

CMの紅茶生産者になりきってみましょう。自分が彼女たちになりきり、茶畑でどんな気持ちで仕事をしているのか、一言コメントを考え、ワークシートに記入してください。そして、グループで共有し、ベストコメントを選んでください。ベストコメンテーターに選ばれた生徒は、前に出て発表してください。

生徒たちは、紅茶生産者へ感情移入し、つながりを意識する。

(3) プランテーション労働者の実際を知る

その1 実際の紅茶生産者が、茶畑で収穫している映像をよく観察してください。そのあと、各グループに映像の説明プリントを配布しますので、グループ内で読み聞かせをして下さい。そして、気付いたこと・感じたことをワークシートに記入してください。

その2 紅茶プランテーションで働く17才の女の子、バサンタカラさんからみなさんに宛てた手紙を、各グループに配布しますので、グループ内で読み聞かせをして下さい。そして、気付いたこと・感じたことをワークシートに記入してください。

その3 記入したその1、その2をグループ内で共有し、まとめてください。そして、発表者が発表してください。

生徒たちが現実と向き 合い、ものごとに真剣に取り組む姿勢の大切さ に気付くことを期待 生徒たちは、CMと実際のギャップに気づき、生産者の状況を理解し、じぶんごととしてとらえる。

○スリランカの茶畑や生産者が描かれている主要紅茶メーカーCMを観察させる。

検索キーワード : SriLanka Tea TV commercial (+メーカー名など)

○発表者は、授業者が用意した模擬紅茶収穫袋(約3kg 入り)を背負い、重量を実感 しながら発表する。

検索キーワード: SriLanka tea plantation tamil women など

○紅茶生産者が茶畑で収穫している映像を観察させる。(英語ナレーション入り)

○字幕付き映像を用いると、字を追うことに集中してしまうため、映像の観察後に説明 プリントを配布する。

○手紙は、「仕事や生活は大変 だけれども、生活の中の楽し みや喜びがある」というポジ ティブな内容とする。

2 / 2

	3 まとめ	
2/2	(1) 授業のまとめ この授業をふりかえって、みなさんが学んだことや今後の生活 に生かしていきたいことを、しっかり書いてください。	○時間内で書き終わらなかっ た生徒は、次回の授業までに 提出するように伝える。

11. 評価方法

【関心・意欲】

紅茶プランテーションで働く人たちのおかれている状況に関心を持ち、意欲的に取り組み、考えることができたか。(観察)

【技能・表現】

課題を適切に把握し、根拠を明確に、自らの考えを表現し伝えることができたか。(発表内容、提出物)

【知識・理解】

紅茶を通じて、生産者と消費者のつながり、構造および背景を理解できたか。(提出物、定期考査)

12. 苦労した点・改善点:

○最初に作成した指導案では、紅茶生産やプランテーション労働者についての知識・理解を中心とした構成であったが、シンプルに再構成し、生徒たちの気づいたことや感じたことを引き出すことが期待できるように改善を重ねた。

13. 授業づくりのための参考資料・引用文献:

- ○大津和子「社会科 1本のバナナから」国土社 1987年
- ○日本国際理解教育学会「グローバル時代の国際理解教育」 2010年
- 〇田中治彦「開発教育 持続可能な世界のために」2008年
- ○日本紅茶協会 http://www.tea-a.gr.jp/
- ○日東紅茶 http://www.nittoh-tea.com/
- 14. 学びの軌跡(感想文、作文、ノートなど)

ワークシートから(抜粋)

2 (1) 紅茶CMの観察から

- ○大勢でかごをひとり一個ずつ頭からさげて茶摘みしてた。みんな笑顔だった。あたまにタオルみたいな のをのっけてた。
- ○自分たちが苦労して収穫したお茶が世界中の人たちに飲まれるのを心待ちにしている。
- ○お茶のにおいを嗅ぎながら、さわやかな気分で仕事をしている。背中にカゴをしょっていた。ゾウがい た。みんな笑顔で楽しそうに作業していた。
- ○日をよけるため、通気性のよさそうな民族衣装っぽいカラフルな服。楽しそう。
- 〇お茶の畑で、1つ1つ丁寧に茶の葉を回収していて、みんなに飲んでもらってほしい気持ちで和やかな 気分で仕事をしている。
- ○大変だけどやりがいのある仕事。
- ○収穫している人たちの顔が笑っていたので、きっと自分たちが収穫したお茶が「おいしい」と飲んでも らっていることを想像しながら仕事をしていると思います。手作業での収穫がおいしさにつながるのか なと思います。

- 茶摘みをしている人は、とってもやさしい気持ちになっていると思いました。疲れるとストレスはたまると思うけど、慣れたら楽しく仕事ができると思いました。
- 2(2) ティー・ワーカーになりきって、一言コメント
 - ○うん。いいにおい。これは絶対いい茶葉だ。
 - ○たくさんの人たちに飲んでもらいたいな。
 - ○茶摘み大変。
 - ○一生懸命作ったので、是非飲んでみてください。
 - ○おいしくなってるかな?良く育ってくれたね。
 - ○苦労が多いけど、やりがいのある仕事!
 - ○楽しくやりがいのある仕事だな
 - ○おいしくなーれ!おいしくなーれ!
- 2(3)その1 実際のティー・ワーカーの映像を観察して
 - ○生きるため、生活するため、自分の身を削って仕事をしているように見えた。とてもつらい仕事に見える。仕事への感情よりも"生"への執着を感じた
 - ○無表情。疲れている。
 - ○CMはすごく良いように見えるけど、お茶を買う人の大半はどんなふうにしてお茶ができて、売られているということを知らないんじゃないかと思った。
 - ○笑顔はCM用。ひどすぎる。
 - ○CMではにこやかな表情で作業をしている人が多かったが、このビデオでは険しい顔ばかりだった。良く見てみると、(腰をかがめたまま長時間の作業だから)想像以上に重労働なんだろうなと思った。
 - ○CMで生産者が笑顔だったり、ゾウが歩いていたりするのは広告としての演出で、実際の作業や生活は 消費者の立場からは想像もできないほど大変なんだろうなと思った。
 - 〇生きるために、かなり必死になってて、つらさを超えて、おそらくあの人たちの心は"無"になっているように見える。
 - ○CMの映像と次に見た映像では、作業をしている人たちの表情や仕事をする姿勢が全然違った。
 - ○CMは笑顔で楽しそうにやっている感じでしたが、実際は自分たちの生活さえもあやうい状態で仕事を しているんだなと思いました。ただ、もくもくと目の前の茶葉を摘み取っている感じがしました。
 - ○プランテーションの生活から抜け出せない。働く人たちはみている側からすると美しく見えるが、見合ったお金はもらえない。お茶が飲めるのは、まずお茶を生産してくれる人がいるから。それからいろいろな工程を経て、お茶を飲めている。
 - 2(3)その2 17才の女の子からの手紙を聞いて
- ○いろいろとやりたいこともある年頃なのに、一生懸命に毎日何時間も摘むのはとてもつらいこと。雨の日でも摘み、カゼをひかないように気をつけているというどことなく前向きな感じの言葉がすごいなと思いました。
- ○休まないように健康管理をしっかりしている。自分だったら1日10kgも摘めないので、すごいなと思いました。
- ○1日で10kg 摘むことができなかったら、その日の給料はどうなるんだろうと思いました。

- ○日本の17歳の女の子と言えば、高校に通っていて仕事をしている人は少ないのに、この女の子は毎日、 その日生きるためのお金をもらう為働くと言うことは、とても偉いと思った。私は19歳でまだ学校で 学ばさせてもらえているのは、本当に幸せなんだなと改めて感じられた。
- ○彼女は、まだ若いのに朝7時から夕方5時くらいまで働いていてつらくないのかな?とすごく思いました。でも、働かないと生きていけないから仕方ないんだなと思いました。
- ○家族みんなで働いて、それに休み時間にみんなで紅茶飲んでお菓子食べて楽しそうって思いました。
- ○小さなことでの幸せを見いだしている。平等にみんなが幸せになれるようにちゃんとしてほしい。
- ○17歳で朝の7時から夕方の5時までお茶畑で葉っぱをとるだけっていうのは、すごくつらいと思った。 でも、その中でもいろいろな楽しみがあると言っていて、その人の幸せを感じた。お茶はそういう人た ちの手を借りてできていて、最終的に世界中で売られていてすごいと思った。
- ○すごく純粋な子だと思いました。仕事を休みたくないとか、カゼをひかないようにとか、私は思ったり したことはほとんどなかったと思います。働き者でやさしい子ですね。何とか、彼女にも幸せなっても らいたいと強く思いました。
- ○働かなきゃお金はもらえないけど、絶対生まれたところで働かなければいけないのかと思いました。私 たちと同じくらいの年だけど、しっかり仕事をして偉いと感じました。ちゃんと責任をもって仕事して いるので、私も見習いたいと思いました。
- ○中学を卒業した後は、高校に行かずに仕事をしている。だけど、すごく楽しそうで前向きですごいと思った。本当に、好きなことじゃないと、続けられないし、つまんないと思う。だから、その仕事の中で自分が楽しいと感じられることを見つけて、仕事を続けていられるんだと思った。
- 3 授業のまとめ ふりかえって学んだことや今後の生活に生かしたいこと
 - 〇今日の授業を受けてみて思ったことは、じぶんたちは消費者の立場だけれども、作っている人たちのことを自分は考えたことがなかったけれども、今日の授業で初めて思ったから、これからも考えて感謝しようと思った。
 - ○モノを作る大変さ、そして命をつなぐ難しさを新たに理解することができた。
 - ○自分は、一度高校をやめて、はっきり言って少し苦労してきたと思ってたけど、世界には俺以上に苦労 してる人がいるんだと思いました。社会に出たときに少しでも苦労しないように頑張りたいです。
 - ○自分は最近アルバイトを始めて、はやくも逃げ出したいというか投げ出したくなる時もあるけど、自分でやると決めたことだし、自分よりも大変な人が自分の何百倍と頑張っているから、自分も頑張ろうと思いました。
 - ○はじめてお茶の収穫をしているところを見て、こんなに大変何だということがわかりました。一度茶摘みをしてみたいと思ったことがあったのですが、これを見たらつらそうで私には無理だなと実感しました。これからは、もっと大事にお茶を飲んでいきたいです。お茶が大好きなので、もっと買って少しでも消費者が増えればいいな!と思いました。
 - 〇いままで消費者と言う目線でしかCMなどを見たことがなかったので、実際の状況とのギャップに驚か されました。これからは、もっと多方向での目線を持って、物事を見ていきたいと思います。
 - ○私は飲み物の中で一番好きなのはお茶ですが、こんなに大変な仕事だったのは知りませんでした。飲む ときに、今回のことを思い出して飲んでみようと思いました。

- ○生まれてからずっと消費者として生きてきたので、生産者側の立場で考えたことがあまりなかったけど、 消費の裏には生産者の想像を絶する苦労があるかもしれないことを学べた。
- ○普段何気なく買ったり飲んだりしているお茶が、こんなに苦労が多いとは思わなかった。たくさんの人が頑張って摘んだお茶。これからは感謝をして、お茶を飲もうと思いました。何か1つのものを作るには協力も大切だということを改めて思いました。
- ○手紙の女の子のように自分が働かないと生活が厳しくなるとかの人がいて、楽に生活している自分が嫌になる。でも何かしなくちゃって思ったところで、自分は変われずに、女の子がいきなり楽に生活できるようになるわけではないので、本当にちょっとしたことだが、何事にも感謝することを忘れないようにしていきたい。
- ○仕事の大切さや大変さを学びました。親に頼ってばかりいるんじゃなくて、自分でちゃんと働いて、自分のことは自分でできるようにならなきゃいけないと思った。

15. 備考(授業者による自由記述)

スリランカ研修では、イギリスによる植民地支配の時代から続く紅茶プランテーションを訪問した。プランテーションに向かうバスの車窓からは、ティー・ワーカーであるタミル人たちが生活する長屋の外観がうかがえ、その暮らしぶりが垣間見えた。

訪問当日は休日(日曜日)だったため、工場は稼働しておらず、茶葉の収穫も行われてはいなかった。 しかし、私たち研修団は、工場のガイドの案内で、茶畑、工場内の施設・設備を見学し、生産・加工・ 出荷の一連の流れについて理解を深めた。そして、ティールームで紅茶を飲み、美しく管理された英国 式庭園を散策し、紅茶を購入した。

ティー・ワーカーの人たちから直接的に情報を得る機会はなかったが、この体験こそがこの教材を作成する出発点となった。

そして、帰国後研修、JICA開発教育指導者研修、実際の授業などを通じて、たくさんの人たちの力を借りながら、スリランカ研修での学びが形となり、教材化できたことは、本当に大きな成果である。 今後は、まだ不十分なところや改善したい部分を修正しながら、この教材を大切に育て、活用していきたいと考えている。

〇紅茶プランテーション労働者 ナレーション 説明プリント

スリランカの山岳地帯は、気温の高低差が激しいために、高品質の紅茶生産に向いているといわれます。

スリランカは、有数の紅茶輸出国で、たくさんの紅茶農場があります。

スリランカの紅茶生産は、イギリスの植民地であった 18 世紀に、中国やインドから試験的 に導入されたことに始まりました。

そして、スリランカ産の紅茶はイギリスへ輸出されるようになりました。

今や、紅茶はスリランカ最大の外貨獲得商品です。

スリランカでは、100万人以上の人たちが紅茶産業に携わっています。

そのほとんどが、植民地時代にインドから労働者として連れてこられたタミル人の子孫です。

スリランカの紅茶産業の発展とともに、たくさんのタミル人が農場で労働者として働き、スリランカの先住民族であり全人口の70%を占めるシンハラ人は、タミル人を見下す傾向がありました。

そのようなことから、スリランカでは、シンハラ人とタミル人の間に緊張が高まり、20世紀後半には、テロや内戦などの混乱が続き、現在でも様々な問題が残ったままです。

プランテーションで働く彼らの賃金はとても低く、貧困状態にあり、教育も不十分といわれています。

職業技術を学ぶ機会はほとんどなく、プランテーションでの生活から逃れることは不可能に 近そうです。

プランテーションで働く人たちの大部分は、女性です。

同じ家族の姉、母、祖母と一緒に働くことは、珍しいことではありません。

彼らは、小さな部屋が1つか2つの風通しの悪い、不衛生な長屋で、プライバシーのない生活をしています。

紅茶畑を訪れる旅行者には、彼女たちの献身的な生活は美しく見えるでしょうが、現実の生活はそれとは程遠いのです。

大好きな日本のお友達へ

こんにちは、私の名前はバサンタカラです。17才の女の子です。 紅茶農場で、葉を摘み取る仕事をしています。

1年前に中学校を卒業してから、お母さん、お姉さん、おばあちゃんと一緒に働いています。 お父さんは、この農場で、荷物運び、肥料まきや雑草取りなどの仕事をしています。 私たちの家族は、みんなこの農場で生まれて、紅茶の仕事をしているんですよ。

仕事の時間は、毎日朝7時くらいから夕方5時くらいまでです。

休憩時間のときに、紅茶を飲んでおやつを食べながら、みんなでいろんな話をするのがとっても楽しみです。

仕事は大変だけど、1日に10kgの紅茶の葉を収穫すると300円もらえるので、とっても頑張っています。

摘み取った紅茶の葉をマネージャーが計量するときは、いつもドキドキします。しかも、10kgより多く収穫したら、1kgにつき7円もらえるんです。

毎週日曜日はお休みです。お休みの日は、家族みんなでお寺へ行ったり、お友達と歌を歌ったり、ダンスをしたりして楽しい 1 日を過ごします。

平日は雨の日も仕事はありますよ。仕事が休みになったら、その日はお給料をもらえないので、休みたくありません。

病気やけがをしてしまうと、働けなくなるので、カゼをひいたりしないように気をつけていますよ。

あなたは、将来どんな仕事をするのですか? 今、頑張っていることは何ですか? いろいろあなたのことを教えてくれたらうれしいです。

あなたが幸せでありますように

平成 23 年度 教師海外研修 (派遣国: スリランカ民主社会主義共和国) 指導案

1.	単元名(活動名): 「見て、聞いて、飲んで、	、触って、匂いを感じ	て、五感で	知る!スリ	ランカ!」						
2,	対 象:札幌新陽高等学校	3. 学習領域									
	1年3組(33名) ·		1	2	3	4					
	授業者:佐藤 歩	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生						
4.	教科との関連性: 総合的な学習の時間	B グローバル社会	相互依存	情報化							
	w☆ 白 t 1./? 4- 日 t > t 4 日 t > t 4 日 t > t 4 日 t > t 4 日 t > t 4 日 t > t 4 日 t > t 4 日 t > t 4 1 t	C 地球的課題	人権	環境	平和	別 発					
		D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加						
5.	実施日:2012年3月 9日 4h①	6. 時数: 3時間				.L					
	3月14日 1h②										
	3月15日 3h③										
7.	単元の目標(評価の観点を意識して設定):			ーワード: こと違い	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						

・文化、習慣、生活

9. 単元について (教材観、単元設定の理由、開発教育/国際理解教育の視点等):

|・【関心・意欲】スリランカの文化・習慣・生活に関心を持つ。

を振り返ることができる。

・【知識・理解】スリランカの子ども達の暮らしや考え方を理解する。

・【技能】スリランカの人々の暮らしにおける相違点に気付き、自分の生活

今回の授業を通し、「スリランカ」という、生徒が今まで知り得なかった国に、自分たちとの共通点や相違点があることや、ものや習慣には歴史や文化が関わっての理由や背景があることを、生徒達自身で感じ、気づき、考えて欲しいと思う。また、より深くスリランカに興味・関心を持ってもらうために、同世代のスリランカの学生のへのアンケートやインタビュー結果を利用し、他人事ではなく、より自分のこことして考えて欲しい。そして今回、授業者が現地で学んだ喜び・面白さを、可能な限り生徒に「生の情報」として届けたいため、"五感"で知ってもらえるよう留意したい。生徒たちと現地に行って学ぶことはできないが、「見る」「聴く」「味わう」「匂いをかぐ」「触れる」ことで、生徒に最大限の良い刺激を提供し、それぞれの生徒の視野を広げることや、自身の新たな思考・興味、さらには将来に繋がる契機づくりの助けとなることを目指したい。

10. 展開計画(3時間扱い)

展開順

1

主な学習活動と学習者 (児童生徒) の意識

《 スリランカの「物」を知る ≫ ~見て、聞いて知る~

【 グループワーク 】

・代表者を決定…各班に9つの宝石の写真入りの封筒を配布。

封筒から宝石の写真を出して、一人一つを選んで下さい。 私も一つ選びます。では私と同じ宝石を選んだ人が今日の 各グループの代表となります。代表に決まった人は、この シールを額にシールを付けてください。

スリランカの文字はどれでしょう?

- ・それぞれの分野ごとにまとめた写真を封筒に入れて配布。
- ・グループで、①の写真の束から選、その理由も考える。
- グループ毎に発表する。

☆②~⑥まで同様に

- ①言語…シンハラ・タミルの他、日本の古代文字、マヤ文字を 含む
- ②水田…スリランカ、日本、タイ、カンボジア
- ③店 …スリランカ、日本、アメリカ、タイのマクドナル ドの朝食メニュー (朝マック)
- ④動物…スリランカ、タイ、日本の犬やサル、野鳥、ゾウ
- ⑤道路…スリランカ、日本、タイ、の標識・車・など
- ⑥世界遺産…1枚を知床の写真、その他4枚は全てスリランカ の世界遺産を提示。
- ⑦ 音楽…

スリランカの音楽はどれでしょう?

- 1. スリランカの伝統的な音楽とインドの音楽を聴き比べ、グループで話し合って決め、発表する。
- 2. 同様に、スリランカのマイケル・ジャクソン似の歌手の曲と、マイケル・ジャクソンの曲を聴き比べ、発表する。

では、今日の授業を受けて、感想を書いて下さい。

留意点など

- ・授業者はサリーを着る
- ・グループについては事前に連絡。 (7人×2、6人×3のA~E)
- ・なぜ宝石で決定するかは説明しない。 (後日、授業で扱う)



- ・各分野にはスリランカの写真を多め に入れる。
- ・「違い」を感じてもらう時には、授業 者から面白いエピソードを話し、「変 だ」という印象が残らぬよう注意
- ・補足は違いを強調するよりも、生徒 が興味を持ちやすいエピソードを話 す。
- ・①~選択、発表⇒補足…同様に⑥迄

(3)

(T)

(2)

(4)

(5)



6

(一部例)

・「どちらかがインドの音楽」「片方はマイケル・ジャクソン」といったことは特に言及しないで自由に考えさせる。

プリントI配布

≪ スリランカの文化・習慣を知る ≫ ~匂いを感じて、飲んで、触れて~

スリランカのお茶はどれでしょう?

- ・3 種類のお茶をソムリエに成ったつもりで、匂いを嗅ぎ、試飲をして味を比べる。
- ・グループで話し合い、スリランカのお茶を選ぶ。
- グループ毎に発表する

実は日本でよく飲まれる3つのお茶は葉が同じで加工方 法が異なるだけなのですが…その3つとは何でしょう?

(生徒の答えを待って)「乾燥させる!」「蒸す!」…どれ も同じ木の葉から作られていることを説明する。

この女性は何をしているのでしょう?

「畑仕事!」「茶摘み!」

この女性の額の印は何でしょう?

- ・プリントに記入したのち、発表する。
- ・民族の違いも含めて簡単に補足説明。

先ほどの写真との共通点は何でしょう?

・プリントに記入したのち、発表する。

- ☆グループの代表者は前時と同じ方 法で決定。
- ・授業開始前に前時と同様にグループ ごとに着席させる。
- ①市販の紅茶 (午後の紅茶)
- ②紅茶 (スリランカ原産のセイロン ティー)
- ③煎茶(スリランカで購入したもの)
- ・①は茶葉の原産地がスリランカ、③はスリランカで買ったものであること、を説明して、パッケージを回す。
- ・加工方法は、緑茶は葉を乾燥させた のみ、ウーロン茶は半発酵、紅茶は 発酵。
- ・茶摘みの労働者の女性の写真を各グ ループに配布。



① ワークシート①配布

- ・労働者は、インド系のタミル人の女 性たち。
- ・既婚者はその印として額に赤い粉などをつける。夫以外の人に仕えないという意味。
- ・また、タミル人の多くはヒンドゥー教。額は人間の中枢で、体の中でも神聖な所で特別な力があり、第三の目として示す意味もある。最近は、オシャレの意味合いもある。
- ・額に印が描かれたシンハラ人の子ど もの写真を配布。



②ワークシート②配布

女性の着ている服を何というか知っていますか?

- サリーについて説明する。
- ・着てみたい生徒に着せる。
- ・サリー布で作られたバッグも回す。

これは何をしているところでしょう?

・答えが出なさそうなら、ヒントとして宝石の写真を見せる。

なんと、スリランカではこの写真と同じことをすると死刑 になってしまいます!それはなぜでしょう?

・グループで話し合ったのち、発表する。

スリランカでは宝石一つ一つに意味や役割があります。(1時間目にも登場しましたね。)家の基礎に宝石を埋めたのは、お守りとしてのもので、人が身に付ける場合は占星術(星占い)で身に付ける石を決めるのです。それがいわゆる、"ラッキーストーン"です。

占星術では他にどんなことを決めると思いますか?(挙手) 「今日の運勢!」「将来について!」「結婚!」

そうですね、結婚も占って決めます。また、子供の名前や 仕事運、お金についても占いによることが多くあります。

この方はバスの運転手さんですが、バスが停車中、虫に気が付きました、すると…皆ならどうしますか? (生徒の答えを待って)「たたく!」「殺虫剤!」…ところがこの運転手さんはそっとつかんで外へ逃がしてあげました。さて、なぜでしょう?

・グループで話し合ったのち、発表する。

前回の授業からスリランカの人々やスリランカという国の印象がどう変化したかを用紙に記入して提出して下さい。

- ・シンハラ人の子供の額の印は目が3 つに見えることで悪魔が「可愛くない」と思い、悪いことをしないよう にするため。建設中の家に案山子を 取り付け、魔除けにしたりもする。
- ・用意しておいたサリーを広げて一枚 の布だと分かるように見せる。
- ・サリーを着た生徒は各グループへ
- ・宝石を掘っている写真を配布。
- ・ワークシート③配布



「宝石がたくさんとれるからダメ」という答えがでたら、「じゃあなぜダメか?」と挙手で答えを聞く。

⇒解説+宝石の写真を見せる



- ・占星術で決まる事柄をいくつか挙げる。
- ・運転手の写真+虫の写真
- ・ワークシート④配布





- ・例えばスリランカは仏教徒が多い国 であることなど、予備知識は与えず に、まずは自由に発表させる
- ・仏教国であることを解説し、仏歯寺 等の写真を見せ、補足。



・プリントⅡ配布

3

≪ スリランカの子ども・高校生の生活を知る! ≫

各自の小学校5年生の頃の生活を書いてみましょう

- (1) 朝は何時起き?
- (2) 放課後はどんな事をして遊ぶのが好き?
- (3) 家では、手伝いは○○をする。
- (4) ○○すると親に怒られる/褒められる
- (5) 大切なもの(物・ひと・その他)は?
- (6) 将来は○○になりたい。
- ・グループ内で互いのプリントを見せ合って相違点を探す。
- 各グループから発表する。

ルワン・スリ・ポポドゥ君 (11 歳) の自己紹介を 予想しましょう

(内容は上記の(1)~(6)と同じ)

各グループから発表する。

≪ スリランカのミルクティで Tea Break ≫

・昨日飲んだものと同じ葉でミルクティーを用意する。 スリランカでは辛い食べ物が多く、紅茶はミルクと沢山の砂糖 を入れて甘くして飲婿とを説明。

では続いて…これは私がスリランカへ行く前に皆に書いてもらった自己紹介カードのコピーです。どんなことを書いていたか、配布するので思い返して下さい。

(1) 趣味 (2) 将来の夢 (3) 尊敬している人 (4) 放課後の 活動 (5) 休みの日の活動

女子高校生ジャイコリさんの自己紹介を予想しましょう

- ・グループで話し合って、プリントに記入する。
- 各グループから発表する。

- ・授業開始前に前時と同様にグループ ごとに着席させる。
- ・グループの代表者は前時と同じ方 法で決定。
- ・自分の子ども時代を振り返るワーク シート①を配布。(1人1枚)
- ・各グループの相違点を確認。
- ・各班に1枚ずつ、自己紹介を考える ワークシート②を配布。



・「変」「貧しい」等の印象が残らぬよう、家族や周囲の人を大切に思う気 持ちが強いことなど話す。

・授業者がスリランカに持って行った 1-3生徒の自己紹介の内容を簡単に 紹介。思い出し、改めて考えさせる。

・各班に1枚ずつワークシート③を配 布。



- 3
- (1) 朝は○○をするため○○時に起きます。
- (2) 趣味は〇〇
- (3) 将来は○○になりたい!
- (4) 尊敬している人は○○
- (5) 放課後は○○している
- (6) 休みの目は○○している

では、皆の生活と比べてどんな相違点がありますか?

- ・生徒に自由に発言させる
- ・日本の高校生との違いと共に共通点にも気付かせる・

今日まで3時間を通して、スリランカについて色々な気付きがあったと思います。プリントに、この3時間の授業を通して、「気づいたこと、考えたこと、感じたこと」を記入して下さい。

・実際の結果を知らせ、解説。(朝が一番涼しく勉強しやすいこと等)

・プリントⅡを配布

11. 評価方法

- ・【関心・意欲】スリランカの文化・習慣・生活に関心を持つ。(観察、ワークシート)
- ・ 【知識・理解】 スリランカの子ども達の暮らしや考え方を理解する。 (観察、ワークシート)
- ・【技能】スリランカの人々の暮らしにおける相違点を発見し、その理由を考えることができる。 (観察、ワークシート)

12. 苦労した点・改善点:

もともと、「海外に何の興味もない」「日本から出たいと思わない」という生徒が多く、そういった生徒たちをどのように引き付けたらよいのか、また、グループワークを人任せにする生徒をどのように積極的に授業に参加させるか、といった点が難しく、課題である。さらに、教師の話の分量を減らし、いかに生徒たち自身が気づき、疑問に思い、考えることができるような授業展開にするかが大きな課題として残る。

13. 授業づくりのための参考資料・引用文献:

写真(研修参加者・実践者撮影)、過去に海外にて撮影した写真、インターネット上の画像

- 14. 学びの軌跡(感想文、作文、ノートなど)
 - ・発展途上国と聞いたが、思っていたよりも都会があるようで驚いた・家族を大切にしていて、スリランカの人は優しい人柄なんだと思った・日本にもスリランカの紅茶があり、スリランカにも日本の車などがあって、そんなに日本と関わりのある国だとは知らなかった・最初に思ってた印象と違っていて、行ってみたいと思った・おでこについている印はインドだけだと思っていた。子どもと大人の女の人で意味や民族も違うなんて面白いなと思う

7. 資料編

平成 23 年度教師海外研修(北海道地域)募集要項 ••••••	99
第 1 回派遣前研修プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	105
第2回派遣前研修プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	106
第 1 回帰国後研修プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	107
開発教育/国際理解教育指導者研修【実践編】プログラム・・・・・	108
開発教育/国際理解教育指導者研修【共有編】	
(兼第2回帰国後研修)プログラム・・・・・	109
平成 24 年度 開発教育支援事業スケジュール ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	110
JICA 北海道(札幌) 開発教育支援事業のご案内 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	111



【スリランカ研修のプログラム(案)】

- ●学校訪問、児童/生徒/教員との交流・インタビュー
- ●地域住民との交流・インタビュー
- ●JICA プロジェクト現場視察、青年海外協力隊活動視 察、隊員との意見交換
- ●NGO 活動現場視察
- ●市内視察

※現地受入先の事情等によりプログラムが変更となる 可能性があります。

【訪問国 スリランカ の基本情報】

正式名:スリランカ民主社会主義共和国

首 都:スリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ

言語:シンハラ語、タミル語等

宗 教:仏教、ヒンドゥー教、イスラム教、キリスト教

民 族:シンハラ人(74%)、タミル人(18%)等による多民族国家

面 積:約6万5,607km² (北海道の8割)

人 口: 2,063 万人(2010年)

一人あたり GNI: 1,790 ドル(2008年)

催:独立行政法人 国際協力機構(JICA) 主

担当機関: JICA 札幌、JICA 帯広

援:外務省、文部科学省、北海道教育委員会、

札幌市教育委員会

企画協力:大津和子(北海道教育大学教授)



1948年にイギリスからセイロン自治領として独立、1978年から現在の国名となった。インド洋に位置する 島国で、モンスーンの影響を受けた高温多湿の気候。主要産業は農業と繊維産業で、茶、ココナッツ、天然ゴム などを生産し、輸出している。民族対立による内戦が2009年に終結し、現在は復興への途上にある。

【JICA がスリランカ で実施している主な 重点協力分野】

- 1. 紛争影響地域の住民生活・社会環境改善
- 2. 経済成長のための基盤の整備
- 3、格差の是正
- 4. 気候変動への対応

【研修のねらい】

JICA は、諸外国との関係や異文化理解について、国際協力事業を通じて培った経験や人材・ネットワークを活用し、 教育活動に協力していきたいと考えています。

本研修は、国際理解教育や開発教育に関心を持つ教員及び教育委員会の指導主事等を対象に、開発教育/国際理解教育指導者研修等の国内研修と、開発途上国への海外研修を有機的に組み合わせた上で実施し、開発途上国の置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を学校現場での授業実践等を通じて次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうこと、及び研修参加後に JICA 札幌/JICA 帯広と協力し、教育現場で国際理解教育や開発教育を推進する中核となるような人材を育成することを目的に実施されるものです。

【研修日程】

	場 所	日程	内 答
派遣前研修	JICA 札幌	平成23年10月9日(日)	研修日程説明、訪問先の情報提供、過年度参加者 による体験談等
派遣前研修 ②	JICA 札幌	平成 23 年 11 月 18 日 (金)	渡航手続、現地での活動準備、役割分担の確認等
開発教育/ 国際理解教育 指導者研修	JICA 札幌 または JICA 帯広	札幌: 平成 23 年 11 月 19 日 (土) ~20 日 (日) 鞑: 平成 23 年 12 月 27 日 (火)	開発教育/国際理解教育教材作りの体験等 ※それぞれのJICA センターで開催される本研修の内、いずれ かへの参加が必須となります。
海外研修	スリランカ	平成 24 年 1 月 4 日 (水) ~1 月 15 日 (日)	学校訪問、JICA プロジェクト現場の視察、JICA 青年海外協力隊員等との意見交換、NGO 活動現場 の視察等
帰国後研修 ①	JICA 札幌	平成24年2月18日(土) ~19日(日)	モデル授業案作成に向けた準備作業
帰国後研修 ②	JICA 札幌	平成24年3月3日(土)	モデル授業案の発表(模擬授業形式)、参加者間の 意見交換 ※開発教育/国際理解教育指導者研修【共有編】と連動

【参加資格】 ※次の要件をすべて満たす方に参加資格があります。

- ① 北海道内の国公立/私立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・高等専門学校・特別支援学校に勤務する教員で、授業もしくはクラブ活動等で開発教育/国際理解教育を実践されて(する予定で)いる方、または教育委員会の指導主事等
- ② 原則として、応募締め切り時点(平成23年8月31日)で年齢が満50歳以下である方
- ③ 所属する学校の校長もしくは教頭(教育委員会の指導主事等の場合は所属部署の管理職)の推薦がある方
- ④ 開発途上国での研修旅行の全日程への参加に耐えうる健康状態であり、また本研修の趣旨・目的を十分理解し、海外研修及び国内で実施される事前事後研修の全日程(上記の日程表参照)に参加可能な方
- ⑤ 帰国後、研修報告書(帰国後 2 週間以内)及び授業実践例(JICA が設定する期日まで)を提出し、且つ、JICA のウェブサイト等にて一般公開することに同意できる方
- ⑥ 原則として、過去に本研修、JICA ボランティア、JICA 専門家、ODA 民間モニター等、外務省や JICA から海外に派遣された経験のない方
- ⑦ 将来にわたり JICA が実施する開発教育指導者研修・エッセイコンテスト等の開発教育支援事業に協力が可能な方
- ⑧ 連絡可能な E-mail アドレスを所有し、JICA が管理するメーリングリストに登録可能な方(研修にかかる情報共有ならびに帰国後のネットワークにて活用します。)

【募集人数】 11名

【応募方法および募集締め切り】

所定の応募用紙に必要事項をご記入の上、JICA 札幌/JICA 帯広「教師海外研修係」宛に

平成 23 年 8 月 31 日 (水) 必糟 でお送り下さい。

応募	JICA 札幌	下記以外の振興局管内の学校に勤務されている方。
先	JICA 帯広	十勝・釧路・根室・オホーツク振興局管内の学校に勤務されている方。

【選考】

平成23年9月16日(金)までに選考結果を通知します。

【参加費用】

参加者の個人負担と JICA の負担は、以下のとおりです。

[区分	個人負担経費	JICA負担経費					
圉	内	・食費 ・パスポート取得に係る費用 ・矛防接種料(必要に応じて) ・その他個人的な支出に係る 費 用	 派遣前及び帰国後研修に係る交通費及び宿泊費 ※当日に自合への帰着が出来ない方のみ対象 ・海外研修参加に係る交通費 注)交通費・宿泊費はJICA規定に基づきお支払いします。 ・海外研修参加に係る移動時の旅行傷害保険加入費 ・査証取得代 ・空港使用税 					
海	外	・食費(研修全行程で約20,000円*) ・宿泊費(研修全行程で約70,000円*) ・海路レートの変動等の可能性もありますので、おおよ その目安とお考えください。 ・追加保険の加入費用 ・その他個人的な支出に係る費用	・往復渡航費 ・海外旅行傷害保険加入費 ・海外での空港使用税 ・現地視察に必要な費用(車両傭上、通訳など)					

※国内での各種研修、及びそれに係る移動は旅行傷害保険の適用外ですので、必要に応じ各自でご加入下さい。

【その他注意事項】

- ① 本事業は研修旅行であり、JICA における労災保険等の適用はありません。
- ② JICA は出張命令依頼書等は作成いたしませんが、可能な限り所属先の業務出張、又は研修扱いで参加して下さい。 なお、業務出張扱いにて参加される場合は、各所属先の責任において、参加期間中の公務上災害に対する補償措置 を行ってください。
- ③ 研修の対象者として決定された場合においても、他の参加者に迷惑をかける方、決められた活動(指導者研修・報告会・報告書の提出など)に参加できない方については、国内研修中、海外研修中を問わず、研修対象者としての資格を失うことがあります。特に、海外研修中に研修対象者としての資格を失った場合、旅費・滞在費等に係るキャンセル料等は、当該者の全額負担となります。また、帰路の旅費も当該者の負担となりますのでご了承ください。
- ④ 開発教育/国際理解教育指導者研修に係る旅費は自己負担となります。
- ⑤ 研修中に事故等が起こった場合は、旅行傷害保険の範囲内において補償します(国内での研修は除く)。
- ⑥ 現地受入先の事情等により、予定していたプログラムが変更となる可能性があります。

【個人情報について】

応募書類において入手しました個人情報は、当機構にて厳重に管理し、正当な理由なく第三者への開示、譲渡および貸与することは一切ありません。ただし、当機構との間で機密保持契約を締結した第三者に対し、本研修に関する業務を委託する場合を除きます。

【報告書の提出等】

- ① 帰国後は2週間以内に研修報告書(所定様式)を提出していただきます。
- ② 研修での成果を授業またはクラブ活動等で実践した報告書を JICA が指定する期日までに提出していただきます。 なお、全ての事例を PDF 化し JICA ウェブサイトや JICA 広報誌等に掲載・一般公開* しますので、予めこ了承ください。*著作権は著作者本人に帰属

【申し込み・問い合わせ先】

JICA 札幌

住所: 〒003-8668

北海道札幌市白石区本通 16 丁目南 4-25

Tel: (011)866-8421 Fax: (011)866-8382

Mail: Tanaka-Naoki@jica.go.jp

JICA 帯広 (十勝・釧路・根室・オホーツク振興局管内)

T080-2470

北海道帯広市西 20 条南 6 丁目 1-2

Tel: (0155)35-1210 Fax: (0155)35-1250 Mail: obiotp-jocv@jica.go.jp

ご不明な点は、教師海外研修係までお気軽にお問い合わせください。

數師海外那修の流流



海外研修了自由在準備

派遣前研修電機、調陽圏の現状、開発課題等への理解を深めるとともに、現地研修での「視点」について考えます。

また、開発教育/国際理解教育指導者研修に参加いただき、実際の授業立案に向けたヒントを得ます。



訪問国におけるJICAの事業現場を 視察するとともに、青年海外協力隊 との意見交換、学校訪問、現地の人 々との交流等を通じて、訪問国の現 状、そして開発途上国をとりまく状況 について、様々な角度から考えます。



授業実践に向けた準備

帰国後研修では、海外で 得た体験や資料をもとに、 教材を作り、授業のプログ ラムを仲間と考えていきます。





開発教育/国際理解教育指導者研修と連携し、海外研修の成果を形にする過程を通して、教員間の生きたネットワークを作ることができます。

世界の人々と共に生きていくために、日本の子どもたちは何を知り、どう行動するようになればよいのか!? 研修に参加された方々は、海外での経験と国内での研修の成果を発揮しています。 詳細はJICA札幌/帯広ホームページ

詳細はJICA札幌/帯広ホームページ http://www.jica.go.jp/sapporo/ http://www.jica.go.jp/obihiro/ をご覧ください。



平成23年度 教師海外研修(スリランカ) 応募用紙

ありが	な					性	別	-	生	年	月	⊟		年_	的
氏	名			4 4 4 7 7 7 7 7 7 7 8 8 8		口 男性	± 🗆 🕏	7性	19	年	月	. 6			, e R
自 宅 住	所	T]- [[J			<u></u> 1.					L		:
電話番(固定)							番号	3							
FAX番						e-mail		۲							
渡航時(緊急連絡		氏名				続柄		7	電話番号	3			-		
でい で		<u> </u>	<u> </u>						職	名					
所属学校 (正式名)									担当教学年						
学 校 住	所	〒													
電話番	号		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			FAX	〈番号								
趣味・特	技														
		1. JICA	主催の事	業に参加	されたこ	ことがあり	りますだ),			ある	[コない		
		2.	事業にいる	つ頃参加で	されまし	たか。((1.であ	ると	答えた	方)					
		①中・高生	エッセイコ	ンテスト	(年	月)	@ そ 0	の他					
JICA主作 事業につ		②国際協力	出前講座		(年	月)					_ (年	月)
			5/国際理解 考研修	敎育	(年	月)					_ (.	. 年	月)
		④研修員の)学校訪問		(年	月)	<u> </u>	•			(年	三月)
]実体験プロタ 国際協力セ		(年	月)					(年	三 月)
	······································	既往症			ž	過去の申	込経験				海	外渡船	亢の経験	贪	
	ある		ない] ある					ある		ロない	i	
あると答え	た方に	は詳しくお	書きくだる	さい		平成		重		年	<u>国</u> 经	3			
										年	国	3			
] ない		·		年	<u>国</u> 名	3			
		Oをつけ	てください	١,	会話が 堪能	意思疎 か可能	通 簡 E 日常	単な 会話	できり	いな					
		英	語									÷	(EE) 25	-	
外国語会認	i			語					ļ		(⊿	.×30m	写真 または		×3.5cm)
		··		語									可に氏名		
私は研修の	概要、	募集要項語	己載事項を		若し、この	の研修へ	の参加を	申し	込みま	đ .					
 平成23年	<u> </u>	月	B	氏 名					(Đ					
															₩ / 在本 TER /

応募審類において入手しました個人情報は、本研修の選者および派遣業務のみに使用します。また、当該情報は当機構にて厳重に管理し、正当な理由なく第三者への開示、譲渡および貸与することは一切ありません。ただし、当機構との間で機密保持契約を締結した第三者に対し、本研修に関する業務を委託する場合を除きます。 -103-

5つの設問にお答えください。 別途ワープロ打ちでプリントすること (A4版3ページ以内)						
設問①:本研修への応募動機、または本研修に期待することをお書きください。 (400字以内) 設問②:スリランカで研修を行うにあたり、興味関心のあるテーマ・分野とその理由についてお書きください。 (400字以内)						
設問③:これまでの開発教育/国際理解教育への取り組み、またはこれからどのように取り組もうと考えているかについて お書きください。校務で国際理解教育を担当されている方は、その旨も明記してください。(1000字以内) 設問④:あなたが教育実践の中で何を大切にされているかについて、ひとこと(スローガン、座右の銘など)でお書き						
ください。 はい。 はいるなだは、本研修の経験や学びを、今後の教育活動にどのように反映させますか。また、学校や地域、同僚に対し、伝え広めていく意欲や方法について具体的にお書きください。(1000字以内)						
どのようにして本研修のことを知りましたか。 (複数回答可)						
口職場(1.上司から奨められた 2.同僚から奨められた 3.直接募集要項を受け取った 4.募集要項が回覧・掲示されていた)						
□JICA(1.JICA札幌から直接 2.JICA帯広から直接 3.JICAホームページ 4.JICA国際協力推進員 5.JICA広報誌:誌名[
□教育委員会 □各種研究会 (名称:) □						
口その他 (具体的に:						
所属する学校長もしくは教頭(指導主事等の場合は所属部署の管理職)の推薦の言葉をご記入ください。 (本欄は管理職に参加希望を認知いただいていることの確認のためにご記入いただいています。)						
<理由>						
学校名						

■本申込書の記入要領・注意事項

- ・申込書は、本用紙もしくはJICA札幌ホームページからダウンロード印刷したものに、手書きでご記入ください。
 ・設問①~⑤の回答は、各設問で指定する文字数制限内で、A4サイズの用紙3ページ以内に収まるように記入、またはプリントアウトしたものを申込書とともにお送りください。(ワープロ書式の目安:36字×35行、上下左右余白20ミリ、文字サイズ10ポイント)
 ・「年齢」は、平成23年8月31日時点の満年齢を記入してください。
 ・「Eメールアドレス」は、2、3日以内に確認が取れるものをご記入ください(学校代表アドレスでも可→その旨法・まましてください)
- 添え書きしてください)

- ・「趣味・特技」では、特に現地研修での交流で活かせるようなものがありましたら優先してご記入ください。 ・虚偽の記載があった場合は、選考後でも取り消しになることがありますので、ご注意ください。 ・申込書受取の連絡は主催者側からはしませんので、配達記録郵便の利用など各自で配達済みの確認をしてください。
- ・教師海外研修に選考されなくても、開発教育/国際理解教育指導者研修へ参加意向のある方は、お手数ですが別途申 し込みをお願いします(一般向けの募集要項、申込書がありますので、そちらにご記入の上お申し込みください)。

H23教師海外研修 第1回派遣前研修プログラム

1. 日時: 平成23年10月9日(日)9:30~

2. 会場:独立行政法人国際協力機構 札幌国際センター (JICA札幌)

2F オリエンテーションルーム

3. 目的:1) 教師海外研修の趣旨及び現地研修日程の確認

2) 研修参加者どうしの顔合わせと打合わせ(役割分担)

3) 訪問国 (スリランカ) の概要理解 4) その他事務連絡、渡航手続き等

4. プログラム:

時間		内容	担当者/講師
9:30	10分	開会挨拶・プログラム確認	JICA札幌 市民参加協力課 田中直樹
9:40	15分	参加者・関係者自己紹介	· .
9:55	20分	本研修概要、スケジュール、提出物等確認	JICA札幌 市民参加協力課 田中直樹
10:15	50分	昨年度の参加者による体験談発表 ~研修に臨むにあたり事前に準備しておくべきこと~	1122セネガル研修参加者 札幌市立福移小学校 永润純一 教諭
11:05	10分	休憩	
11:15	45分	スリランカ基本情報交流 (参加者による事前調べ内容発表、質疑応答)	スリランカ隊員OV 野々垣真実
12:00	60分	昼食・休憩 【1階JICAレストラン利用可】	
13:00	45分	スリランカ基本情報交流 (参加者による事前調べ内容発表、質疑応答)	スリランカ隊員0V 野々垣真実
13:45	60分	同行者・参加者間の打ち合わせ 役割分担決め等	JICA札幌 市民参加協力課 競達也
14:45	30分	渡航に関する事務連絡・第2回研修予定等説明	JICA札幌 市民参加協力課 田中直樹
15:15	30分	海外研修日程案の説明・検討	JICA札幌 市民参加協力課 競達也
15:45		解散	

平成23年度 教師海外研修 第2回派遣前研修プログラム

1. 日時: 平成23年11月18日(金) 13:30~17:30

2. 会場:札幌国際センター (JICA札幌) 2F 会議室1

3.目的:1) 現地研修日程の確認 2) 現地交流プログラムの打ち合わせ、準備 3) その他事務連絡、渡航手続き等

4. プログラム:

時間		内容	担当者
13:30	10分	開会挨拶・プログラム確認	JICA札幌 市民参加協力課 田中直樹
13:40	60分	JICA事業概要の説明	JICA札幌 市民参加協力課 村田俊一
14:40	30分	海外旅行保険に係る説明	JICA札幌 市民参加協力課 田中直樹
15:10	10分	休憩	
15:20	30分	海外研修日程案の説明	JICA札幌 市民参加協力課 競達也
15:50	60分	同行者・参加者間の打ち合わせ 現地交流プログラム準備等	JICA札幌 市民参加協力課 競達也
16:50	10分	休憩	
17:00	30分	事務連絡	JICA札幌 市民参加協力課 田中直樹
17:30		解散	

平成 23 年度 教師海外研修 第1回帰国後研修プログラム

- 1. 日時 平成 24 年 2 月 18 日 (土) 13:30~18:30 19 日 (日) 9:00~12:30
- 2. 会場 独立行政法人 国際協力機構 札幌国際センター(JICA 札幌) 2F オリエンテーションルーム
- 3. 目的 ①スリランカでの研修を通して収集した情報を整理、共有する。
 - ②各自が作成した授業案の共有・検討作業をとおして、よりよい教材化を行う。
 - ③3/3 実施の開発教育/国際理解教育指導者研修【共有編】での実践発表者 3 名(小学校、中学校、高等学校から 1 名ずつ)を決定する。

4. プログラム

【2月18日(土)】

時間		内容	担当者/講師	
13:30	5分	開会・プログラム確認	JICA 札幌 田中直樹	
13:35	290 分 (休憩含)	授業案の説明、及び検討 *本研修までに各自が作成した授業案を紹介し、検討することで優れ ている点や改善点を明確にする。 11 名×25 分(要旨発表 10 分+ディスカッション 15 分) * 3/3 指導者研修での発表者(3 名)を決定する。	各参加者 北海道教育大学 大津和子 教授	
18:25	5分	事務連絡	JICA 札幌 田中直樹	
18:30		第1日目終了		

【2月19日(日)】

時間		内容	担当者/講師
9:00	200 分 (休憩舎)	修正授業案による模擬授業、及び検討 *3/3 指導者研修での発表者(3名)からの模擬授業 発表 40 分+ディスカッション 20 分 × 3名 *発表者の授業案を互いに検討し合うことを通して、よりよい教材化 を目指す。	各参加者 北海道教育大学 大津和子 教授
12:20	10 分	事務連絡	JICA 札幌 田中直樹
12:30		閉会	

※授業案を各自作成し、2/16(木)までにメールでお送りいただくか、16部印刷して当日お持ちください。

平成 23 年度 開発教育/国際理解教育指導者研修『実践編』

日時: 平成 23 年 11 月 19 日(土)~20 日(日) 場所: JICA札幌 ブリーフィングルーム

[11月19日(土)] 9:00 受付開始

[11月19日(工)] 9:00 受付開始		
9:30~ 9:40	開会	
	【教師海外研修 授業実践事例発表】	
9:40~10:30	『セネガルでの取材・インタビューを活用した授業づくり』	
	発表者:札幌市立札苗北小学校 森川 祐子 教諭	
	【導入講義】	
10:30~11:00	『森川実践の振り返り』	
	講師:大津 和子(D-net/北海道教育大学教授)	
11:00~11:10	休憩	
	【リソースパーソンからの情報収集・整理】	
11:10~12:30	『国際協力の現場から教室へのメッセージ』	
11.10 12.00	リソースパーソン:(スリランカ編) 野々垣 真実 (青年海外協力隊員 OG)	
	(ナミビア編)南川 真海子(青年海外協力協会)	
12:30~13:30	昼 食	
1	【グループワーク】	
13:30~16:00	『現場からのメッセージを活用して授業案を組み立てる』	
	ファシリテーター:大津 和子(D-net/北海道教育大学教授)	
16:00~16:10	休憩	
	【講義】	
16:10~17:10	『授業分析の理論と方法』	
	講師:大津 和子(D-net/北海道教育大学教授)	

【11月20日(日)】

9:30~12:00	【授業案発表および検討会】 ファシリテーター:大津 和子(D-net/北海道教育大学教授)
12:00	アンケート記入・閉会

JICA 札幌 開発教育/国際理解教育 指導者研修【共有編】 プログラム

1. 日 時:平成24年3月3日(土)13:30~18:00

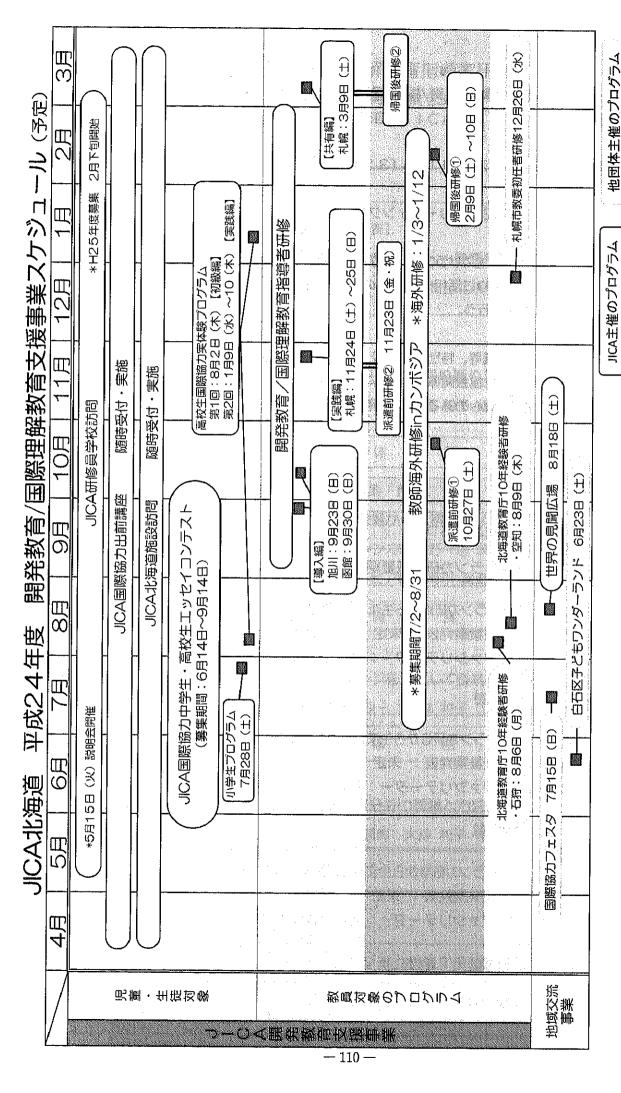
2. 会 場: JICA 札幌 2階ブリーフィングルーム

3. 目 的: 教師海外研修(スリランカ)参加者による授業案の発表(模擬授業形式)を通して、授業づくりに活用するための開発教育/国際理解教育の実践に係る手法、課題等の共有を行う。

4. 対象・定員: 小、中、高等、特別支援学校教員、教育委員会関係者、NGO/NPO 関係者、 地域国際化協会関係者、JICA ボランティア OB・OG 等で開発教育・国際理 解教育に関心のある方、30 名程度。

5. プログラム:

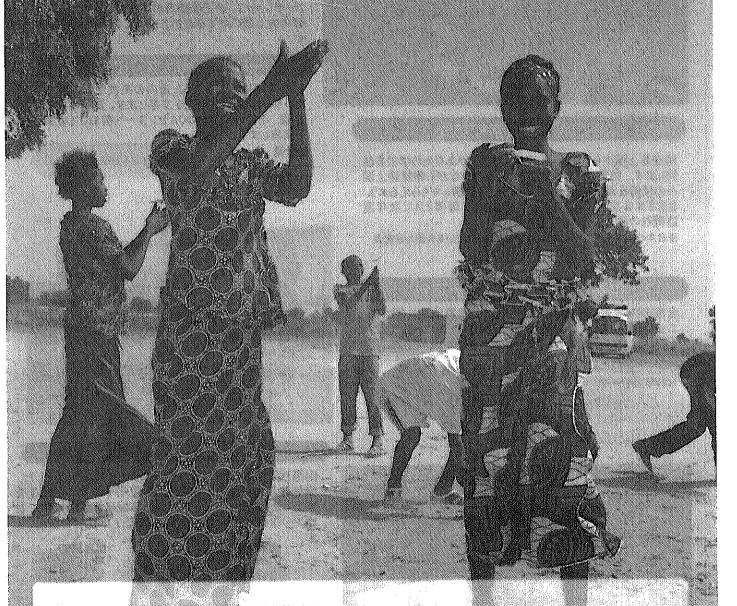
時 間	内容
13:30~13:35	開会あいさつ
13:35~13:50	スリランカ研修概要紹介
13:50~14:55 模擬授業:45分 討議:20分	スリランカ研修から生まれた授業案体験ワークショップ①【小学校編】 授業案発表: 未定 ファシリテーター:北海道教育大学 大津和子 教授
14:55~15:05	休憩
15:05~16:15 模擬授業:50分 討議:20分	スリランカ研修から生まれた授業案体験ワークショップ②【中学校編】 授業案発表: 未定 ファシリテーター:北海道教育大学 大津和子 教授
16:15~16:25	休憩
16:25~17:35 模擬授業:50分 討議:20分	スリランカ研修から生まれた授業案体験ワークショップ③【高校編】 授業案発表: 未定 ファシリテーター:北海道教育大学 大津和子 教授
17:35~18:00	研修総括·意見交換。
18:00	閉会



国際協力機構
北海道国際センター(JICA北海道) 【札幌窓口】(公社)青年海外協力協会 【旭川デスク】国際協力推進員 【図館デスク】国際協力推進員 ★お問い合わせは・・・独立行政法人

TEL:011-866-1515 FAX:011-866-1516 E-mail:hokkaido@joca.or.jp TEL/FAX: 0166-27-1590 E-mail: jica-asa@atlas.plala.or.jp TEL: 0138-22-0770 FAX: 0138-22-0660 E-mail: jicadpd-desk-

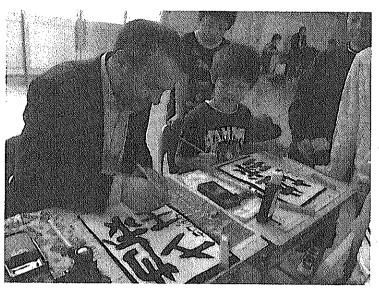
子ども定ちに伝えたい 世界の広さと人々の優しさがあります



JICA北海道は国際理解教育を支援しています

JICAは国際協力事業を通じて培った経験や人材・ネットワークを活用し、諸外国との関係や異文化理解など、今後ますますグローバル化する教育活動に対して積極的に協力していきたいと考えています。

これからの国際社会に通用する地球的視野と主体的な行動力を持ったグローバル人材の育成のために、JICAで世界へのトビラを開いてみませんか?



JICA研修員学校訪問

開発途上国から来日中のJICA研修員※があなたの学校を訪問します。児童・生徒のみなさんが楽しみながら開発途上国への理解を深め、国際協力の大切さを認識してもらえるよう、さまざまな交流プログラムを実施します。毎年2月に次年度訪問校の募集を行っています。

※日本の技術を学ぶためにJICA北海道に滞在している外国人研修員

中高生エッセイコンテスト

全国の中学生、高校生を対象として、国際協力に関する エッセイを募集しています。地球の仲間のために、日本が、 そして私たち一人ひとりがどう行動すべきかについて、想いを 伝えてください。

H24年度テーマ

これからの日本、これからの世界 ~私たちができること~ 応募締切

9/14



※詳細はお問い合わせください。 公益社団法人 青年海外協力協会 〒003-0026 札幌市白石区本通16丁目南4-25 独立行政法人 国際協力機構 北海道国際センター(JICA北海道)内 TEL:011-866-1515 FAX:011-866-1516 E-mail:hokkaido@joca.or.jp

平成24年度JICA国際理解教育支援事業

国際協力出前講座

実際に開発途上国で活動してきたJICAボランティア経験者やJICA職員を講師として派遣し、体験を伝えることで途上国の様子や、現地での活動体験、国際協力について学ぶことができます。

JICA北海道センター訪問

JICA施設見学や、国際協力についての理解を深めるワークショップ、途上国援助の現場の紹介などを通して、開発途上国に対する理解を深めてもらう活動をしています。

高校生国際協力プログラム

国際協力に興味をもった道内の高校生がJICA北海道センターに集まり、意見を交換します。夏休み期間に初級編、冬休み期間はJICAセンターへ宿泊しての実践編を実施します。 実践編

初級編

H25年 1/9~1/10

8/2



教師海外研修

国際理解教育に取り組んでいる教員の方々を対象とした、開発途上国における国際協力の現場や人々の生活を視察する研修プログラムです。事前・事後研修とあわせて、現地での取材や体験をもとにしたオリジナル教材を作成しませ

海外研修期間

応募締切

8/31

H25年1/3~1/12

国際理解教育指導者研修

ワークショップへの参加や教材の分析等を通して、国際理解教育を実践するためのスキルアップを図ります。私たちの生活と開発途上国とのつながりや開発途上国が抱える問題への理解を促すと共に、教員同士のネットワークを活かして学校現場における国際理解教育実践の推進を目指します。

導入縄(旭川)。

実践編(札幌) 11/24~

9/23 導入編(図館) 9/30 11/25 共有編(札幌)

3/9





Japan International Cooperation Agency

| |